

令和6年第3回
教育委員会定例会教育長報告

令和6年3月26日（火）

- | | | |
|---|---------------------------------------|-----|
| 1 | 令和6年第1回市議会定例会一般質問対応状況について | 資料1 |
| 2 | 令和6年度教育予算（学校給食費無償化）について | 資料2 |
| 3 | 令和5年度武蔵村山市立学校教員研修「輝きアップ研修」受講申請等一覧について | 資料3 |
| 4 | 令和5年度教員の研究・研修活動について | 資料4 |
| 5 | 令和5年度授業改善推進プランについて | 資料5 |
| 6 | 令和5年度武蔵村山市立学校学校評価結果について | 資料6 |
| 7 | 第26回生涯学習フェスティバルの開催結果について | 資料7 |
| 8 | その他 | |

令和6年第1回市議会定例会一般質問対応状況について

質 問 者	質 問 事 項	質 問 要 旨	答 弁 要 旨
1 清 水 議 員 (新政会)	新たに始まる不登校支援について	令和6年4月から始まる、不登校対応の巡回指導教員による巡回、第三中学校に設置される、不登校生徒対象のチャレンジクラスについて伺う。	令和6年度から開始される東京都の不登校施策を受け、本市では、市内中学校の不登校生徒に対応する巡回指導教員を配置いたします。また、第三中学校に東京都型不登校特例校のチャレンジクラスを設置し、不登校生徒に、より細やかな支援を行ってまいります。
2 石 黒 議 員 (公明党)	屋外体験学習広場について	①利用人数と主な利用内容。	利用人数につきましては、令和4年度は76団体629人となっており、主な利用内容につきましては、青少年が所属する文化・スポーツ団体等が、野外活動を通じた体験学習として、テントを設営し、バーベキューなどを行っております。
		②テント泊等、泊りでの利用状況。	1泊以上での利用状況でございますが、令和4年度は、76団体中47団体でございました。
		③山を切り開いてエリアの拡張ができないか。	山を切り開いてのエリアの拡張につきましては、総合運動公園整備事業用地の一部を暫定活用していることから、難しいと考えております。
		④広場を囲うフェンスの設置状況。	広場を囲うフェンスにつきましては、老朽化していることは認識しており、令和5年度の公民館講座等で体験学習を通して、参加者による改修を予定しておりました。しかしながら、講師の調整等ができず実施できなかったことから、今後、職員による改修等を考えておりますので、御理解を賜りますようお願いいたします。
3 藤 枝 議 員 (日本共産党)	学校給食費の保護者負担軽減を	①26市における給食無償化の進捗状況。	令和6年度に学校給食費の無償化を予定している26市の状況につきましては、令和6年2月末日で、立川市、三鷹市、青梅市、府中市、昭島市、調布市、福生市、狛江市、西東京市及び本市の10市、また、第2子以降が町田市及び羽村市の2市、第3子以降が小平市であると認識しております。ただし、実施に向けて調整中であるとする市もございます。

質 問 者	質 問 事 項	質 問 要 旨	答 弁 要 旨
		②公立学校給食費負担軽減事業の概要。	東京都が公表した資料によると、区市町村が学校給食費の保護者負担の軽減に取り組む場合に、その財政負担の2分の1を東京都が支援をする事業となります。
		③本市でも完全無償化もしくは多子軽減を実施すべきでは。	学校給食費の無償化につきましては、令和6年度一般会計当初予算に計上し、実施に向けた事務手続に着手したところでございます。
4 土 田 議 員 (新政会)	市立野山北公園について	プールや運動場設備の老朽化が著しい。誰もが安全に利用できる環境整備は早急に必要であると考えるが、今後の管理計画や施設の在り方について伺う。	野山北公園プールにつきましては、昭和52年開設以来、40年以上経過し老朽化している状況ですが、必要に応じて部分的に修繕を行いながら適切に維持管理に努めております。 また、野山北公園運動場につきましては、現在、取り外し式フェンスの改修工事を実施しており、年度内に完了する予定でございます。 今後の計画や施設の在り方につきましては、武蔵村山市施設保全計画（個別施設計画）に基づき、野山北公園プールについては、令和8年度までに、方向性を決定してまいります。 また、野山北公園運動場につきましては、定期的に点検を実施するほか、必要に応じて改修等を行ってまいります。
5 波多野 議 員 (新政会)	市の学力調査を踏まえた、より良い学校教育について	小学校4年生・5年生、中学校1年生・2年生を対象に市の「学力向上を図るための調査」が実施された。調査結果と学校教育の改善・充実状況等を伺う。	調査結果でございますが、市の平均正答率は小学校第4学年国語は49.7%、算数は47.0%、小学校第5学年国語は59.3%、算数は43.4%、中学校第1学年国語は53.8%、数学が51.6%、中学校第2学年国語は58.7%、数学は42.5%でした。 今年度、教育委員会では、児童・生徒の苦手な領域等について分析し、分析結果に基づいた学習支援の充実及び授業改善を図ること等を、学力向上推進委員会を通じて各校に指導・助言してまいりました。その結果、中学校第1学年数学においては、全国平均正答率に対する充足率が96.1%となり、基礎・基本の定着が一定程度見られました。 今後も意識調査を含む調査結果から

質 問 者	質 問 事 項	質 問 要 旨	答 弁 要 旨
			課題の把握に努め、基礎・基本の定着に向けた取組の充実及び授業改善が図られるよう各校に指導してまいります。
6 木 村 議 員 (市民の力)	低学年児童の男女同室での更衣について	小学校低学年が男女同室で体育着や水着に着替えていることについて、児童のプライバシーに配慮し改善すべきという声があるが、市の考えを伺う。	小学校低学年における体育着の着替えにつきましては、多くの学校で男女同室としております。また、水泳につきましては、男女別室としております。 教育委員会といたしましては、発達段階に応じて対応するよう、学校に指導してまいりますので、御理解を賜りますようお願いいたします。
7 田 村 議 員 (日本共産党)	教職員の長時間労働の解消について	①本市の各学校の教職員の定数と充足状況を伺う。	市内小・中学校の教職員定数と充足率につきましては、小学校229人、中学校131人、計360人となっており、充足率は99.2%でございます。
		②1日平均の勤務時間及び最高勤務時間は。	1日の勤務時間の平均につきましては、令和4年度調査で、小学校では9時間30分、中学校では9時間23分となっております。また、在校時間の最長時間につきましては、小学校では16時間36分、中学校では14時間53分となっております。
		③授業準備はいつ行い、時間の保証はなされているか。	教員の授業準備につきましては、会議等の精選を行い、放課後に授業準備の時間を確保しております。また、夏季休業期間中においては研修とともに、授業準備に当たっております。 教育委員会といたしましては、引き続き教員の負担軽減策を推進してまいります。

令和 6 年度教育予算（学校給食費無償化）について

1 歳入

(千円)

款	項	目	令和 6 年度 予算額 (学校給食費無償化反映)	令和 6 年度 予算額	比較増減
1 6	都支出金		251, 493	118, 018	133, 475
	2	都補助金	247, 471	113, 996	133, 475
		8 教育費都補助金	247, 471	113, 996	133, 475
		歳入合計	3, 225, 308	3, 091, 833	133, 475

2 歳出

(千円)

款	項	目	令和 6 年度 予算額 (学校給食費無償化反映)	令和 6 年度 予算額	比較増減
9	教育費		3, 223, 369	2, 997, 382	225, 987
	1	教育総務費	635, 184	676, 148	△40, 964
		5 教育援助費	75, 352	116, 316	△40, 964
	6	保健体育費	761, 245	494, 294	266, 951
		4 学校給食費	622, 812	355, 861	266, 951
		歳出合計	7, 528, 525	7, 302, 538	225, 987

令和 6 年 3 月 2 6 日
教 育 指 導 課

令和 5 年度武蔵村山市立学校教員研修「輝きアップ研修」受講申請等一覧

	学校名	申請者名	職名	申請研修名	研修日	研修期間	研修場所
1	小中一貫校 村山学園	外川 俊太郎	教 諭	一般社団法人日本LD学会第32回大会	令和5年10月8日	1日	広島国際会議場 広島市文化交流会館
2	大南学園 第四中学校	松本 賢	主任教諭	第56回全国中学校社会科教育研究大会 栃木大会	令和5年11月10日	1日	ライトキューブ 宇都宮
3	第十小学校	今井 一馬	副 校 長	広島県福山市「常石ともに学園」視察	令和5年12月12日	1日	常石ともに学園
4	小中一貫校 村山学園	渡邊 光	教 諭	日本数学教育学会 第56回秋期研究大会	令和5年11月18日 ～11月19日	2日	静岡大学 キャンパス
5				日本数学教育学会 第59回研究発表会	令和5年12月16日 ～12月17日	2日	福岡教育大学
6	小・中学校	6 名		日本語検定	令和5年11月10日	1日	武蔵村山市役所

令和5年度 教員の研究・研修活動について

研究事業		所属校	職名	氏名	教科等	研究テーマ等
教育研究員		第五中学校	主任教諭	川 原 啓 嗣	特別支援教育	発達障害のある児童・生徒が 自分の良さや強みを見付ける指導の工夫 ～自己の理解を深め、自己肯定感を育む指導～
東京教師道場	2 年次	第八小学校	教 諭	小 原 慶 子	国 語	「～したい」が続く単元づくり
		第八小学校	教 諭	相 馬 沙 羅	社 会	児童の実態に合わせた教材づくり
		第十小学校	教 諭	高 田 博 法	外国語活動 ・外国語	主体的・対話的で深い学びの実現に向けて ～授業者の指導の改善、児童の学習改善につながる評価を通じて～
		第一中学校	教 諭	小暮 裕佳里	英 語	自立した学習者を育てる ～自己表現を引き出す指導の工夫～
		第三中学校	教 諭	伊 藤 千 紘	社 会	魅力ある単元をどう構成するか ～問い、単元を貫く学習課題に着目して～
	1 年次	第八小学校	教 諭	塚 野 雪 絵	算 数	子供の可能性を引き出す指導の工夫 ～学び合い、深め合い、楽しんで学ぶ算数の授業～
		第八小学校	教 諭	佐々木 佑	特別支援教育	児童理解と指導の一体化
		第十小学校	教 諭	高 木 駿 平	体 育	なりたい自分に向かって、仲間とともに学びを深めていく 体育学習
		第十小学校	教 諭	久保田 萌海	理 科	児童が主体的、対話的に学び続ける授業づくり
		第三中学校	教 諭	須 崎 亮	数 学	生徒の発言を生かし、生徒が学びを深める指導の工夫



令和 6 年 3 月 26 日

武蔵村山市教育委員会



— 目次 —

1	第一小学校	2
2	第二小学校	6
3	第三小学校	8
4	第八小学校	10
5	第九小学校	12
6	第十小学校	14
7	雷塚小学校	16
8	村山学園	20
9	大南学園第七小学校	26
10	大南学園第四中学校	28
11	第一中学校	30
12	第三中学校	33
13	第五中学校	35

授業改善推進プランの見方

令和5年度授業改善推進プラン【国語、算数・数学】					学校名 武蔵村山市立〇〇学校		
② 1年	③【目指す授業】		①				
	④【児童・生徒の実態・課題】			⑤【具体的な手だて】			
	⑥【評価指標】			6月	目標値	2月	
				%	%	% ⑦	
				%	%	% ⑧	
	⑧【評価】	【成果と課題】					
		○					
		○					

- ① 教科名…国語、算数・数学を作成対象教科としている。
- ② 学年…小学校第4学年から第6学年、中学校第1学年から第3学年、中学部第7学年から第9学年までを作成対象学年としている。
- ③ 目指す授業…各校で定めた改善の方向性を示している。
- ④ 児童・生徒の実態・課題…各校の児童・生徒の状態、授業での様子等について記載している。
- ⑤ 具体的な手だて…目指す授業を実現するために必要な手だてを記載している。
- ⑥ 評価指標…評価指標は令和5年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査（東京都教育委員会）」（都調査）の質問項目を引用している。
- ⑦ 数値…数値は都調査の結果の肯定的評価（「1」または「2」と回答）の合計の割合とする。2月の数値は、各校で2月中旬までに生徒向けにアンケートを実施し、肯定的評価（「1」または「2」と回答）を集計した結果とする。（現時点未入力）
- ⑧ 評価…目標達成は「A」、目標未達成だが、数値が改善した場合は「B」、数値の改善が見られなかった場合は「C」で示すこととする。（現時点未入力）

令和5年度授業改善推進プラン【国語】

学校名 武蔵村山市立第一小学校

4 年	【目指す授業】	言葉を手がかりに正しく読み取るとともに、自分の考えを言葉を選びながら根拠とともに表現できる授業		
	児童の実態・課題		具体的な手だて	
	○読み取るための技能や、読み深めるための視点の捉え方に課題がある。 ○読み取ったこと、考えたことなどを自分の言葉で表現できない児童が多い。		○自分の感じたことや考えたことを、小グループで交流してから学級全体で共有をする。 ○接続詞、順序を表す言葉、問い、答え等に注目し、線を引かせる。	
	評価指標		6 月	目標値 2 月
	文章を理解するために大切だと思った部分に線を引きながら読んでいる。		6 4 %	7 0 % 6 9 %
	文章を読んで理解したことや考えたことなどを他の人に説明している。		6 4 %	7 0 % 8 0 %
	【評価】	成果と課題		
	A	○自分の考えを発表する姿が見られるようになった。 ○読み取るための技能の定着は不十分だった。		

5 年	【目指す授業】	学習内容を確実におさえ、問題の意図をきちんと読み取りながら考えを表現する授業		
	児童の実態・課題		具体的な手だて	
	○漢字の読み書きの習得率が低く、習得するための学習が習慣化できていない。 ○問題文等で聞かれている内容やその意図を理解できていない。		○文章を書く際には、既習の漢字を使うことを継続して指導し、漢字のもつ意味を考えて使う習慣付けをする。 ○大切な部分や問われている部分などに線を引く習慣を付け、問題の意図を読み取る習慣付けをする。	
	評価指標		6 月	目標値 2 月
	似た意味や反対の意味の漢字、使われている熟語などを確かめながら覚えている。		53 %	70 % 6 4 %
	文章を理解できるように、大切だと思った部分や疑問に思った部分に線を引きながら読んでいる。		64 %	70 % 5 8 %
	【評価】	成果と課題		
	C	○漢字を習得する際には意味等を意識して、覚えようとする姿が見られるようになってきた。 ○線を引きながら、読むことに関してはあまり定着しなかった。		

6 年	【目指す授業】	知識・技能を使って、自分の思いを表現する授業		
	児童の実態・課題		具体的な手だて	
	○知識の習得の習慣化やそれを用いて、表現することや粘り強く学習に取り組む姿勢に課題がある。また、文章作成において始めと終わりの流れを意識することや自分の考えを明確に書くことに課題がある。		○自分が書いた文章を読み返し、分かりやすい表現になるように書き直す。 ○他の人が書いた文章のよい点を取り入れ共有する。 ○粘り強く取り組んでいる児童を価値付け、学級に広げていく。	
	評価指標		6 月	目標値 2 月
	自分が書いた文章を読み返し、分かりやすい表現になるように書き直している。		74%	80% 7 2 %
	他の人が書いた文章のよい点を取り入れて書くようにしている。		74%	80% 8 2 %
	【評価】	成果と課題		
	B	○他の人の文を読んで、よいところを取り入れようとする姿が見られるようになってきた。 ○自分の書いた文章を読み返して、書き直すまでには至っていない。		

令和5年度授業改善推進プラン【算数】

学校名 武蔵村山市立第一小学校

4 年	【目指す授業】	児童が納得しながら、自ら課題を解決する授業		
	児童の実態・課題		具体的な手だて	
	○加減乗除の計算について、理解が不足している児童が多い。 ○位取りなど基礎的な事項を覚えていない児童が多い。		○毎時間授業の導入段階で既習事項を丁寧に確認する。 ○復習する機会を増やす。	
	評価指標		6 月	目標値
	算数で学習する言葉や公式は見なくても言えるようにしている。		72%	80%
	【評価】	成果と課題		
A		○大事な事項については、覚えようとする児童が見られるようになってきた。 ○位取りなど基礎的な事項が定着していない児童はまだ多い。		

5 年	【目指す授業】	既習事項を生かして、学習を進めることができる授業		
	児童の実態・課題		具体的な手だて	
	○4年生までの四則計算は比較的身につけているが、5年生で学習した小数のわり算については、課題のある児童が見られた。		○既習事項を確認するとともに、新しく学習すべきことは何か、意識的に確認するようにする。	
	評価指標		6 月	目標値
	算数の授業はどれくらい得意ですか。		70%	75%
	【評価】	成果と課題		
C		○落ち着いて学習し、意欲的に取り組む児童が見られた。 ○5年生で学習する内容の理解が不十分な児童にとっては、達成感が下がってしまった。		

6 年	【目指す授業】	何を求めるのかを文字から意識しながら学習に取り組む授業		
	児童の実態・課題		具体的な手だて	
	○計算力についてはついてきたが、文章問題で答えるべきことは何かを意識せず、単位を付けない、間違えてつける児童がいる。		○課題に取り組む際には、分かっていることは何か、求めるべきことは何かを整理してから問題に取り組ませるようにする。	
	評価指標		6 月	目標値
	分かっていることと求めることを考えて問題に取り組んでいる。		78%	80%
	【評価】	成果と課題		
A		○この課題で求めることを意識して取り組む児童が増えてきた。 ○計算等、基礎的な事項に課題がある児童はまだ多い。		

令和5年度授業改善推進プラン（特別支援学級）

武蔵村山市立第一小学校 杉の子学級（知的障害特別支援学級）

目指す授業		○ 児童自身が達成感を感じられるように、学校生活支援シートや個別指導計画に基づき、児童一人一人の特性や段階に合った学習を計画する。 ○ 全体指導と個別指導の時間配分を工夫し、学び合いと個別の学力の充実を図る。		
教科	① 児童の実態・課題	② 授業改善の取組	③ 取組結果	
国語	・低学年、中学年は、「聞く」活動について、力が定着しにくい。 ・「読む」「書く」活動について、発達段階の差が大きい。	・聞くために指導者や発表者に注目させる、目を合わせるなどの指導を、杉の子学級担任が共通理解し、低学年から積み重ねていくようにする。 ・同じ教材を使った一斉授業では、個別のワークシートを工夫し、興味をもって取り組めるようにしていく。「書く」学習については、個別指導の時間を充実させる。	・はじめに指導者に注目させることを徹底したことで、話を聞く姿勢を身に付けさせることができた。 ・読む活動では劇化をしてから個に応じたワークシートを使用することで、内容理解につながった。 ・「書く」活動では、書く分量や内容の調整を行うことで充実させることができた。	
	・学年内でも個々の学力差が大きい。 ・数の概念やかけ算、わり算等の理解が難しい。 ・理解の定着に時間がかかる。	・習熟別グループでの学習を行う。（3～6年） ・具体物や半具体物の操作を取り入れ、活動を通して四則計算の理解につなげる。 ・スモールステップで取り組む。前段階の学習内容を確認しながら理解定着につなげる。	・個に応じた指導をすることで、それぞれの習熟度に応じた学習ができた。 ・杉の子共通の具体物、半具体物を操作することで概念を通して理解させることができた。 ・個に応じて使わせる教材を工夫し使用することで、理解定着につながった。	
算数				

令和5年度授業改善推進プラン（特別支援学級）

武蔵村山市立第一小学校 さくら学級（自閉症・情緒障害特別支援学級）

目指す授業		○ 個々の課題に応じた、自立活動を行う。 ○ 各教科については通常学級の学習に準ずるが、児童の実態によっては下学年の学習を行う。 ○ 家庭と面談などを通して学習指導について共通理解する。		
教科	① 児童の実態・課題	② 授業改善の取組	③ 取組結果	
国語	・ ひらがな、カタカナが定着しておらず、正しく書くことが難しい児童がいる。 ・ 各学年に配当されている漢字の学習ができていない。	・ 個別の学習を徹底し、できていないところを繰り返し指導する。日記や作文等を書くことで文字を書く機会を意図的に作る。 ・ 個別の実態に応じて、書くことより、読むことを重視し、学年に応じた漢字学習を行う。 ・ 音読をしたり、読書をしたりする機会を増やす。	・ ことばや短文の例を示して、それを元に書かせることで徐々に作文が書けるようになった。 ・ 読みから入る指導をし、それから形、書き順、書く練習をすることで少しずつ定着をしてきた。 ・ 音読、劇などを通して、漢字が言葉と結びつくようになった。	
	・ 繰り上がり、繰り下がり、九九など基礎的な計算が定着していない児童が多い。	・ 授業中や自立活動の時間に計算問題に取り組む機会を設ける。 ・ タブレット端末を活用し、自己の課題に合った問題の習熟を図る。	・ 一斉指導で思考力をつける学習をし、計算練習の時間を設定することで習熟を図った。 ・ タブレットを使うことで、反復練習が集中してできた。	
算数				

令和5年度授業改善推進プラン【国語】

学校名 武蔵村山市立第二小学校

4 年	【目指す授業】	自分と友達の考えを大切にすることができる授業		
	児童の実態・課題		具体的な手だて	
	○漢字の練習には取り組んでいるが、漢字の部首や意味まで理解していない。 ○友達の話を聞くときに、メモ等を取らずにそのまま聞いている。		○漢字スキルを使って部首や意味なども理解し、文や文章の中でも使えるようにする。 ○「聞き取りメモの工夫」などの学習を振り返り、メモを取る習慣を付ける。	
	評価指標		6 月	目標値
	漢字の部首の意味も考えながら覚えている。		51.6%	60%
	他の人の話を聞くときは、メモを取って理解するようにしている。		51.5%	60%
	【評価】	成果と課題		
	A	○友達の考えをよく聞き、自分の考えに生かそうとする児童が増えた。 ○漢字の意味や成り立ちを考え、正確に読んだり書いたりすることに課題が残った。		

5 年	【目指す授業】	構成を意識して読み取り、適切にまとめることができる授業		
	児童の実態・課題		具体的な手だて	
	○適切な言葉を用いて、ポイントを押さえながら、話したり書いたりすることが課題である。 ○登場人物の心情や文章構成、文章の要点を読み取る力が課題である。		○文章を推敲する機会を多く設定し、段落分けや始め・中・終わりのまとまりを意識して書けるようにする。 ○イメージマップや文章構成図などを発展的・段階的に取り入れ、段落相互の関係を読み取らせる。	
	評価指標		6 月	目標値
	他の人の話を聞くときは、メモを取って理解するようにしている。		44%	50%
	文章を読んで理解したことや考えたことなどを他の人に説明している。		60%	70%
	【評価】	成果と課題		
	A	○ペアトークで聞きながらメモを取る活動を1年間継続したことで、理解が深まった。 ○文章を書く際に、既習漢字を使えていない児童が多くいる。		

6 年	【目指す授業】	文章内容を理解し、考えたことを文章や対話で説明する授業		
	児童の実態・課題		具体的な手だて	
	○漢字を覚えるだけになっており、部首や意味まで考えられていない。 ○文章中の大切な言葉に着目して内容理解し、考えたことを説明したり話し合うことに課題がある。		○漢字ドリルや教科書単元を活用して、部首や意味なども理解する。また、既習漢字との関連を図りして、漢字に興味をもたせる。 ○場面分けや段落分けの際に根拠をもたせて読ませたり、段落の関係を読み取らせたりする。	
	評価指標		6 月	目標値
	漢字の部首の意味も考えながら覚えている。		50%	70%
	文章を理解できるように、大切だと思った部分や疑問に思った部分に線を引きながら読んでいる。		59.1%	70%
	【評価】	成果と課題		
	B	○漢字の部首や意味などを理解することで関連する熟語を書くことができる児童が増えた。 ○場面分けや段落分けの際に根拠をもたせて読ませることで少しできるようになった。		

令和5年度授業改善推進プラン【算数】

学校名 武蔵村山市立第二小学校

4 年	【目指す授業】	児童が様々な方法で自分の考えを表現することができる授業		
	児童の実態・課題		具体的な手だて	
	○間違えた問題をそのままに置いて、十分に理解できてない。 ○立式や答えは出せるが、根拠となる図や表、グラフに表すことができていない。		○間違えた問題をやり直す時間を確保する。練習問題に取り組ませる等、反復練習を重ねる。 ○日頃の授業から自分の考えを図や表、グラフ、言葉などで説明する習慣を付ける。	
	評価指標		6 月	目標値
	テストやドリルでまちがえたときは、似た問題を選んで、特に練習している。		56.6%	65%
	問題文の内容を図や表、グラフに表して考えている。		63.9%	70%
	【評価】		成果と課題	
	A		○自分の考えを様々な方法で表現しようとする児童が増えた。 ○苦手な問題を粘り強く考えたり、間違えた問題を復習したりすることに課題が残った。	

5 年	【目指す授業】	問題解決の際に自分の考えを表現できる授業		
	児童の実態・課題		具体的な手だて	
	○問題解決の方法を、線分図や対応図などの具体物で表現することが課題である。 ○四則計算が、速く正確にできるようにする。		○問題解決の方法を図や数直線、グラフ線分図、対応図等で表現し、単位や情報の整理をする時間や説明し合う時間を設けるようにする。 ○ドリル、練習プリントなどに数多く取り組ませ、補習学習を中心に、基本的な計算を反復練習させる。	
	評価指標		6 月	目標値
	算数で学習する言葉や公式は、見ないでも言えるようにしている。		64%	70%
	問題文の内容を図や表、グラフに表して考えている。		56%	60%
	【評価】		成果と課題	
	A		○既習事項を使って問題を解いたり、図や絵を使って説明できたりする児童が増えた。 ○基本的な計算を正確に早く取り組むことが今後の課題である。	

6 年	【目指す授業】	問題を確実に把握し、自分の考えたことを伝えたり多様な見方で考えたりする授業		
	児童の実態・課題		具体的な手だて	
	○問題や文章題を把握し、求めることを捉えて問題に取り組むことに課題がある。 ○まちがえた場合は、どこでまちがえたのかを分析できず、自主的に復習することができない。		○問題や文章題を読み、場面や状況を友達に説明したり友達の考えを聞いたりして確実に理解できるようにする。 ○テストやドリルに取り組んだ後、なぜまちがえたのかを考える時間を設けて、復習するように促す。	
	評価指標		6 月	目標値
	算数で学習した言葉を使って自分の考え方を説明している。		62.1%	70%
	テストやドリルでまちがえたときは、似た問題を選んで、特に練習している。		59.1%	70%
	【評価】		成果と課題	
	B		○問題や文章題を読み、場面や状況を把握することが得意でなく課題である。 ○なぜまちがえたのかを考える時間を設けることで、復習することができた。	

令和5年度授業改善推進プラン【国語】

学校名 武蔵村山市立第三小学校

4 年	【目指す授業】	児童が高い意欲をもち、進んで学習に取り組む授業		
	児童の実態・課題		具体的な手だて	
	○授業やノート、日常会話の中で熟語を使ったりしている児童が少ない。 ○新出漢字の練習量に差があったり、ノートやワークシートの既習漢字を使う児童に差があったりする。		○タブレットをいつでも使えるように手の届くところに置いておくようにする。また、廊下に辞書を常時置いておくようにする。 ○毎日、家庭学習用の課題を与える。	
	評価指標		6 月	目標値
	学習していて分からない言葉があれば、すぐに調べるようにしている。		47.3%	60%
	テストやドリルでまちがえた漢字を選んで、特に練習している。		64.2%	70%
	【評価】		成果と課題	
	A		○タブレットを活用したり教科書やノートを見たりしている姿が多く見られた。 ○漢字テストを短期的な目標に繰り返し学習している児童が多かった。	

5 年	【目指す授業】	話の内容を理解し、理解したことや自分の考えを表現できる授業		
	児童の実態・課題		具体的な手だて	
	○話の内容を理解できない、イメージできない児童が多い。 ○自分の考えを他者に伝えることが苦手な児童が多い。		○既習事項の振り返りをしながら、テンポのよい授業で集中力を持続出来るようにする。 ○グループ等の少人数で考えを述べる場面やタブレットで考えを共有する場面を作る。	
	評価指標		6 月	目標値
	国語の学習はどのくらい得意ですか。		6 3 %	7 0 %
	自分が考えたことを、積極的に他の人や先生に伝えようとしている。		5 3 %	6 5 %
	【評価】		成果と課題	
	B		○漢字の学習の成果が結果につながったり、ノートではなく、タブレットを使ったりすることで意欲に繋がった。 ○語彙力が少なく、教科書に書いてあることを理解できない児童が多かった。	

6 年	【目指す授業】	45 分間、児童の学ぶ意欲が継続する授業		
	児童の実態・課題		具体的な手だて	
	○単元や領域の好き嫌いにより学習意欲の浮き沈みが激しい。 ○書くことへの抵抗感が強く、「何文字？何行？」が先行してしまう。		○導入時に児童のやる気を引き出す、ことわざや四字熟語のクイズを設定する。 ○学校行事や他教科と結び付けて単元を構成し、書くことが必然になるような課題を設定する。	
	評価指標		6 月	目標値
	国語の学習はどのくらい得意ですか。		47%	60%
	自分が書いた文章を読み返し、分かりやすい表現になるように書き直している。		67%	75%
	【評価】		成果と課題	
	B		○導入時にことわざや四字熟語などのクイズに取り組むことで言葉への関心が高まった。 ○文章を書くことへの抵抗は少なくなっているが、既習の漢字を使うことが難しい。	

令和5年度授業改善推進プラン【算数】

学校名 武蔵村山市立第三小学校

4 年	【目指す授業】	算数が楽しい、問題を解くことが楽しいと感じられる授業		
	児童の実態・課題		具体的な手だて	
	○自分の考えを説明できる児童は多いが、算数で学習した言葉や公式を使って端的に説明できる児童は少ない。		○朝学習や、家庭学習等の時間で東京ベーシックドリル（自分の苦手とする領域）に取り組む。 ○既習事項を振り返られる時間を授業導入で設定する。	
	評価指標		6 月	目標値 2 月
	算数で学習する言葉や公式は、見なくても言えるようにしている。		64.1%	75% 70%
	テストやドリルでまちがえたときは、似た問題を選んで、特に練習している。		56.6%	70% 60%
	【評価】	成果と課題		
	B	○既習事項を振り返られる時間を設定したことで、算数の言葉や公式の定着が図れた。 ○問題文の読み取りには課題が残るので、文の構成にも意識をさせたい。		

5 年	【目指す授業】	課題解決に向けて粘り強く思考する姿が見られる授業		
	児童の実態・課題		具体的な手だて	
	○解いてみたい、できそうという期待がある課題を前にすると粘り強く解決に向けて思考する姿が見られる。 ○難しそう、大変そうという問題になると意欲が下がる光景が見られる。		○課題提示で児童の興味を引き出すしかけを行う。 ⇒3 ヒントクイズや○×クイズなど ○解決につながるヒントを児童から引き出す。 ⇒ヒントに繋がるつぶやきを拾って共有	
	評価指標		6 月	目標値 2 月
	算数で学習する言葉や公式は、見なくても言えるようにしている。		55.4%	70% 60%
	算数で学習した言葉を使って、自分の考えを説明している。		61.5%	70% 65%
	【評価】	成果と課題		
	B	○児童の興味を引き出すしかけを行ったことで、粘り強く思考する姿が見られた。 ○定着に課題があるため、今後も継続して言葉にこだわった指導が必要。		

6 年	【目指す授業】	自分の考えを図や表、言葉を使って論理的に説明できる授業		
	児童の実態・課題		具体的な手だて	
	○自分の考えをノートに書くことに抵抗は少なく、しっかり思考することができる。 ⇒根拠を明確に説明できる児童はまだ多くない。		○その時間内に身に付けたい力、知識を明確にして、全体で共有する。 ⇒まとめ時にはキーワードを提示して言葉にこだわりをもてるようにする。	
	評価指標		6 月	目標値 2 月
	算数で学習した言葉を使って、自分の考えを説明している。		58.8%	70% 65%
	問題文の内容を図や表、グラフに表して考えている。		44.2%	60% 60%
	【評価】	成果と課題		
	B	○図、表、グラフにすることで分かりやすくなるということを実感させることができた。 ○習得している児童と、そうでない児童の二極化が顕著になってしまった。		

令和5年度授業改善推進プラン【国語】

学校名 武蔵村山市立第八小学校

4 年	【目指す授業】	自分の考えを言語化できる授業		
	児童の実態・課題		具体的な手だて	
	○漢字の習得が十分でない。 ○物語文・説明的文章への読解力が十分でない。 ○読書量が少ない。		○書き順の空書きや、熟語の音読に取り組ませる。 ○場面と場面を比べて読んだり、感想を伝え合ったりする授業を展開する。 ○読書旬間や図書の時間を有効に活用する。	
	評価指標		6 月	目標値
	国語の授業の内容はよく分かる。どちらかといえば分かる。		91.6%	92%
	国語の学習は得意。どちらかといえば得意。		75.9%	80%
	【評価】	成果と課題		
	B	○漢字練習は熱心に取り組めたが、日常での活用が結びつかないことが課題。 ○話し合い活動を取り入れることで、多角的に思考する態度が身に付いた。		

5 年	【目指す授業】	自分の考えを一人一人がもち、友達と交流し合える授業		
	児童の実態・課題		具体的な手だて	
	○漢字の習得が十分でない。 ○物語文への興味関心は強いが、説明的文章への読解力が十分でない。 ○読書量が少ない。		○漢字ドリルの音読を取り入れ、まず漢字を読み慣れるようにする。 ○叙述を根拠に検討し合う授業を展開する。 ○図書の時間を有効に活用する。	
	評価指標		6 月	目標値
	国語の授業の内容はよく分かる。どちらかといえば分かる。		86%	90%
	国語の学習は得意。どちらかといえば得意。		55.3%	60%
	【評価】	成果と課題		
	B	○児童同士の交流の機会を多く取り入れることで、国語への得意意識が向上した。 ○漢字の習得が十分でないため、反復して練習させていく必要がある。		

6 年	【目指す授業】	自分の考えを論理的に説明し、他者との交流から考えを深化できる授業		
	児童の実態・課題		具体的な手だて	
	○読解力が低く、自分の考えをもち、表現することに課題がある。 ○他者の考えと比較して、自身に生かすことに課題がある。		○叙述を基に、情報と情報を関連付けて読み取れるようにする。辞書や読書活動を活用して語彙を増やすなどして、表現方法を身につけさせる。 ○他者との比較をする授業展開をする。	
	評価指標		6 月	目標値
	国語の授業の内容はよく分かる。		26.2%	35%
	国語の学習は得意。どちらかといえば得意。		63%	80%
	【評価】	成果と課題		
	C	○情報を適切に選択・整理し、他者と比較しながら考えを深めることができた。 ○叙述をもとに内容を読み取り、自身に生かすことに課題が残った。		

令和5年度授業改善推進プラン【算数】

学校名 武蔵村山市立第八小学校

4 年	【目指す授業】	児童のつながりを大切にし、分かったことを伝える授業		
	児童の実態・課題		具体的な手だて	
	○基礎的な計算技能が定着していない。 ○一単位時間の学習内容の定着が十分でない。		○習熟タイムや放課後の補習教室を活用して、既習事項の定着を図る。 ○授業の最後に適用問題を取り入れ、一単位時間の学習内容の定着を図る。	
	評価指標		6 月	目標値 2 月
	算数の授業の内容はよく分かる。どちらかといえば分かる。		84.2%	90% 83.3%
	算数の学習は得意。どちらかといえば得意。		69.4%	70% 58.8%
	【評価】	成果と課題		
	B	○既習事項の習得については、成果に差が生まれた。 ○一単位時間内での定着は図れたが、その後の授業での活用に結び付かない。		

5 年	【目指す授業】	児童同士のつながりを大切にし、「できた」と実感できる授業		
	児童の実態・課題		具体的な手だて	
	○基礎的な計算技能が定着していない。 ○一単位時間の学習内容の定着が十分でない。		○習熟タイムを利用して、既習事項の定着をはかる。 ○授業の最後に適用問題を取り入れ、一単位時間の学習内容の定着を図る。	
	評価指標		6 月	目標値 2 月
	算数の授業の内容はよく分かる。どちらかといえば分かる。		81.6%	85% 82.5%
	算数の学習は得意。どちらかといえば得意。		63.2%	65% 55.4%
	【評価】	成果と課題		
	B	○数と計算の領域の習得不足により割合、単位量当たりの単元に影響している。 ○既習事項の習得が十分でないため、以前の学年の内容の習熟が必要である。		

6 年	【目指す授業】	既習を結び付け、分かったことを使い、自らの思考を広げられる授業		
	児童の実態・課題		具体的な手だて	
	○既習の内容が生かされていない。 ○計算ミスが多い。 ○問題→式や問題→図などのつながりの理解が低い。		○既習を想起させながらの授業を行う。 ○習熟タイム（東京ベーシックドリル）を活用して繰り返し練習させる。 ○問題場面が式や図と関連付けられているかを確認する。	
	評価指標		6 月	目標値 2 月
	算数の授業の内容はよく分かる。		35.9%	50% 28.3%
	算数の学習は得意。どちらかといえば得意。		55.4%	70% 51.5%
	【評価】	成果と課題		
	C	○既習事項を使って課題解決に臨もうとする児童が増えた。 ○既習事項の定着ができておらず、活用には至らなかった。		

令和5年度授業改善推進プラン【国語】

学校名 武蔵村山市立第九小学校

4 年	【目指す授業】	確かな基礎・基本をもとに、自ら問いを掴み、協働して解決しようとする授業			
	児童の実態・課題		具体的な手だて		
	○発表や意見交換などに意欲的な児童が多い。 ○家庭学習が習慣化しておらず、漢字などの基礎・基本が定着していない児童が多い。		○話し合いなど合意形成を行う機会を一層増やす。 ○学習活動の意味や効果をつかませ、目的意識をもって習熟のための練習を行えるようにする。		
	評価指標		6 月	目標値	2 月
	似た意味や反対の意味の漢字、使われている熟語などを確かめながら覚えている。		73.9%	85%	79%
	文章を読んで理解したことや考えたことなどを他の人に説明している。		65.2%	80%	70%
	【評価】	成果と課題			
B		○総合的な学習の時間等で、合意形成を図る活動を行い、その力は4月よりも伸びた。 ○家庭学習の量や質には偏りが見られ、定着しない児童もまだいる。			

5 年	【目指す授業】	確かな基礎・基本をもとに、自ら問いを掴み、協働して解決しようとする授業			
	児童の実態・課題		具体的な手だて		
	○基礎・基本の定着に大きな課題がある児童が多い。 ○見直しをしたり、他者の意見を取り入れたりして、考えや意見をよりよく変えていくことが難しい。		○漢字や読み取りをする際の基本的な技能だけでなく、文章の見直しや書き直しの方法などを細かく指導し、定着を図る。		
	評価指標		6 月	目標値	2 月
	似た意味や反対の意味の漢字、使われている熟語などを確かめながら覚えている。		47%	65%	50%
	他の人が書いた文章のよい点を取り入れて書くようにしている。		55.9%	70%	59%
	【評価】	成果と課題			
B		○読書量に開きが出てきており、読解力に差が出てきている。 ○自分のテーマについて、教科書などを参考にして、文章を書く児童が増えてきた。			

6 年	【目指す授業】	確かな基礎・基本をもとに、自ら問いを掴み、協働して解決しようとする授業			
	児童の実態・課題		具体的な手だて		
	○学習における自己調整力が低い。 ○発表や話し合いに苦手意識をもつ児童が多く、考えをもてていても伝えられない児童が多い。		○苦手なことや足りないことなど自分の現状を捉え、それをもとに学習を進める経験を増やす。 ○発表や交流の機会を多く設定する。		
	評価指標		6 月	目標値	2 月
	テストやドリルでまちがえたときは、まちがえた漢字を選んで、特に練習している。		57.8%	75%	59%
	文章を読んで理解したことや考えたことなどを他の人に説明している。		55.6%	75%	59%
	【評価】	成果と課題			
B		○評価指標は低いですが、学習の様子を見ると、積極的に話し合いや説明をできるようになった。 ○間違えた問題を繰り返し習熟するための時間確保が難しく、朝学習などを上手く活用したい。			

令和5年度授業改善推進プラン【算数】

学校名 武蔵村山市立第九小学校

4 年	【目指す授業】	確かな基礎・基本をもとに、自ら問いを掴み、協働して解決しようとする授業			
	児童の実態・課題		具体的な手だて		
	○家庭学習の習慣など、習熟のための取り組みに個人差が大きい。 ○問いの内容が理解できていない児童が見られる。		○目的意識をもって習熟のための練習に取り組めるよう意識付けを行う。 ○読み取るための技能の定着を図る。		
	評価指標		6 月	目標値	2 月
	テストやドリルでまちがえたときは、似た問題を選んで、特に練習している。		52.1%	70%	35%
	分かっていることと求めることを考えて問題に取り組んでいる。		67.4%	80%	94%
	【評価】	成果と課題			
	B	○補習や個別支援等を行い、四則計算の力等を伸ばすことができた。 ○以前、読解力には課題が見られ、問題に正対した回答ができない児童がいる。			

5 年	【目指す授業】	確かな基礎・基本をもとに、自ら問いを掴み、協働して解決しようとする授業			
	児童の実態・課題		具体的な手だて		
	○基礎・基本の計算力に課題のある児童が多い。 ○なぜ間違えたのか、どこが苦手なのかが分からない児童が多い。		○家庭学習の習慣化を含めて、習熟のための練習を繰り返す。 ○学習の振り返りを適切に行う。		
	評価指標		6 月	目標値	2 月
	問題文の内容を図や表、グラフに表して考えている。		38.3%	60%	35%
	まちがえた文章問題は、どこでまちがえたのかを考えている。		58.8%	70%	60%
	【評価】	成果と課題			
B	○読解力の差以前より大きく表れてしまうような問題が多くなってきているので、読解力を向上させたい。 ○割り算の計算、小数の計算について課題があり、家庭学習で取り組んだ。				

6 年	【目指す授業】	確かな基礎・基本をもとに、自ら問いを掴み、協働して解決しようとする授業			
	児童の実態・課題		具体的な手だて		
	○学習における自己調整力が低い。 ○計算方法など思考力が求められる発表や説明に苦手意識をもつ児童が多い。		○苦手なことや足りないことなど自分の現状を捉え、それをもとに学習を進める経験を増やす。 ○発表や互いに説明し合う機会を多く設定する。		
	評価指標		6 月	目標値	2 月
	テストやドリルでまちがえたときは、似た問題を選んで、特に練習している。		40%	70%	46%
	算数で学習した言葉を使って自分の考え方を説明している。		60%	75%	55%
	【評価】	成果と課題			
	B	○分かった問題について説明したり教え合ったりできるようになったが、それができる問題が少ない。 ○分からない問題を自分で把握できるよう、家庭学習や朝学習を工夫する必要がある。			

令和5年度授業改善推進プラン【国語】

学校名 武蔵村山市立第十小学校

4年	【目指す授業】	誰もが「わかった」と実感できる授業		
	児童の実態・課題		具体的な手だて	
	○既習済みの漢字が読めない、書けない。 ○語彙力が低い。 ○作文において、中学年として適切な文章が書けない。		○ジャーナルでの振り返りにおいて、なるべく既習の漢字を使うことや、文章構成力をつける。 ○国語辞典で分からない言葉を調べる習慣をつける。	
	評価指標		6月	目標値
	文章を理解できるように、大切だと思った部分や疑問に思った部分に線を引きながら読んでいる。		24.6%	45%
	文章を読んで理解したことや考えたことなどを他の人に説明している。		18.8%	30%
	【評価】	成果と課題		
B		○既習の漢字を使うことや、文章構成力をつける声掛けにより、能力が高まった。 ○国語辞典で分からない言葉を調べる習慣をつけることができた。		

5年	【目指す授業】	誰もが「わかった」と実感できる授業		
	児童の実態・課題		具体的な手だて	
	○学習したことが活用できていない。 ○自分に合った学習方法が分かっていない。 ○語彙力が不足しており、文章の理解ができていない。単語だけで会話をする児童が多い。 ○人の話を最後まで聞くことや、理解する力が乏しい。		○ノートを取るときには、習った漢字を使うよう指導し、辞書を引く習慣をつける。 ○ふりかえりの視点をもたせ、学習方法を選択できるようにする。 ○ブッククラブやビブリオバトルなどを通して、本に触れる機会を増やす。 ○発表活動の後には、互いにフィードバックし合う活動を設定し、相手意識をもって聞くことができるようにする。	
	評価指標		6月	目標値
	国語の授業の内容はどのくらい分かりますか。		32.0%	40.0%
	人に話を聞くとときは、メモを取って理解するようにする。		20.0%	30.0%
	【評価】	成果と課題		
B		○習った漢字を使うよう指導した結果、辞書を引く習慣が身についた。 ○ブッククラブやビブリオバトルなどを通して、本に触れる機会が増えた。		

6年	【目指す授業】	誰もが「わかった」と実感できる授業		
	児童の実態・課題		具体的な手だて	
	○漢字学習の意欲がある。 ○語彙が乏しい。 ○学習習慣が身に付いていない。		○漢字等の学習を随時行う。 ○言葉の意味を説明する。 ○家庭学習を継続的に取り組ませる。	
	評価指標		6月	目標値
	確実にできるようになるまで、くり返し練習している。		8.9%	50%
	文章を読んで理解したことや考えたことなどを他の人に説明している。		13.3%	65%
	【評価】	成果と課題		
B		○家庭学習で継続的に漢字練習に取り組ませたが、習慣は身につけていない。 ○語りの意味に興味を持つ児童が増え、質問が増えた。		

令和5年度授業改善推進プラン【算数】

学校名 武蔵村山市立第十小学校

4 年	【目指す授業】		誰もが「わかった」と実感できる授業		
	児童の実態・課題		具体的な手だて		
	○四則計算が身に付いてない。 ○自分の考えがもてない児童が多い。 ○立式に必要な数字や言葉を理解していない。		○かけ算九九の定着の為に、毎時間に数分の反復学習を行う。 ○友達のかえの真似から始めて、自分の考えをもてるようにする。 ○立式に必要な言葉集めをする。		
	評価指標		6月	目標値	2月
	算数で学習した言葉を使って自分の考え方を説明している。		27.5%	45%	40%
	分かっていることと求めることを考えて問題に取り組んでいる。		23.2%	35%	30%
	【評価】	成果と課題			
	B	○授業開始5分で四則計算や復習を行ったため、知識が定着した。 ○友達のかえを真似することで、考えが広がった。			

5 年	【目指す授業】	誰もが「わかった」と実感できる授業			
	児童の実態・課題		具体的な手だて		
	○知識の定着が浅い。 ○文章問題をよく読まない。 ○立式に必要な数字や言葉を理解していない。		○授業の開始5分間で四則計算に取り組む。 ○e ライブラリを活用し、全学年の内容を振り返る。 ○文章を絵や図にする力を付けさせる為に、時間を設ける。ジェスチャーで表現する。		
	評価指標		6月	目標値	2月
	算数の授業の内容はどのくらい分かりますか。		45.3%	55.0%	50%
	問題文の内容を図や表、グラフに表して考えている。		26.7%	35.0%	30%
	【評価】	成果と課題			
	B	○e ライブラリを活用したため、予習復習の習慣が定着した。 ○文章を絵や図にすることを意識したため、文章問題をよく読むようになった。			

6 年	【目指す授業】	誰もが「わかった」と実感できる授業			
	児童の実態・課題		具体的な手だて		
	○学習習慣が身に付いていない。 ○基礎・基本となる知識が不足している。		○計算問題に繰り返し取り組ませる。 ○既習事項も分かるまで繰り返し指導する。 ○家庭学習を継続的に取り組ませる。		
	評価指標		6 月	目標値	2 月
	問題文の内容を図や表、グラフに表して考えている。		15.6%	65%	20%
	確実にできるようになるまで、くり返し練習している。		8.9%	50%	15%
	【評価】	成果と課題			
B	○家庭学習で計算ドリルに継続的に取り組ませた。100 マス計算にも取り組んだ。 ○既習事項で未定着のものも授業の中で取り組むことができた。				

令和5年度授業改善推進プラン【国語】

学校名 武蔵村山市立雷塚小学校

4 年	【目指す授業】	漢字の学習を取り入れ、文章理解に重点的に取り組む授業			
	児童の実態・課題		具体的な手だて		
	○似た意味・反対の意味の漢字、使われている熟語を確かめながら覚える必要がある。		○朝学習や国語の授業の終わりなどに、既習漢字、熟語を復習する時間を多く設ける。		
	○文章を分かりやすい表現になるように書き直すことが苦手な児童が少なくない。		○要点を押さえ、伝えたいことを端的に書くことや書いた文章を読み返すことを日頃から指導する。		
	評価指標		6 月	目標値	2 月
	似た意味・反対の意味の漢字や熟語について理解している。		51.3%	80%	54%
	分かりやすい文章に書き直している。		62.1%	80%	64%
【評価】		成果と課題			
B		○似た意味・反対の意味の熟語について、国語辞典などを用いて見付け、理解することができた。 ○重要な言葉を見付け、説明文などの要約をすることができた。			

5 年	【目指す授業】	部首に気を付けたり、間違えた漢字を復習したりすることを取り入れた授業			
	児童の実態・課題		具体的な手だて		
	○漢字の部首の意味を考えながら漢字を覚えているという児童の割合が少ない。		○漢字の学習の際には、部首と、部首のもつ意味を意識させるようにして、同じ部首の漢字を集めや部首のもつ意味を理解する活動などを多く取り入れていく。		
	○間違えた漢字を復習して覚えようとする児童の割合が少ない。		○間違いやすい漢字を取り上げ、漢字指導を行う。		
	評価指標		6 月	目標値	2 月
	漢字の部首や部首のもつ意味を理解している。		62%	80%	88%
	間違えた漢字を復習しようとしている。		67%	80%	88%
【評価】		成果と課題			
A		○自主学習等で、まとめをする際に部首にも着目するようになり数値が向上した。 ○テストで間違えた漢字や、1年生から5年生までの漢字を復習させることで漢字が定着した。			

6 年	【目指す授業】	漢字の反復学習を行い、互いの考えが交流できる授業			
	児童の実態・課題		具体的な手だて		
	○漢字の読み書きを確実に身に付けていく必要がある。		○朝学習や家庭学習など、継続的に既習漢字の練習する時間を設ける。		
	○自分の考えをもち、相手に伝えることが苦手な児童が少なくない。		○文章で理解したことなど、教科書に線を引いたり、他の人の考えを書き写したりして、自分の考えをもてるようにする。また、意見交流の場を多く設ける。		
	評価指標		6 月	目標値	2 月
	テストやドリルで間違えた漢字を選んで特に練習している。		65.4%	80%	76%
	文章を読んで、理解したことや考えたことなどを他の人に説明している。		59.6%	75%	75%
【評価】		成果と課題			
B		○定期的に漢字のまとめテストを実施することで、漢字の復習をすることができた。 ○スモールステップを踏んで自分の考えに自信を持たせることで、意欲的に共有できた。			

令和5年度授業改善推進プラン【算数】

学校名 武蔵村山市立雷塚小学校

4 年	【目指す授業】	正確に計算するとともに、計算の仕方を自分で考えられるようにする授業		
	児童の実態・課題		具体的な手だて	
	○速く計算をしようとして、ケアレスミスをする児童が見られる。 ○計算する中で、計算の仕方を考えられても、言葉で説明することが苦手な児童が多い。		○確実に途中式を書かせて正確に計算させるとともに、たしかめ算を行わせる。 ○問題を解くときにペア学習で計算の仕方を話し合わせ、ノートに記述させる。	
	評価指標		6 月	目標値
	答えだけでなく、途中の計算も書いている。		75.6%	90%
	算数で学習した言葉を使って自分の考えを説明している。		75.6%	80%
	【評価】		成果と課題	
	B		○計算の過程で間違いを減らすよう声掛けを続けたことで、計算の途中式を書く習慣がついた。 ○自力解決の時間に、図や言葉を用いて自分の考えを説明することができた。	

5 年	【目指す授業】	既習事項を活かして、文章題を正確に読み取れるようにする授業		
	児童の実態・課題		具体的な手だて	
	○既習事項を活かして、問題に取り組める児童が少ない。 ○文章題を読み取り、問題に沿って考えられる児童が少ない。		○既習事項の確認を導入で行い、それを授業で活用させる。 ○文章題の「分かっていること」や「聞かれていること」を全体で確認し、図等で表しながら考えさせる。	
	評価指標		6 月	目標値
	前に同じような問題をやったことがあるかや、今まで学習した問題とどこが違うか考えている。		69.5%	80%
	分かっていることと求めていることを考えて問題に取り組んでいる。		77.8%	85%
	【評価】		成果と課題	
	A		○テストで間違えた問題を解き直すことで、誤答を振り返りながら復習することができた。 ○図や表に表して解く問題と、式を立てて解く問題を区別させることで苦手意識を軽減した。	

6 年	【目指す授業】	正確に計算するとともに、計算の仕方を自分で考えられるようにする授業		
	児童の実態・課題		具体的な手だて	
	○間違えた問題をそのままにしてしまう児童が少ない。 ○計算する中で、計算の仕方を考えられても、言葉で説明することが苦手な児童が多い。		○答え合わせをした後に、直しをする時間を設け、分からなかった所を確認していく。 ○問題を解くときにペア学習で計算の仕方を話し合わせ、ノートに記述させる。	
	評価指標		6 月	目標値
	間違えた計算問題は、どこで間違えたのかを考えている。		78.8%	85%
	算数で学習した言葉を使って自分の考えを説明している。		69.2%	80%
	【評価】		成果と課題	
	B		○テスト直しや解説の時間を設けることで、解き直す習慣がついた。 ○解き方を説明し合う活動を増やすことで、自分の考えを説明できる児童が増えた。	

令和5年度授業改善推進プラン（特別支援学級）

武蔵村山市立雷塚小学校 ひまわり学級（知的障害特別支援学級）

目指す授業		○ 児童が自信をもって取り組める授業 (児童の実態に合わせた課題の設定、個に応じた支援) ○ 視覚的に分かりやすい授業 (ICT機器の活用、具体物の提示) ○ 児童の学びが深まる授業 (体験的な学習活動、振り返りの充実、具体物を用いた教材の工夫)		
教科	① 児童の実態・課題	② 授業改善の取組	③ 取組結果	
国語	・語彙が少ないことや、単語を聞いて実物を想起することが難しい。 ・話を聞いたり文章を読んだりしたことから内容をイメージすることが難しい。 ・集中して話を聞くことが難しい。	・しりとりやカルタなどの言葉遊びを通して、語彙の獲得を目指す。 ・短い文章を正しく聞き取らせる。また、文章の様子を表した場面絵などを用いて、内容を理解する活動に取り組ませる。 ・言葉だけでなく、絵などの掲示物を取り入れ説明する。端的に説明したり、課題に取り組む時間を短く区切ったりしながら、集中して取り組む時間を設定する。	・いろはカルタなどを用い、楽しみながら様々な語彙に触れることができた。意味を理解し、会話中や文章中で正しく活用していくことが引き続きの課題である。 ・聞くだけでなく画像や動画を活用することでイメージをもたせ、見たことを表現することはできた。 ・一斉指導や一斉の指示を聞いて覚えて活動することは難しい児童がまだ多い。	
	・文章問題を読んで立式し、正確な答えを導き出すことが難しい。 ・数の概念の理解が難しい。 ・既習事項がなかなか定着しない。	・文章問題の場面を具体的に可視化し、内容をとらえさせる。具体物や半具体物の操作を通して、正しく計算ができるようにする。 ・具体物を用いた学習活動を設定する。 ・既習事項の定着を図るために、掲示物を工夫したり、個別の課題を設定したりしながら計画的に繰り返し学習する時間を設ける。	・文章問題のいくつかのパターンで考えることで演算決定がしやすくなった。四則計算は年間を通して繰り返し学習することで力を付けた児童が多かった。 ・日常的にも数を数えたりカレンダーで日付を確認したりする活動も意図的に行い、少しずつ数概念が形成された。 ・既習事項が見やすいように掲示した。学習の導入で既習事項の確認を行うことが有効だった。学習の定着を図り、計画的に復習を行う。	
算数				

令和5年度 授業改善推進プラン（特別支援学級）

武蔵村山市立雷塚小学校 なのはな学級（自閉症・情緒障害特別支援学級）

目指す授業		○ 児童が自信をもって取り組める授業（児童に寄り添う言葉掛けや支援） ○ 児童が分かりやすい授業（学習内容の視覚化、具体物を用いた教材、教具の活用） ○ 児童がすすんで取り組む授業（集中して学習に取り組める授業、基礎・基本を重視した授業）		
教科	① 児童の実態・課題	② 授業改善の取組	③ 取組結果	
国語	○ 単語を正しく読む力 ・ 拗音、長音が定着していない。	○ 拗音、長音の正確な理解を促す。 ・ 特殊音節の音の動作化を行い、表記の違いに気付かせる。	○ 拗音、長音は動作化をすることで、表記の違いに気付くことができるようになってきた。音節を理解することができるようになった。	
	○ 集中して話を聞く力 ・ 自分のことを話したい思いが強く、相手の話が終わるまで待てない。聞けない。	○ 最後まで話を聞く習慣を身に付ける。 ・ スリーヒントクイズや選択問題など、最後まで聞くことで答えが分かる場面を設定する。	○ スリーヒントクイズなどの学習活動を通して、集中して話を聞けると場面が増えた。また、話す内容を項目立てて見通しをもたせ、最後まで聞けることが増えた。	
算数	○ 文字や漢字を正しく書く力 ・ 書くことに抵抗がある。	○ 個に応じた課題を設定する。 ・ 単語や短文から書く。なぞる、視写するなど実態に応じて書き方を選択させる。	○ 実態に応じた個別の課題に取り組むことで、すすんで書く活動に取り組めることができるようになった。	
	○ 正確に計算する力 ・ 10までの数の合成、分解や繰り上がりのある足し算、繰り下がりのあるひき算が定着していない。	○ 10までの合成・分解の定着 ・ 児童の実態に合う教材・教具を用いて計算をする。	○ 具体物や教具を操作させることで、正確に計算できるようになった。	
算数	○ 繰り上がり、繰り下がりのある計算の定着 ・ 基礎計算の仕組みを視覚化し、具体物を操作しながら繰り返し学習する。	○ 繰り上がり、繰り下がりのある計算の定着 ・ 基礎計算の仕組みを視覚化し、具体物を操作しながら繰り返し学習する。	○ 計算の手順を示したプリントを使い、計算方法が少しずつ定着してきている。	
	○ 問題を理解し解く力 ・ 題意を捉えて考えることが難しい。	○ 問題内容を視覚化する。 ・ 具体物、半具体物の操作、絵や図の活用、動作化等を通して考える学習を積み重ねる。	○ イラストを提示することで、問題場面の理解がすすみ、問われている内容を理解して取り組むことができるようになった。	

令和5年度授業改善推進プラン【国語】

学校名 武蔵村山市立小中一貫校村山学園小学部

4 年	【目指す授業】	・話をしっかりと聞かせ、内容を理解できるようにする授業 ・友達の良い点を見付け、自分に生かせるようにする授業		
	児童の実態・課題		具体的な手だて	
	○話を正確に聞き取ることができず、何度も同じことを聞きに来ることがある。 ○自分の言葉で説明することに課題がある。		○授業の中でメモを取る時間を意図的に設定する。 (スピーチやビデオ、社会科見学等) ○書いた文章を友達と読み合う場を設定し、何を書けばよいのか分かるようにする。	
	評価指標		6 月	目標値 2 月
	他の人の話を聞くとときは、メモを取って理解するようにしている。		74.5%	85% 59.6%
	他の人が書いた文章のよい点を取り入れて書くようにしている。		74.5%	85% 75.6%
	【評価】	成果と課題		
B		○友達の意見をノートに書くことで、自分の意見と比べて考えることができる児童が増えた。 ○書いた文章を友達と読み合い、友達が書いた文章の良い点を理解したことで、書くことが苦手な児童も書けるようになった。		

5 年	【目指す授業】	文章の内容が理解できるとともに、他の人に自分の考えを伝えることができる授業		
	児童の実態・課題		具体的な手だて	
	○文章の読解や問いに答えることに課題がある。 ○自分の考えや思いを分かりやすく伝えることに課題がある。		○文章の内容理解ができるように、範読を繰り返し行い、文脈にある大事なところを見付けることができるようにする。 ○ペアなどの少人数で自分の考えを伝える機会を設定する。	
	評価指標		6 月	目標値 2 月
	文章を理解できるように、大切だと思った部分や疑問に思った部分に線を引ながら読んでいる。		60.7%	70% 60.4%
	発表や話し合いのときは、話す内容や順序を考えてから話している。		73.3%	75% 80.0%
	【評価】	成果と課題		
B		○範読を繰り返すことで、文章の大事なところを見付けることができる児童が増えた。 ○初見の文章では、自分が見付けた大事なところに自信がもてない児童がいた。		

6 年	【目指す授業】	・自分の考えを分かりやすい表現で書けるようにする授業 ・自分の考えや思いを他の人に伝え合うことができる授業		
	児童の実態・課題		具体的な手だて	
	○自分の考えや思いを分かりやすい表現で書くことに課題がある。 ○書く順序、書く筋道を考えることに課題がある。 ○自分の言葉で説明することに課題がある。		○文例等を提示し、理由を挙げながら文章を書くよう指導する。 ○意見文や感想文を書く活動を各単元で設定し、作文力の向上を図る。 ○メモを基に書いた文章を伝え合う機会を設定する。	
	評価指標		6 月	目標値 2 月
	自分が書いた文章を読み返し、分かりやすい表現になるように書き直している。		65%	75% 55.8%
	文章を読んで理解したことや考えたことなどを他の人に説明している。		50%	65% 65.1%
	【評価】	成果と課題		
B		○推敲する時間や友達と読み合う機会を設けることで、分かりやすい文章を書ける児童が増えた。 ○伝える前にメモに書いて伝えることを整理することで、自分の考えを説明できる児童が増えた。		

令和5年度授業改善推進プラン【算数】

学校名 武蔵村山市立小中一貫校村山学園小学部

4 年	【目指す授業】	数量や図形などについての基礎的・基本的な知識及び技能の定着を目指す授業		
	児童の実態・課題		具体的な手だて	
	○問題文の内容を図や表、グラフに表すことに課題がある。 ○学習内容を理解・定着しきれていない場合もそのままにしてしまう児童がいる。		○週に1回朝学習で文章問題に取り組み、図や表、グラフをかく時間を設定する。 ○テスト前に、タブレット PC やプリントなどを使って適用問題に繰り返し取り組みさせる。	
	評価指標		6 月	目標値 2 月
	問題文の内容を図や表、グラフに表して考えている。		70.6%	80% 68.2%
	テストやドリルでまちがえたところは、似た問題を選んで、特に練習している。		72.5%	80% 62.2%
	【評価】	成果と課題		
	C	○間違えた問題に取り組む指導を徹底したことで、学習内容を理解・定着できる児童が増えた。 ○文章の言葉から、図や表に表し立式できる児童が増えた。		

5 年	【目指す授業】	四則計算等の既習内容を活用し、答えを導き出そうとする授業		
	児童の実態・課題		具体的な手だて	
	○四則計算が身に付いていない児童がいる。 ○基礎・基本の定着に二極化が見られ、差が大きい。 ○文章題からの立式が苦手な児童がいる。		○毎時間の導入でタブレット PC を活用し、既習の四則計算の時間を設定する。 ○文章題の単位から、立式の仕方を考えたり内容を図や表に表したりして考えを説明する場面を設定する。	
	評価指標		6 月	目標値 2 月
	前に同じような問題をやったことがあるかや、今まで学習した問題とどこがちがうのかを考えている。		76.8%	80% 78.3%
	分かっていることと求めることを考えて問題に取り組んでいる。		69.6%	75% 80.5%
	【評価】	成果と課題		
	B	○文章題の単位から、求めることを考えて立式しようとする児童が増えた。 ○既習である四則計算の定着に2極化があり、解く時間に大きな差がある。		

6 年	【目指す授業】	計算方法や図形の公式を理解し、自分の考えを説明し合う授業		
	児童の実態・課題		具体的な手だて	
	○自分の考えを文章や図で説明をし、他の人に伝えることに課題がある。 ○応用・発展の問題を解くことに課題がある。		○自分の考えをペア等で伝え合う際に説明の仕方を示す。また、複数人に説明させることで、説明する機会を意図的に増やす。 ○授業の後半に基礎・基本の問題だけではなく、タブレット PC やプリントを活用し、応用・発展問題にも繰り返し取り組ませる。	
	評価指標		6 月	目標値 2 月
	算数で学習した言葉を使って自分の考え方を説明している。		65%	75% 55.8%
	問題文の内容を図や表、グラフに表して考えている。		50%	65% 69.8%
	【評価】	成果と課題		
	B	○友達と考えを共有する時間を設定することで、自分の考え方を説明ができる児童が増えた。 ○式だけで考えるだけではなく、図などに表すことで整理できる児童が増えた。		

令和5年度授業改善推進プラン【国語】

学校名 武蔵村山市立小中一貫校村山学園中学部

7 年	【目指す授業】	基礎学力の定着と活用する力を付けられる授業			
	生徒の実態・課題		具体的な手だて		
	○小学校学習漢字が身に付いていない生徒が多数おり、漢字の読み書きに課題がある。		○小学校1年の学習漢字から、遡って指導を毎時間行うとともに一人1台端末を使って漢字練習を行う。		
	○話を聞くとときにメモをとる習慣が身に付いておらず、正確な聞き取りに課題がある。		○聞き取り練習を計画的に行うとともに、授業記録のメモ状態を单元ごとに確認し、随時指導を行う。		
	評価指標		6 月	目標値	2 月
	テストやドリルでまちがえたときは、まちがえた漢字を選んで、特に練習している。		68.6%	80%	72%
	他の人の話を聞くとときは、メモを取って理解するようにしている。		45.7%	55%	83%
	【評価】	成果と課題			
B		○漢字練習の誤字について繰り返し書き直しをさせた結果、学習態度や意識に改善が見られた。 ○学習記録のメモを評価規準に加味したところ、意識及びメモ内容に飛躍的な改善が見られた。			

8 年	【目指す授業】	基礎学力の定着と活用する力を付けられる授業			
	生徒の実態・課題		具体的な手だて		
	○中学校学習漢字が身に付いていない生徒が多く、漢字の読み書きに課題がある。		○中学校2年学習漢字を中心に、タブレットPCも使って中学校学習漢字の指導・練習を毎時間行う。		
	○話を聞くとときにメモをとる習慣が身に付いておらず、集中力の維持や正確な聞き取りに課題がある。		○聞き取り練習を計画的に行うとともに、授業記録のメモ状態を单元ごとに確認し、随時指導を行う。		
	評価指標		6 月	目標値	2 月
	テストやドリルでまちがえたときは、まちがえた漢字を選んで、特に練習している。		61.8%	70%	34%
	他の人の話を聞くとときは、メモを取って理解するようにしている。		76.3%	85%	56%
	【評価】	成果と課題			
C		○学習指導のあらゆる場面で、誤字を書き直しさせた結果、学習態度や意識の改善が見られた。 ○学習記録のメモに対する意識は高まっているものの、文字を書くスピードが遅い。			

9 年	【目指す授業】	基礎学力の向上と活用する力を付けられる授業			
	生徒の実態・課題		具体的な手だて		
	○入試頻出漢字が身に付いていない生徒が多数おり、漢字の読み書き・語彙数に課題がある。		○入試頻出漢字を中心に、タブレットPCも用いて、最大限可能な漢字の指導・練習を毎時間行う。		
	○話を聞くとときにメモをとる習慣が身に付いておらず、正確な聞き取り・注意力の向上に課題がある。		○聞き取り練習を計画的に行うとともに、授業記録のメモ状態を单元ごとに確認し、随時指導を行う。		
	評価指標		6 月	目標値	2 月
	テストやドリルでまちがえたときは、まちがえた漢字を選んで、特に練習している。		54.5%	60%	24%
	他の人の話を聞くとときは、メモを取って理解するようにしている。		50%	60%	29%
	【評価】	成果と課題			
C		○学習指導の各場面で漢字指導を行ったが、意識や学習態度に顕著な改善は見られなかった。 ○年間を通じて聞き取り練習、メモ指導を行ったが、十分な成果は見られなかった。			

令和5年度授業改善推進プラン【数学】

学校名 武蔵村山市立小中一貫校村山学園中学部

7 年	【目指す授業】	基礎的・基本的な学力の向上と問題解決のための情報整理			
	生徒の実態・課題		具体的な手だて		
	○基本的な知識・技能の定着が不十分な生徒が多数いる。 ○問題文から情報を整理して立式することができず、解くことができない生徒が多数いる。		○反復演習や授業ごとに小テストを行い、計算技能を身に付ける。 ○タブレット PC を活用して、問題演習や振り返り等を行い、学習内容の定着を図る。 ○問題から得られる情報を、図や表で表して他者に説明する活動を行い、文章になる情報を整理したり、数量関係を把握したりする力を高める。		
	評価指標		6 月	目標値	2 月
	問題文の内容を図や表、グラフに表して考えている。		48.5%	60%	58%
	数学で学習した言葉を使って自分の考えを説明している。		57.5%	70%	55%
	【評価】	成果と課題			
C	○問題文の解釈に関する評価指標の数値が増加した。問題文を図や表、グラフを使って考えようとする姿が見られた。 ○説明に関する評価指数の数値が減少し、自身の考えを記述することに課題が見られた。説明する活動を組織するだけでなく、説明の記述が苦手な生徒に対する支援を考える必要がある。				

8 年	【目指す授業】	基礎的・基本的学力の定着と言語活動の充実			
	生徒の実態・課題		具体的な手だて		
	○基礎的な知識・技能の定着が不十分な生徒が多数いる。 ○説明の際、自分の考えを言葉で表すのが苦手な生徒が多い。		○反復演習や授業ごとに小テストを行い、計算技能を身に付ける。 ○一人1台端末を活用して、問題演習や振り返り等を行い、学習内容の定着を図る。 ○他者に説明する活動を積極的に設定するなど、言語活動を充実させ、考えを表現する力を育み、基礎的な知識・技能の定着も図る。		
	評価指標		6 月	目標値	2 月
	問題文の内容を図や表、グラフに表して考えている。		47.3%	60%	68%
	数学で学習した言葉を使って自分の考えを説明している。		58.1%	70%	62%
	【評価】	成果と課題			
B	○評価指標の数値がどちらも増加した。問題文を図や表、グラフを使って考えようとする姿が見られた。 ○説明に関する評価指標は増加したが、説明を記述することに課題がみられた。説明する活動の設定だけでなく、説明の記述が苦手な生徒に対する支援の在り方を考える必要がある。				

9 年	【目指す授業】	基礎的・基本的学力の定着と誤答分析の充実			
	生徒の実態・課題		具体的な手だて		
	○授業で学んだ基礎知識をその場では使えるが、反復演習をしないため、身に付かない。 ○間違えた問題や、理解が不十分なまま正解した問題を、もう一度考え直そうとする生徒が少ない。		○反復演習や授業ごとに小テストを行い、計算技能を身に付ける。 ○一人1台端末を活用して、問題演習や振り返り等を行い、学習内容の定着を図る。 ○定期考査ごとに誤答分析や解き直しを行い、自らが取り組んだ問題に対して、もう一度取り組む習慣を付ける。		
	評価指標		6 月	目標値	2 月
	数学で学習した言葉を使って自分の考えを説明している。		54.5%	70%	70.7%
	問題文の内容を図や表、グラフに表して考えている。		52.3%	70%	63.4%
	【評価】	成果と課題			
B	○評価指標の数値がどちらも増加した。誤答分析等、問題に主体的に取り組む姿勢が見られた。 ○問題文を解釈する部分が目標値を達成できなかった。授業における問題文の状況把握や立式のための必要なものの理解を深めさせる必要がある。				

令和5年度授業改善推進プラン（特別支援学級）

武蔵村山市立小中一貫校村山学園中学部 S組（知的障害特別支援学級）

目指す授業		○既習内容を活用する活動を充実させ、学習内容を定着させる授業 ○学習内容に関する生活に即した知識を増やし、その知識の活用方法に具体的なイメージをもたせる授業		
教科	① 生徒の実態・課題	② 授業改善の取組	③ 取組結果	
国語	○拗音、促音、濁音の表記や助詞の使い方が定着していない生徒がいる。 ○漢字に苦手意識のある生徒が多く、定着していない。 ○意味を知らない語彙が多く、日常生活で使用する言葉の意味を理解できないことがある。	○短文の作成や語彙を表記する取組を通して、拗音、促音、濁音の正しい表記の仕方や助詞の適切な使い方を身に付けさせる。 ○日常的に使用する漢字の書き取り練習を繰り返し行い、漢字を使用する意識を育てる。また、漢字の課題を宿題や長期休業中の課題にすることで、知識を定着させる。 ○ことわざや慣用句などの言葉の学習を通して、語彙の知識を定着させる。	○短文の作成や語彙を表記する取組を通して、語彙の正しい表記の仕方を身に付けた。助詞の使い方については、適切に使うという意識があるが、定着が十分ではない。今後も継続して定着を図る必要がある。 ○漢字の課題を通して、日々の日記や学習で、漢字を使うことが増えた。 ○言葉の学習を通して、意味を知る語彙の量が増えた。今後も継続して取り組み、語彙の知識をより定着させる必要がある。	
数学	○視覚化された内容であれば理解できても、それを応用することや、計算を実生活の場面で活用することに課題がある。 ○計算問題については自信のある生徒が多いが、文章題などの理解が難しい生徒が多い。 ○小数、分数の計算など、小学校の学習内容に不安をもつ生徒が多い。	○日常生活の場面を想定した問題に取り組みせ、ロールプレイ形式を取り入れて学習させる。 ○かけ算表や電卓など、個の学習状況に応じて、活用する手だてを学ばせる。 ○タブレット PC を活用し、小数や分数の仕組みを視覚的に示したり、計算パズル等に取り組みせたりすることで、楽しんで学習させる。 ○個の学習状況に応じて段階的にプリントを用意し、基礎的な計算力を身に付けさせる。	○日常生活の場面を想定した問題に多く取り組ませることで、お金の計算や時間の計算をする力が向上した。 ○一人1台端末を活用し、小数や分数の仕組みを視覚的に示したり、具体物の操作やロールプレイ形式を取り入れたりとすることで、計算の概念を理解させることができた。そのことが文章題の理解にもつながった。 ○基礎的な計算については、個別の課題等を用意し、今後も継続して定着を図る必要がある。	

令和5年度授業改善推進プラン（特別支援学級）

武蔵村山市立小中一貫校村山学園中学部 E組（自閉症・情緒障害特別支援学級）

目指す授業		○基礎・基本を定着させる授業 ○主体的に学ぶ姿勢を育て、幅広く知識・技能を身に付ける意欲を引き出すとともに、思考・判断・表現する力を育てる授業		
教科	① 生徒の実態・課題	② 授業改善の取組	③ 取組結果	
国語	○漢字の課題を通して漢字を書いて覚えようとする姿勢や習慣は定着しているが、覚えた漢字を学習や日常生活に生かす意識が高まっていない。 ○話すことや書くことにおいて表現しようとする意欲は高いが、スキルが身に付けていない。	○毎授業での漢字学習の取組に加え、単元ごとに漢字テストを実施し、覚えた漢字をアウトプットする回数を確保する。また、ワークシートや作文課題では、漢字を活用して書くよう意識付けを行う。 ○互いのスピーチや作文を評価しあうことにより、分かりやすい表現を考える視点を身に付けさせる。 ○スピーチ原稿や長い文章を書く取組では、推敲して何度でも書き直せるよう、タブレット PC を使用して文章を書かせる。	○日々の日記や学習で、意識して漢字を書こうという意識が高まった。 ○スピーチや作文を行うときに、伝わりやすい構成を意識して書けるようになった。	
	○計算問題については自信のある生徒が多いが、文章題などに不安のある生徒が多い。 ○計算方法については理解できても、複数の種類の問題を見て、正しい計算方法を選択することに課題がある。 ○学習内容に難しさを感じると、集中して取り組めないことがある。	○個の学習状況に応じて難易度の異なるプリントを段階的に用意し、繰り返し取り組ませることで、基礎的な計算力や応用力を身に付けさせる。 ○1種類の計算を続けて取り組むだけではなく、複数の計算を意図的に混ぜて取り組ませる。 ○基礎的な計算から段階的に学ばせ、スモールステップで達成感を感じさせながら学ばせる。	○基礎的な計算については、個別の課題等を用意し、今後も継続して定着を図る必要がある。 ○一人1台端末を活用し、小数や分数の仕組みを視覚的に示したり、具体物の操作やロールプレイ形式を取り入れたりすることで、計算の概念を理解させることができた。そのことが文章題の理解にもつながった。	

令和5年度授業改善推進プラン【国語】

学校名 武蔵村山市立小中一貫校大南学園第七小学校

4 年	【目指す授業】	学び方を知ること、主体的に学習に取り組む力を伸ばすことができる授業		
	児童の実態・課題		具体的な手だて	
	○書いてあることを基に読み取ることが苦手である。		○音読に取り組む。人物の気持ちや場面の様子を捉えられるよう、話し合い、考えを共有する。	
	○聞いたことを正しく理解することが苦手である。		○話し合い活動では、その目的を理解させたうえで、聞いて理解する力を高められるようにする。	
	評価指標		6 月	目標値
	他の人の話を聞くときは、メモを取って理解するようにしている。		61.8%	70.0%
	文章を読んで理解したことや考えたことなどを他の人に説明している。		63.8%	70.0%
	【評価】	成果と課題		
	B	○人物の気持ちを想像し、なりきって音読するよさを味わうことができた。		
		○話し合いでは、意見を発表するのをためらってしまう児童が見られた。		

5 年	【目指す授業】	学び方を知ること、主体的に学習に取り組む力を伸ばすことができる授業		
	児童の実態・課題		具体的な手だて	
	○文章の読解力に差があり、文脈を正確に読み取ることが難しい場面が多くある。		○文章の大事なところをどのように読み取っていけば良いかを具体的に指導する。	
	○聞いたことを正しく理解することが苦手である。		○話し合い活動などを通して、聞いて理解する力を高められるようにする。	
	評価指標		6 月	目標値
	文章を理解できるように、大切だと思った部分や疑問に思った部分に線を引きながら読んでいる。		53.6%	60.0%
	文章を読んで理解したことや考えたことなどを他の人に説明している。		50.0%	55.5%
	【評価】	成果と課題		
	B	○話し合い活動を増やすことで、聞いて正しく理解ができるようになった。		
		○文脈を正確に読み取ることが課題のため、注目する部分を一つにするなど焦点化する。		

6 年	【目指す授業】	学び合いで自分の考えを深め、表現する授業		
	児童の実態・課題		具体的な手だて	
	○文章を正しく読みとれず、要点をおさえたり要旨をまとめたりするのが難しい児童が多い。		○文章の構成を意識し、キーワードとなる語を見付けて読むなど、読む際の視点を明確にする。	
	○自分の意見に自信がなく、他者に伝えるのに苦手意識がある。		○学び合いで意見交換をする場を意識的に設け、自信をもつ。	
	評価指標		6 月	目標値
	文章を理解できるように、大切だと思った部分や疑問に思った部分に線を引きながら読んでいる。		51.7%	60.0%
	文章を読んで理解したことや考えたことなどを他の人に説明している。		48.3%	55.0%
	【評価】	成果と課題		
	B	○接続語やキーワードを全体で確認することで、要点や要旨をまとめることにつながった。		
		○自分の意見を他者に伝えることに課題があるため、見本や定型文などを示す。		

令和5年度授業改善推進プラン【算数】

学校名 武蔵村山市立小中一貫校大南学園第七小学校

4 年	【目指す授業】	達成感を感じられる授業			
	児童の実態・課題		具体的な手だて		
	○ノートの記入に時間を要し、考えを深めたり、練習問題に取り組んだりする時間が確保されない。 ○解き方や考え方を説明することが苦手である。		○書くことの絶対量を軽減し、練習量の確保につなげる。 ○類似問題に取り組ませることで考えを応用したり、繰り返し使ったりして、自分の考えとして説明できるようにする。		
	評価指標		6 月	目標値	2 月
	テストやドリルで間違えたときは、似た問題を選んで、特に練習している。		60.8%	65.0%	63.7%
	問題文の内容を図や表、グラフに表して考えている。		60.8%	65.0%	61.3%
	【評価】	成果と課題			
	B	○ノートに書く量を調節して、考える時間や練習の時間を確保できた。 ○既習事項を応用して新しい課題を考えることが難しいため、基礎的な力の定着を目指す。			

5 年	【目指す授業】	問題解決を通して達成感を感じられる授業			
	児童の実態・課題		具体的な手だて		
	○学習内容の理解に時間がかかる児童が多い。 ○計算ができて、解き方を説明したり、立式決定について筋道を立てて考えたりするのが苦手な児童が多い。		○言葉や公式を活用しながら、簡単に計算ができる方法を使って解くことができるようにする。 ○説明の仕方を知ったり、数直線図などを利用したりして、自分の考えをまとめられるようにする。		
	評価指標		6 月	目標値	2 月
	テストやドリルで間違えたときは、似た問題を選んで、特に練習している。		57.3%	60.0%	57.0%
	問題文の内容を図や表、グラフに表して考えている。		50.0%	55.0%	51.1%
	【評価】	成果と課題			
	B	○公式や重要語句を共有することで、学習内容の理解につながった。 ○解き方、考え方を説明することに課題があるため、図や言葉で伝え合う活動を増やす。			

6 年	【目指す授業】	数学的な見方、考え方を働かせ、すすんで学ぶ授業			
	児童の実態・課題		具体的な手だて		
	○既習事項の定着が不十分である。 ○問題の意図を読み取ることや、図や式で考えを表現することを苦手とする児童が多い。		○基礎的な学習の復習において、朝学習等を活用して行う。 ○図や表を活用して内容を整理し、考えを表現する機会を増やす。		
	評価指標		6 月	目標値	2 月
	テストやドリルで間違えたときは、似た問題を選んで、特に練習している。		51.7%	60.0%	54.2%
	問題文の内容を図や表、グラフに表して考えている。		56.1%	65.0%	54.4%
	【評価】	成果と課題			
	B	○友達のを全体で共有することで、図や式で表現する児童が増えた。 ○既習事項の定着が課題のため、復習や適用問題に取り組む時間をさらに増やす。			

令和5年度授業改善推進プラン【国語】

学校名 武蔵村山市立小中一貫校大南学園第四中学校

1 年	【目指す授業】	学習したことから、語彙・知識を広げる授業		
	生徒の実態・課題		具体的な手だて	
	○漢字学習については、他学年と比較しても、繰り返し練習や間違い直しなどを意識して取り組んでいる。漢字の意味や類義語・対義語などを意識すれば、より効果的・効率的に学習できると考える。		○授業の中で、機を捉えて、語彙が広がるような発問をしていく。漢字小テスト等で、知っている類義語：対義語も書くように促す。	
	評価指標		6 月	目標値
	似た意味や反対の意味の漢字、使われている熟語などを確かめながら覚えている。		54.0%	65%
				2 月
【評価】		成果と課題		
B		○毎時間の漢字テストの出題中も、似た意味・反対の意味の字や語を示唆した成果がある程度表れたと思われる。より多くの生徒に意識した学習をさせたい。		

2 年	【目指す授業】	間違いをそのままにしない授業		
	生徒の実態・課題		具体的な手だて	
	○定期テスト・漢字小テストなどの事前の練習は、繰り返し取り組んでいる生徒が多いが、事後の間違いを確認して訂正している生徒が少ない。取り組みやすい漢字学習から習慣を身に付けたい。		○漢字小テストの、間違えた漢字を繰り返し練習させ、提出させて評価の材料とする。	
	評価指標		6 月	目標値
	テストやドリルでまちがえたときは、まちがえた漢字を選んで、特に練習している。		54.6%	70%
				2 月
【評価】		成果と課題		
B		○3 回練習というハードルを低くした復習を課した成果がある程度表れたと思われる。より多くの生徒に復習による定着をさせたい。		

3 年	【目指す授業】	文章を読んで自分の意見を根拠を踏まえて伝えられる授業		
	生徒の実態・課題		具体的な手だて	
	○国語に関して得意不得意の個人差が非常にある。特に自らの考えに自信をもてず、他者に伝えることを苦手とする生徒が多い。また、文章を読んでも自分の考えの根拠を見つけられない生徒も多く見受けられる。		○ワークシートの課題等、自らの考えを発表する場面を全体のみでなく、少人数グループで行う。また、時間を指定して、2 人 1 組または少人数グループで課題に取り組ませるようにする。	
	評価指標		6 月	目標値
	文章を読んで理解したことや考えたことなどを他の人に説明している。		52.7%	65%
				2 月
【評価】		成果と課題		
A		○受験対策もかねて作文→発表→他者からの評価→推敲→自己評価→教員の評価といった流れの活動を頻繁に行った。その成果が2月の結果に繋がったと考えられる。		

令和5年度授業改善推進プラン【数学】

学校名 武蔵村山市立小中一貫校大南学園第四中学校

1 年	【目指す授業】	基礎・基本を身につけさせ、次の授業の理解につなげる授業		
	生徒の実態・課題		具体的な手だて	
	○数学に苦手意識を持っている生徒が30%を超えており、小学校の算数の段階で躓いてしまっている生徒もいる。		○問題を解く上での先行オーガナイザーを重要視して授業を組み立てる。生徒の理解度が低い場合は授業進度にこだわりすぎず、臨機応援に復習問題を取り入れる。	
	評価指標		6 月	目標値 2 月
	数学の学習はどのくらい得意ですか。		67%	75% 57.3%
	自分が考えたことを、積極的に他の人や先生に伝えようとしている。		46%	55% 66.7%
	【評価】	成果と課題		
	B	○生徒同士の教え合い活動を重視し、日頃より実践してきたため、項目2の数値が上昇した。 ○学習内容の定着具合が不十分であった。次年度、より家庭学習の充実を図る必要がある。		

2 年	【目指す授業】	生徒同士の教え合いを通して、学習内容の理解を深める。		
	生徒の実態・課題		具体的な手だて	
	○積極的に学習をする生徒が多いが、中には分からなくなると、考えることを諦めてしまう生徒がいる。		○問題を解くときに、まずは自分で解き、わからなかったら教えてもらい、逆にわからない人に教えてあげることで学習内容の理解を深める。	
	評価指標		6 月	目標値 2 月
	他の人と相談して、考えを深めるようにしている。		58.8%	60% 72.3%
	問題文の内容を図や表、グラフに表して考えている。		45.9%	50% 49.4%
	【評価】	成果と課題		
	B	○学び合いを通して学習内容の理解を深めることができた。 ○授業で伝達し、受験に向けて問題文を視覚的に表現できる生徒をより増やしていく。		

3 年	【目指す授業】	問題に対して多様な考え方で解決できる		
	生徒の実態・課題		具体的な手だて	
	○簡単な計算問題については、意欲的に取り組むが、文章題やグラフ等の問題については、手が止まってしまう生徒が見受けられる。		○授業の中で、1つの解法だけではなく、多様な解法で問題を解決させる。また、生徒同士で自分の考えを数学の言葉を用いて説明し合う時間を設ける。	
	評価指標		6 月	目標値 2 月
	問題文の内容を図や表、グラフに表して考えている。		47.3%	57% 80.4%
	数学で学習した言葉を使って自分の考えを説明している。		61.9%	71% 75.6%
	【評価】	成果と課題		
	A	○1つの問題に対して式やグラフ等を活用し多面的な見方で問題を解かせることができた。 ○図形や数の規則性を説明することから、数学的な表現を用いて説明させることができた		

令和5年度授業改善推進プラン【国語】

学校名 武蔵村山市立第一中学校

1 年	【目指す授業】	読解力の向上			
	生徒の実態・課題		具体的な手だて		
	○本を読まない生徒が多く、読解力も低い。		○1か月に1度は授業を図書室で実施し、ブックトークなどをして本に親しむ環境をつくる。 ○説明的文章と文学的文章の読み取りを毎学期実施する。		
	評価指標		6 月	目標値	2 月
	本を1か月に2冊以上は読んでいる。		20%	40%	42.3%
	文章を理解できるように、大切だと思った部分や疑問に思った部分に線を引きながら読んでいる		45%	60%	49.8%
	【評価】	成果と課題			
B		○朝読書の効果もあり、本を読む生徒が増えてきた。 ○文章の読解では、今後もていねいな指導が必要である。			

2 年	【目指す授業】	基礎学力の定着			
	生徒の実態・課題		具体的な手だて		
	○語彙力が低く、正確な読み取りができない。		○漢字テストを定期的実施する。 ○説明的文章と文学的文章の読み取りを毎学期実施する。		
	評価指標		6 月	目標値	2 月
	漢字を何度もくり返し書いて覚えている。		72%	80%	66.1%
	文章を理解できるように、大切だと思った部分や疑問に思った部分に線を引きながら読んでいる。		67%	70%	68.8%
	【評価】	成果と課題			
B		○漢字はくり返し学習し、さらに語彙力を高めたい。 ○読解力をつけるため、今後も工夫して指導していきたい。			

3 年	【目指す授業】	自分が理解したことを、音声や文字で表現できる生徒を育成する授業			
	生徒の実態・課題		具体的な手だて		
	○「国語の授業が分かる」と答えた生徒は89.2ポイントであるのに対し、「国語の学習が得意」と答えた生徒は68.7ポイントであった。 ○学習の進め方に関しては、「自分の考えを積極的に伝えようとする姿勢」や「漢字の部首の意味や言葉どうしを関連づけた学習」についてポイントが低くなった。		○授業の中で話し合い活動や意見交換の場を設けて、自分の考えを表出する機会を増やす。 ○漢字や言葉の学習を行う際は、意味や関連づけを意識した指導を行う。		
	評価指標		6 月	目標値	2 月
	自分が考えたことを、積極的に他の人や先生に伝えようとしている		38.6%	48.6%	59.9%
	漢字の部首の意味も考えながら覚えている		40.9%	50.9%	46.6%
	【評価】	成果と課題			
B		○授業内での実践により、自分の考えを積極的に伝えようとする生徒は目標値を上回った。 ○漢字や言葉の学習に関しては、今後も継続が必要である。			

令和5年度授業改善推進プラン【数学】

学校名 武蔵村山市立第一中学校

1 年	【目指す授業】	生徒が教え合うことで、考えを深めて基礎・基本を身に付けられる授業			
	生徒の実態・課題		具体的な手だて		
	○主体的に取り組んでいるが、基本的な計算が身に付いていない生徒がいる。 ○文章問題の内容を理解する力が乏しい。		○計算の小テストを行う（30問7分間） ○問題の内容を理解するための手順を明確化		
	評価指標		6 月	目標値	2 月
	確実にできるようになるまで、くり返し練習している。		70.8%	75%	67.6%
	【評価】	成果と課題			
C		○学習内容が多様になり、理解度の個人差が大きくなってきた。 ○くり返し学習に取り組むことで、着実に基礎力をつけていきたい。			

2 年	【目指す授業】	基礎的な項目を重視し、目標に向けて協力し合いながら努力ができる授業			
	生徒の実態・課題		具体的な手だて		
	○主体的に取り組む意欲が低い生徒が多い。 ○基本的な知識・技能が身についていない生徒が多い。		○朝学習などで、基本的な内容の反復練習を行う。 ○教え合いながら問題演習を行う時間を設ける。		
	評価指標		6 月	目標値	2 月
	確実にできるようになるまで、くり返し練習している。		55%	60%	63.5%
	【評価】	成果と課題			
A		○計算問題などに地道に取り組む姿勢が見られた。 ○今後も意欲を高める指導を工夫したい。			

3 年	【目指す授業】	基礎・基本の習得を目指し、生徒が意欲的に取り組める授業			
	生徒の実態・課題		具体的な手だて		
	○基本的な計算が身に付いていない生徒がいる。 ○説明する課題に対して考察していく力が弱い。		○朝学習で、基本的な学習内容の振り返りを行う。 ○		
	評価指標		6 月	目標値	2 月
	数学で学習した言葉を使って自分の考え方を説明している。		60.8%	65%	58.4%
	【評価】	成果と課題			
C		○計算問題等が解けることを重視したため、論証等の取組が弱かった。 ○自分の考えを表現していく力を伸ばしたい。			

令和5年度授業改善推進プラン（特別支援学級）

武蔵村山市立第一中学校Ⅰ組（知的障害特別支援学級）

目指す授業		○ 基礎的な内容を理解させる。 ○ 視覚や聴覚の情報を重視し、繰り返しによる定着を図る。 ○ 考えを自分の言葉で表現できるようにする。		
教科	① 生徒の実態・課題	② 授業改善の取組	③ 取組結果	
国語	・言葉の概念を理解していない。 ・話を最後まで聞けない。 ・漢字の読み書きができない。 ・はっきりと発声することができない。 ・テーマに沿った作文を書くことができない。	・図や写真、ネットの画像や動画を活用し、動作等取り入れ、具体的に理解させる。 ・話をきちんと聞き取る練習をさせる。 ・漢字検定試験等を活用し、練習させる。漢字の筆順、熟語の意味の理解を丁寧に行う。 ・出来事を発表させる。音読をさせる。 ・記述する内容を言わせたり、まとめさせたりしながら、読み手にわかりやすく書く練習をさせる。	・理解を補助する視覚的な情報を用いることで、言葉の意味をイメージさせることができた。 ・話した内容を確認することが必要である。 ・生徒のレベルにあった漢字の学習に取り組み、成果があった。 ・少しずつ自分の意思を伝えられるようになった。 ・要点をまとめることや考察については練習が必要である。	
数学	・数を正確に効率よく数えることができない。 ・単位の意味を理解していない。 ・定規の目盛りを読む、直線を引くことができない。 ・文章題が解けない。 ・時間の概念を理解していない。	・物をきちんと数えさせる。5ずつ、10ずつ数えてまとめさせる。 ・何に対する単位かをきちんと学習させる。単位換算表を活用できるようにする。 ・目盛りの意味を理解させ、きちんと線をひく練習をさせる。 ・文章のキーワードに注目させ、何を問われているのか、加減乗除のどれを使うかを判断させる。 ・時間の帯に行動を記録させて、時間の長さや24時間の意味を理解させる。	・作業的な活動を通して、物を数える時に工夫すれば良いことを学んだ。 ・手掛かりになるもので確認すれば、計算することはできる。 ・何度も繰り返し学習することで、理解が進んだ。 ・目に見えない時間を量として認識するためには、継続した学習が必要である。 ・具体的な操作や図を描くことで、問題の意味を理解することができた。	

令和5年度授業改善推進プラン【国語】

学校名 武蔵村山市立第三中学校

1 年	【目指す授業】	語彙力を身に付け、自分の考えを表現できる授業			
	生徒の実態・課題		具体的な手だて		
	○中学校の勉強にだんだん慣れてきてはいるが、まだ勉強方法が確立していない生徒も見受けられる。音読を中心とした家庭学習を定着させていきたい。		○漢字のワークを使い、部首についても説明をしていく。また、読み取ったことを説明する場面を適宜設定する。		
	評価指標		6 月	目標値	2 月
	漢字の部首の意味も考えながら覚えている。		48.5%	5 5 %	32%
	文章を読んで理解したことや考えたことなどを他の人に説明している。		54.5%	6 0 %	80%
	【評価】	成果と課題			
B		○部首に対する意識が育っていなかったため、さらに強調して確認させることが課題である。 ○グループや、少人数などお互いに読み取ったことを説明することができた。			

2 年	【目指す授業】	話し合いを通して読解力と語彙力を身に付けられる授業			
	生徒の実態・課題		具体的な手だて		
	○意欲的に授業に取り組んでいる様子が見られる。漢字学習にもしっかり練習しているが、漢字の部首や意味、熟語などを考えない生徒もいる。		○漢字のワークを使って似た漢字などの解説を加えたり、単元ごとの意味調べの学習時間を増やす。		
	評価指標		6 月	目標値	2 月
	漢字の部首の意味も考えながら覚えている。		51.4%	60%	70%
	似た意味や反対の意味の漢字、使われている熟語などを確かめながら覚えている。		51.4%	60%	69%
	【評価】	成果と課題			
B		○文章を語句に注意しながら読み取らせることができた。 ○様々な場面で漢字や意味、熟語などを確認させることができた。			

3 年	【目指す授業】	語彙力を身に付け、読解に生かせる授業			
	生徒の実態・課題		具体的な手だて		
	○積極的に取り組める生徒が増えてきている。さらに漢字を含めた書く力と、語彙を増やして読解力を付けていきたい。		○漢字のワークを使い、部首についても説明していく。また、単元ごとの意味調べなどを通して語彙を増やし、類義語・対義語を押さえていく。		
	評価指標		6 月	目標値	2 月
	漢字の部首の意味も考えながら覚えている。		2 9 %	4 0 %	34%
	似た意味や反対の意味の漢字、使われている熟語などを確かめながら覚えている。		3 6 %	4 0 %	46%
	【評価】	成果と課題			
C		○漢字練習の際に部首を確認する機会をさらに増やしていくのが課題である。 ○語句に対する関心をさらに高めていくことが課題である。			

令和5年度授業改善推進プラン【数学】

学校名 武蔵村山市立第三中学校

1 年	【目指す授業】	生徒一人一人の表現力を高める授業			
	生徒の実態・課題		具体的な手だて		
	○教わった通りの方法で解を導き出そうとする。遠回りすることを避けず、自分の意見を他者に説明する力を養っていく必要がある。		○章や節の導入やまとめで、同じ問題に対して複数の解法を考えさせ、話し合いをさせる。その際に、図や表、グラフを使うなど、視覚的な工夫を促す。		
	評価指標		6 月	目標値	2 月
	問題文の内容を図や表、グラフに表して考えている。		46.5%	65.0%	69.5%
	数学で学習した言葉を使って自分の考え方を説明している。		73.7%	80.0%	76.8%
	【評価】	成果と課題			
B		○比例・反比例、データの活用等の単元での取組において、意識して考えさせることができた。 ○演習における協働的な学びを通して、学習した言葉を使う意識をもたせ、説明させることができた。			

2 年	【目指す授業】	生徒の言葉を練り上げる授業			
	生徒の実態・課題		具体的な手だて		
	○連立方程式の文章問題を解く際に、図や表に表して解く生徒が少なく、頭の中で計算しようとする生徒が多く見受けられる。		○数学を使った言葉や図や表を使って説明するペアワークやワークシートを用いて授業を行う。また、図や表へ穴埋めする問題の演習などを実施する。		
	評価指標		6 月	目標値	2 月
	問題文の内容を図や表、グラフに表して考えている。		48.6%	65.0%	79.2%
	数学で学習した言葉を使って自分の考え方を説明している。		70.8%	80.0%	87.7%
	【評価】	成果と課題			
B		○話し合いの時間を適切に設け、学習した言葉を使うことを意識させることができた。 ○データの活用以外の場面で、図や表、グラフの関連性を理解させることが課題である。			

3 年	【目指す授業】	解ければよいから、説明することができるへ転換する授業			
	生徒の実態・課題		具体的な手だて		
	○計算問題を解く際に、途中式を書かず、解があつていれば良いと考えている生徒が見受けられる。		○解を求めることがゴールではなく、なぜその解になったかを説明することができることをゴールにし、説明する際に途中式の必要性に気付かせる。		
	評価指標		6 月	目標値	2 月
	問題文の内容を図や表、グラフに表して考えている。		55.0%	65.0%	67.0%
	数学で学習した言葉を使って自分の考え方を説明している。		69.0%	80.0%	70.4%
	【評価】	成果と課題			
B		○発表ノートを活用し、自分の考えを図などにまとめて発表する授業を行った。 ○数学用語を利用し、自分の考えを説明することが課題である。			

令和5年度授業改善推進プラン【国語】

学校名 武蔵村山市立第五中学校

1 年	【目指す授業】	基本的語彙力や基本となる文型・話型を身に付け、自分の考えを表現する授業		
	生徒の実態・課題		具体的な手だて	
	○漢字の繰り返し書くなど形と音として覚えようとしているが部首や組み立てなど意味として覚えることは不十分であった。また、文章読解においては自分の中での理解や解釈にとどまり、考えを広げたり深めたりすることはできていない。		○新出漢字の学習の際に、部首や熟語、類義語や対義語も併せて指導を行う。また、文章読解の学習の際に、登場人物の心情や根拠と筆者の主張を各自で文章にまとめさせたり話し合わせたりして、考えを広げたり深めたりさせる。	
	評価指標		6 月	目標値 2 月
	漢字の部首の意味も考えながら覚えている。		34.2%	50.0% 39.0%
	文章を読んで理解したことや考えたことなどを他の人に説明している。		42.6%	60.0% 43.0%
	【評価】	成果と課題		
C		○部首の区別はつくようになってきたが、それを生かして漢字を覚えたり書いたりすることが課題である。 ○基本的な文型を学習し、それをを用いて自分の意見を書くことはできるようになってきたが、自分の意見を話し合うことにおいて、話型や話す内容など課題が残った。		

2 年	【目指す授業】	文章を読み、自ら課題を設定し解決する力を育成する。		
	生徒の実態・課題		具体的な手だて	
	○漢字の読みとりの力については、書きとりの力には不十分である。また、文章を読み、自ら課題を立て考えることを苦手としており、読みを深めることはできてない。		○テキストや教材内の漢字等について範囲を指定して学習を促し、小テストや夏休み明けテスト等で定着を図る。また、文章を読む際には目標を明確にし、他者との意見交流を通じて考えを深めさせる。	
	評価指標		6 月	目標値 2 月
	漢字の部首の意味も考えながら覚えている。		31.9%	50% 35%
	文章を読んで理解したことや考えたことなどを他の人に説明している。		36.9%	50% 45%
	【評価】	成果と課題		
C		○漢字の書き取りができるようになってきたが、部首の意味を考えながら書くことが課題である。 ○文章を読み、感じたことを書くことができるようになってきたが、自分の言葉で説明することについては課題が残った。		

3 年	【目指す授業】	応用的語彙力を高め、自分の意見や考えをアウトプットする能力を育成する。		
	生徒の実態・課題		具体的な手だて	
	○基本的語彙力は高まり、型にはめた文章を作ることにはできるようになった。自己完結してしまい、それをもって他者と議論したり、話し合ったりすることが苦手な生徒が多い。		○意味調べや漢字練習の際に同義語や対義語を併せて教え、文章に対する自分の意見文を書かせ、それを他者との交流を通じて発表させ、意見や考えを他者に伝えさせる。	
	評価指標		6 月	目標値 2 月
	似た意味や反対の意味の漢字、使われている熟語などを確かめながら覚えている。		20.1%	50% 46.4%
	文章を読んで、理解したことや考えたことなどを他人に説明している。		31.7%	50% 35.2%
	【評価】	成果と課題		
B		○言葉そのものの意味は理解したが、類義・対義を意識する習慣が定着しなかった。 ○文章を読解し、自分の考えを整理して、他者に伝える意識は向上し、身に付いてきた。		

令和5年度授業改善推進プラン【数学】

学校名 武蔵村山市立第五中学校

1 年	【目指す授業】	数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解し、事象を数学化した り、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける授業			
	生徒の実態・課題		具体的な手だて		
	○小学校で身に付けるべき数量や図形の基礎的な知識が確実に身に付いているとは言い難い。基礎の充実を図るとともに、事象を数学化し、数学的に表現、処理する活動につなげていく。		○授業の最初に、一人1台端末を用いて、基礎的な計算や図形の問題に取り組ませる。必要に応じて、小学校の内容まで遡る。お風呂の水、本棚の組み立て、身の周りの物の形など、様々な事象を数学的に捉えさせ、表現、処理させる。		
	評価指標		6 月	目標値	2 月
	学習する言葉や公式は、見ないでも言えるようにしている。		21.3 %	34.0 %	56.4%
	学習した言葉を使って自分の考え方を説明している。		21.9 %	34.0 %	57.7%
	【評価】	成果と課題			
A		○用語や公式を知識として習得できるようになってきている。 ○学習した言葉の意味を理解し、自分の考えを説明する時に活用できるようになってきている。			

2 年	【目指す授業】	基礎的な計算力の向上を目指し、基本的な問題を自ら解決できる技能を身につける授業			
	生徒の実態・課題		具体的な手だて		
	○小学校で身に付けるべき基礎的な四則計算の計算ができていないため、新しい単元に関する問題を解決するのに時間がかかっている。		○百マス計算や自宅学習ファイルを繰り返して取り組み、基礎的な計算力の向上を図り、小テストを適宜実施する。		
	評価指標		6 月	目標値	2 月
	テストやドリルでまちがえたときは、似た問題を選んで、特に練習している。		23.8%	35%	60%
	問題文の内容を図や表、グラフに表して考えている。		7.5%	18%	34%
	【評価】	成果と課題			
B		○自宅学習ファイル課題を継続したことで、練習しようとする態度が養われた。 ○証明の流れをフローチャートにする指導を継続したことで、図に表す姿勢が醸成された。			

3 年	【目指す授業】	学習したことを生かし、自ら考えて、理解することがきる授業			
	生徒の実態・課題		具体的な手だて		
	○小学校及び中学校のこれまでの内容の定着不足が見られる。 ○家庭学習が不十分で定着していないものが多い。		○毎時間授業に関係する既習事項の復習を行う。 ○自主学习ノートでの演習を行い、基礎及び家庭学習の力を養う。		
	評価指標		6 月	目標値	2 月
	前に同じような問題をやったことがあるかや、今までの学習した問題とどこが違うかを考えている。		22.2%	35%	21.6%
	問題文の内容を図や表、グラフに表して考えている。		11.1%	20%	26.5%
	【評価】	成果と課題			
B		○いつやった問題と類しているかを復習しながら取り組んだが、考え方の定着に課題が残った。 ○問題文を解釈する方法として、図や表、グラフに表して考えることは目標値を達成した。			

令和5年度

武蔵村山市立学校
学校評価結果

令和 6 年 3 月 26 日

武蔵村山市教育委員会

目 次

【記入例】	-----	1
第一小学校	-----	2
第二小学校	-----	3
第三小学校	-----	4
第八小学校	-----	5
第九小学校	-----	6
第十小学校	-----	7
雷塚小学校	-----	8
小中一貫校村山学園	-----	9
小中一貫校大南学園第七小学校	-----	10
小中一貫校大南学園第四中学校	-----	11
第一中学校	-----	12
第三中学校	-----	13
第五中学校	-----	14

記入例

【学校運営協議会・会長】			
学校運営協議会（学校評価分）		第1回	月 日（）
		第2回	月 日（）
		第3回	月 日（）

経営理念	
------	--

	経営目標 （中期・短期を明記）	目標達成のための方策	評価指標	自己評価						学校関係者評価		
				目標値	最終評価		分析コメント(学校関係者評価委員会の意見、児童・生徒評価、保護者評価等の意見について、参考にする。)	改善策(来年度の目標設定、具体記な取組目標)	意 見	評価点 (4点満点)		
○月 達成値	○月 達成値	達成度	評価									
確かな学力の向上	【共通】全児童に対しての基礎学力の定着を図る。	①東京ベーシックドリルの診断シートの内容の割以上の定着を図る（見直しして提出させる）。										
豊かな心の育成	【共通】いじめ撲滅への取組											
	特別な支援を要する児童・生徒への対応											
健やかな体の育成												
※学校裁量	オリンピック・パラリンピック教育の推進											
	研究費の執行状況											

【達成度】＝〔達成値〕／〔目標値〕

【評価】　A：8割以上→目標達成とみなし、新たな目標設定　　B：8割未満5割以上→8割を超えるまで継続実施　　C：5割未満→目標の見直し

平均値											
-----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

【達成度】＝〔達成値〕／〔目標値〕
【評価】 A：8割以上→目標達成とみなし新たな目標設定 B：8割未満5割以上→8割を超えるまで継続実施 C：5割未満→目標の見直し

武蔵村山市立第一小学校

	経営目標 (中期・短期を明記)	目標達成のための方策	評価指標	自己評価						学校関係者評価	
				目標値		最終評価		分析コメント(学校関係者評価委員会の意見、児童・生徒評価、保護者評価等の意見について、参考にする。)	改善策(来年度の目標設定、具体化取組目標)	意 見	評価点 (4点満点)
				7月 達成値	12月 達成値	達成度	評価				
確かな 心の 向上	学習内容の確実な定着と充実を全児童に対して図る。	誰一人取り残さないで、全員を学びに立ち向かわせる。【学校経営方針3の(6)】	・自分から進んで授業に取り組んでいる児童の割合	95	88	A	児童の評価は、7月より12月の方が2%、保護者の評価は7%上がっている。学級会を中心に校内研究を進めてきて2年目になるが、学級で自分の意見を伝えようとする意欲がさらに高まり、児童が主体的に参加できているようになったと考えられる。	来年度は2年間継続した学級活動の校内研究をもとに、さらに児童が主体的に活動できることを目指し、市と連携しながらまちづくり学習の研究を深めていく。誰一人取り残さないで、全員を学びに向かわせる学校」を意識し、「主体的、対話的で深い学び」をさらに目指していく。	保護者からの評価が高く、満足できる結果になっている。誰一人取り残さない学びは難いから、向かわせることには良い。学校より校長先生の文面よりも個々の思いを丁寧に受け取っていることが何える。授業時間きちんと座って受けている。20%ぐらいの児童に継続して支援員を配置すると良い。	4.0	
		・自分の子は、自分から進んで授業に取り組んでいると感じている保護者の割合	80 78	82 85							
		ねらいを明確にし、分かりやすい授業をする。【学校経営方針3の(6)】	・授業が分かるという児童の割合	95	98	A					授業が分かるという児童の割合が、12月には95%に達し、保護者の評価が昨年度の92%に上がっている。ICT機器を活用し、視覚に訴える授業内容を工夫しながら、休み時間や放課後学習教室などでも学習支援を行っている成果もあると捉えられる。
・教員が分かるという児童の割合	93 86	95 92									
始業前の朝学習時間や家庭学習等の時間を活用して、読み・書き・計算の反復練習に取り組む。	・宿題を忘れず、漢字習得、計算力の平均点が80点以上の児童の割合	95	77	B	目標値は95%なので、あと20%ほどアップが必要である。4・6年生で実施している村山漢検では事前に練習を徹底した学級は点数がアップした。やればできる体験をさせるためにも、効率的な反復学習が必要である。90%の達成を目指すしていく。	家庭と連携し家庭学習の充実を図る。またICTを活用しながら楽しく効率的に反復学習ができるよう指導する。補助教員を通してつまづきながら児童を支援していく。高学年で地域未来塾に参加した児童は算数の点数がアップしている。協力体制を組んで学習をサポートしていく。	保護者からの評価が高く、満足できる結果になっている。保護者のアンケートから「よくわからない」という評価が少なく保護者の関わりも良いと思われる。	3.8			
・自分の子が、宿題を忘れず、漢字習得、計算力の平均点が80点以上と感じている保護者の割合	73 68	75 72									
豊かな 心の 育成	持続可能な社会づくりに向けた意欲と行動を育成する。	【学校経営方針3(1)】 みんなで遊ぶ	・休み時間に校庭でみんなと仲良く遊んでいる児童の割合	100					80	A	80%以上の高い割合で、休み時間に仲良く遊んでいるという評価である。鬼ごっこやサッカーを練習と一緒にやることで、体力向上だけではなくのコミュニケーションの基本を学ぶ大事な活動であるので、引き続き経営方針の重要な柱として掲げている。
		・自分の子が休み時間にみんなと仲良く遊んでいると感じている保護者の割合	81 77	81 80							
		持続可能な開発目標(SDGs)の17のターゲットで目標を達成しよう」を軸にし、学級活動や児童会活動を通して、共創し行動する力を身に付けさせる。【学校経営方針3(2)】 みんなて歌う	・音楽集会や音楽、学級活動などでみんなと楽しく歌っている児童の割合	95	94	A	児童の評価が12月93%と高評価である。音楽集会に向けて音楽の授業でも全クラスで同じ歌を練習して、体育館に響き渡る歌うことで、みんなて歌うことが楽しく、自信を持つ児童も増えてきた。5年生の連合音楽会での発表でも評価できる。	自分の意見を発表できた成果をもとに、一方向ではなく、今度は他者が何を求めているのかを双方で理解し、このように折り合いをつけて話し合いを深めていくかが課題となる。	学校活動として、近隣者やデイスパシに務めている保護者からとても良いという評判を聞いている。表現する場所をたくさん設けて、子供たちは楽しんで参加している。音楽会、展覧会など一生懸命取り組んでいる。歌うことが好きな子供に多い。歌や音楽は、聴覚、リズム感、協調性の育成など良い影響があるのではない。	4.0	
		・自分の子が音楽集会や音楽、学級活動などでみんなと楽しく歌っていると感じている保護者の割合	90 82	93 85							
		【学校経営方針3(3)】 みんなて話す	・学級会や授業でみんなと話し合っている児童の割合	95	90	A					85%の高評価である。校内研で2年間話し合い活動の研究を深めてきた成果とも言える。「みんなが楽しめるお楽しみ会の工夫」などの身近なテーマで話せるようになり、その後他の授業でも発表することに抵抗がなくなってきたからであると捉える。
・自分の子が学級会や授業でみんなと話し合っていると感じている保護者の割合	86 76	88 83									
健やかな 体の 育成	学校2020レガシーを構築する。	運動やスポーツへの興味・関心を高め、体力を高める活動の充実を図る。	・自分からすすんで運動やスポーツをしている児童の割合	95	80	A	評価が70%台と他の項目と比較するとやや低めである。1学期は長縄大会、3学期縄跳び大会と全校で運動会の活動を設定し、実践している。ドッジボール大会、サッカー大会など運動が好きな児童は意欲的に参加しているが、苦手な児童へスモールステップでの対応が必要である。	体育委員会主催で、ドッジボール大会を実施し、全員が楽しく参加できる動きを工夫してきた。鬼ごっこが大好きな児童が多いので、苦手な児童も参加できる楽しい活動を、来年度も工夫して設定していく必要がある。	教員が積極的にスポーツに関わり、地域スポーツの運営にも理解がある。運動する環境はとても良いと思われる。教員の積極的な働きで、運動に取り組んでいる。サッカー大会の様子はすばらしい。	4.0	
		・自分の子がすすんで運動やスポーツをしていると感じている保護者の割合	77 77	78 75							
健康な生活習慣の確立を図る。	「早寝・早起き・朝ごはん・歯磨き」を推進し、健康な体づくりを目指す。	「早寝・早起き・朝ごはん・歯磨き」を推進し、健康な体づくりを目指す。	・自らを振り返り、改善を図るために健康的な生活習慣を送れた児童の割合	95	88	A					85%を超える高評価である。「早寝・早起き・朝ごはん・歯磨き」は、児童の健康、学力向上にもつながる重要な項目である。朝ごはんを食べてこない児童が減るよう呼びかけ、さらにポイントアップを図っていく。
		・自分の子が継続して健康的な生活習慣を身に付けていると感じている保護者の割合	85 81	87 81							
信頼される 学校づく り	日常の学校生活の中で規範意識を高めながら、より良い生活環境や人間関係を構築する。	特に、5つの生活習慣(校帽、挨拶、靴のかかとを踏まない・揃える、イスを引く、水道の蛇口は下にする)にこだわり、年間を通して、定着を図る。【学校経営方針3(4)】	・5つの生活習慣が身に付いている児童の割合	95	90	A	90%台の高めの評価である。朝会での校長講話や委員会が結束して調査を毎日行い、全校に啓発している結果である。この生活習慣がなぜあるのか、将来自立していく上で、この習慣がどうつながるのか意識させ、形骸化しないようにしていく。	朝会での講話、道德の授業など学校生活全体を通して、卒業後でも人生に必要な礼儀を指導している。移動教室など校外に出ても通店できるよう引き続き指導していく。	学校公開時確認したら、しっかりとできていた。生活習慣が身に付いている児童は落ち着いて生活しているが、習慣ができていない児童もいるので学童でも意識を持せていく。決まったことを少しずつ改善して良い方向に進んでいる。	4.0	
		・自分の子が5つの生活習慣が身に付いていると感じている保護者の割合	92 82	90 81							
	誰一人取り残さない学校を創る。	児童に対して、受容的な接し方を教員が身に付け、児童の言葉に耳を傾け、褒める・叱るのメリハリのある指導を行う。【学校経営方針3(5)】	・教員が児童の相談にのり、メリハリのある指導をしていると感じている児童の割合	100	94	A					児童が悲しむ原因は、「先生が話を聞いてくれない。決めてしまおう」ことだという声を聞く、問題行動を指導する厳しさは必要であるが、児童の発達段階に合わせて話を聞き児童に寄り添いながら指導するよう努めていく。
	・教員が児童の相談にのり、メリハリのある指導をしていると感じている保護者の割合	96 88	96 92								
	自分の身を守るために、自分で考え、判断し、行動できる児童を育成する。【学校経営方針3(7)】	安全指導計画を基に避難訓練や交通安全教室、セーフティ教室、ネットのトラブル等の安全教育の工夫を図る。	・危険を予測し、回避できる児童の割合	95	90	A	月1回の避難訓練やセーフティ教室などから、設定された場面(地震、火災、不審者侵入)で自分の身は自分で守るという知識は身に付いているが、自分では思われない。災害はいつ起こるか分からないので、自分で判断し行動できる児童を育成するために、さらに充実させた指導をしていく。	セーフティ教室で事前指導をしてもSNSのトラブルも実証増える傾向にある。スマホの扱いではすでにメールや危険性などは十分理解できているため、トラブル防止の観点が多い。家庭で持たせているものではあるが、使い方を間違えるといじめや大きない事件につながるのて、保護者の意識も啓発する必要がある。	地域の防災士の方々の協力により行っている。外部講師を呼んだり、安全指導を行っている。外部の力を借りて学習していると感じる。自分の身は自分で守る指導は大昔ネットに関しては対策が難しいが、指導の徹底は継続的に必要と思われる。保護者と連携を取り、子供を育てている。	4.0	
・自分の子が危険を予測し、回避しようとしている力を身に付けていると感じている保護者の割合	95 77	91 80									
【達成度】=【達成度】／【目標値】 【低値】：A・8割以上→目標達成とみなし、新たな目標設定。B・8割未満5割以上→8割を超えるまで継続実施。C・5割未満→目標の見直し。				平均値							3.98

武蔵村山市立第二小学校

			自己評価						学校関係者評価			
			目標値		最終評価	分析コメント(学校関係者評価委員会の意見・児童・生徒評価、保護者評価等の意見について、参考にする。)	改善策(来年度の目標設定、具体記取目標)	意 見	評価点 (4点満点)			
			7月 達成値	12月 達成値	評価							
確かな 学力の 向上	経営目標 (中期・短期を明記)	目標達成のための方策	評価指標									
	児童にとって分かりやすい授業を展開する。(中期)	学習の見通しや達成感をもてるように、授業の導入部で学習の「ねらい」を共有し、授業の終わりには学習内容・方法の「まとめ」のある授業を積み重ねる。	・授業が分かったと答えた児童の割合 ・学力が身に付くような授業をしていると感じている保護者の割合		90 86.9 73.1	12月 90.9 90.6	100.1 100.1	A	多くの児童が授業が分かったと回答している。今後も児童一人一人の考えを大切に、授業改善に努めていく。	・今年度は目標値を90にしたが、目標達成のため、さらなる授業改善に取り組む。 ・今後も、「ねらい」と「まとめ」を意識した授業を積み重ね、学校全体としての学力向上に努めていく。	・児童が目的意識をもって学習に取り組むことができる。引き続き基礎学力の定着を図ってほしい。	4.0
	学習内容の確実な定着を図る。(中期)	チャレンジタイムや家庭学習(宿題)等を活用し、反復練習(読み・書き・計算)を強化していく。	・児童と保護者がチャレンジタイムや家庭学習を必要と感じる割合		85 80.2 75.4	79.3 83.7	93.3 98.5	A	7割以上の児童、8割以上の保護者が「チャレンジタイムや宿題で、学習内容が分かるようになった。」と感じている。宿題に取り組むことで学習内容の定着が図られる。今後も、基礎学力の定着のため、家庭の協力をお願いしていく。	・約2割の保護者も学力向上の実感ができていないので、内容や取り組みを保護者の方にも伝えていく必要がある。	・家庭学習は、学習内容を定着させるうえで、大切である。さらに家庭と連携して取り組んでほしい。	4.0
	算数科において、自分の考えをもち、伝え合う児童を育成する。(中期)	児童が自分の考えをもつための手だて、考えを伝えあうための手だてを授業に取り入れるとともに、児童の変容を評価していく。また、算数科の習熟度別学習と、東京ベシック・ドリルの活用を行い、算数科の基礎力の習得を確かにする。	・みんなで考えながら算数の問題を解くことが楽しいと答えた児童の割合 ・算数科の基礎力が習得できていると感じている保護者の割合		80 83.0 64.6	80.7 85.2	100.1 94.0	A	「算数の授業中に自分の考えをもち意見を言ったり、友達との考えを聞いたりすることができた」と感じている児童が8割以上と高い割合となっている。一方で、2割弱の児童が交流に参加できずにいたと感じている。	・児童が自分の考えをもつことができるように、個に応じた指導を継続するとともに、協働的な学びを充実させていく。今後も、公開授業をはじめ様々な場面で普段の授業の様子を伝え、交流の大切さを理解していただけるように努めていく。	・友達と協働し、課題を解決していくことが求められるが、その中で自分の考えを発することができるようになっていってほしい。	4.0
豊かな 心の 育成	「特別の教科 道徳」の授業を充実させる。(中期)	写真や挿絵等の資料提示や補助発問等の工夫を図りながら実践をする。また、「考え、議論する」道徳を展開し、これからの思いや課題について考える時間を設けるようにする。	・自分の考えや他者への思いを深めることができた児童の割合 ・自分の子が道徳の授業を通して、考えを振返ったり、これからのことを考えたりしていると感じている保護者の割合		85 84.2 54.8	83.0 71.8	97.6 84.5	A	「よくあてはまる」、「あてはまる」と答えた児童は8割、保護者は7割程度である。道徳の授業で考えたことを生かし、日常で様々な場面で、その状況に応じて考え、判断のできる児童を育てていく。	・児童が自分事として考えられるように、考える時間に児童に声かけをしたり、授業の工夫を行ったりしていく。 ・道徳授業地区公開講座の参加者を増やすための工夫を講じていく。	・道徳の授業で学んだことを生かして、規範意識を向上させてほしい。引き続き丁寧な指導を望む。	4.0
	体験活動や交流学習に取り組む。(中期)	みかん農園、村山大島紬などに関するまちづくり学習や、縦断り班活動や高校生との交流に仕組み、自尊感情を高める。	・体験学習等が楽しいと答えた児童の割合 ・自分の子が体験学習等を楽しいと感じている保護者の割合		90 85.6 88.5	86.6 95.2	96.2 105.8	A	児童が楽しんでいる様子を実感し意義を感じた保護者が多かった。ただし、「ややあてはまらない」「あてはまらない」と回答した児童は、依然として13%と、消極的な参加をしている児童が存在していることは大きな課題である。	・体験学習の成果と課題を深め、児童の成長につながるよう指導の工夫・改善をはかるとともに、今後、様々な考えの児童に対応した複層的な活動を工夫していく。	・地域の伝統・文化の様々な特色を生かした学びを透して、これからも、ふるさとへの愛着を深めていってほしい。	4.0
	読書活動の充実を図る。(中期)	ブックトークや読み聞かせ、貸し出しカード等の工夫を図り、学校図書館の本を年間50冊以上を借りるとともに、心に残った本を3冊以上挙げられるようにする。	・学校図書館貸出冊数、50冊以上を達成し、かつ、心に残った本が3冊以上ある児童の割合		85 86.2 53.7	75.9 50.7	89.3 59.6	B	すすんで本を読む児童が増えるよう、今後も図書館の時間における読み聞かせや本の紹介を通して本に親しむ機会をつくることや本を読む楽しさを伝えていく。	・来年度の目標値は引き続き85とする。 ・学校司書と図書担当教員の連携を深め、アンケートをもとにした選書をするなど、図書委員会の活動の充実を図っていく。 ・児童の興味や関心を高めるために、家庭での読み聞かせや読書をお願いしていく。	・本に親しみ、読書をするこで、さまざまな楽しみがあるので、読書の習慣が身に着くように願っている。	3.0
健やかな 体の 育成	基本的な生活習慣の確立を図る(中期)	「早寝・早起き・朝ごはん・歯磨き」を推進し、健康な体づくりを目指す。	・自らを振り返り、改善を図るために実践できた児童の割合 ・自分の子が継続して基本的な生活習慣を身に付けようとしていると感じている保護者の割合		85 72.5 82.2	65.7 79.4	77.2 93.4	B	各家庭の継続した取組の結果、よい成果が出ている。今後も保健の授業や給食指導等で「早寝、早起き、朝ごはん」の大切さを伝えていく。	・基本的な生活習慣の定着が図られている。 ・歯磨きについては、保健だよりなどをおとして、家庭での取組の徹底を啓発していく。	・家庭と連携し、生活リズムの乱れをなくす指導を望む。	4.0
	体力の向上を図る。(中期)	個や能力に応じた場の設定等、体づくり運動の充実を図り、運動量を十分に確保できる指導の充実を図る。	・体力づくり運動に積極的に取り組んだ児童の割合 ・自分の子が体力づくりに積極的に取り組んでいると感じている保護者の割合		90 91.1 84.5	88.9 84.6	98.8 94.0	A	「よくあてはまる」、「あてはまる」が8割以上と高い数値を維持している。体育の時間の充実を図り、児童の体力を向上させていく。	・授業の中で「できた」や「成長した」と児童が感じられる授業づくりを今後とも継続していく。	・引き続き、年間を通じて体力づくりの取組を充実させてほしい。	4.0
安全・安心な 学校づくり	自分で考え、判断し、行動できる児童を育成する。(中期)	安全指導計画を基に避難訓練や登校班指導、交通安全教室、セーフティ教室等の安全教育を充実させる。	・危険を予測し、回避できる児童の割合 ・自分の子が危険を予測し、回避しようとしていると感じている保護者の割合		85 91.6 62.3	90.5 73.1	106.4 86.0	A	毎月の避難訓練や安全指導の徹底により、9割の児童が「自分で避難することができる」と回答している。どのような場所や状況でも自分の身を守るようにしていく。	・保護者や地域、関係諸機関と連携し、児童の安心と安全を保障していくとともに、家庭での東京マイタイムラインの活用を促していく。	・定期的な指導を引き続きお願いしたい。	4.0
	学校から保護者・地域への情報発信を積極的に行い、双方の連携・協力体制を強化する。(中期)	保護者・地域に必要と思われる情報を適宜発信する。	・学校からの情報発信に満足している保護者の割合		80 65.8	72.0	90.0	A	「学校からのお知らせやHP等によって、学校の取組や児童の様子が分かる」と回答した保護者が7割を超えた。tetoruを導入したことで、電子データで便りに配布できるようになり、保護者の肯定的回答が増加した。	・ホームページ、X(旧Twitter)、学校配信メール、tetoruなど、各種連絡ツールを適切に運用し、情報発信を充実させていく。	・ツイッターで、学校や児童の様子がよく分かる。tetoruを導入したことで学校だよりをデータで見ることができるようになってよかった。	4.0
[達成度]=[達成値]÷[目標値] [達成度]：A:8割以上、B:7割以上、C:6割以上、D:5割以上、E:4割以上、F:3割以上、G:2割以上、H:1割以上、I:0割以上、J:0割未満 [目標値]：A:8割以上、B:7割以上、C:6割以上、D:5割以上、E:4割以上、F:3割以上、G:2割以上、H:1割以上、I:0割以上、J:0割未満										平均値	3.90	

【達成度】＝【達成値】／【目標値】
 【評価】 A:8割以上→目標達成とみなし新たな目標設定 B:8割未満5割以上→8割を超えるまで継続実施 C:5割未満→目標の見直し

令和5年度 学校自己評価及び学校関係者評価表

武蔵村山市立第三小学校

経営理念	子供も大人も共に成長する学校を指針として、地域・保護者と協働して、確かな学力・健全で豊かな心と体の育成を目指す。
------	--

【学校運営協議会・会長】 河名 省三 学校運営協議会（学校評価分） 第1回 令和6年1月27日（土） 第2回 令和6年2月15日（木） 第3回 令和6年3月12日（火）
--

	経営目標 (中期・短期を明記)	目標達成のための方策	評価指標	自己評価				学校関係者評価				
				目標値		最終評価		分析コメント(学校関係者評価委員会の意見、児童・生徒評価、保護者評価等の意見について、参考にする。)	改善策(来年度の目標設定、具体記な取組目標)	主 な 意 見	評価点 (4点満点)	
				7月 達成値	1月 達成値	達成度	評価					
確かな 学力の 向上	基礎的・基本的な知識・技能の 習得 (中期)	◇朝学習、家庭学習等において、eライブラリを活用したドリル学習を継続的に実施する。 ◇東京ベシックドリル(算数)の診断テストを実施し、個々の課題に応じた学習を行う。	・学校評価アンケート達成率	80	39.4	43.8	54.75	B	達成度は54.8%で、課題として捉えている。保護者からは、「宿題等をタブレットを活用して提出するなど、活用を早急に進捗してほしい。」「子供が学校からタブレットを持ち帰り、以前よりスムーズに操作していることを見て、意欲や能力が伸びている気がするが。」「宿題をしっかりと出してほしい。」などの意見をいただいた。	朝学習、家庭学習でタブレット端末(音読、eライブラリ、ベシック・ドリル、ドリルプラネット)を活用し、個別最適な学びと学習の見える化と児童の学習意欲の向上を図る。本校公式X(旧Twitter)での積極的な情報発信を行う。 学校公開においても、朝学習の様子を公開していく。学力向上につながる地域未来塾のよりよい実施方法を検討していく。	・もっと宿題でタブレット端末の活用を進めたらどうか。 ・保護者の評価が低いのは、朝学習の取組が見えないからだと思う。更なる情報発信や朝学習の公開が必要。 ・保護者も子供の頃には経験していない学習方法なので、データを取り、より効率よくタブレット端末を使っていきたい。	3.2
	思考力・判断力・表現力等の育成 (中期)	◇教員・児童による読み聞かせや読書表彰、朝読書や読書質問等、多様な読書活動を推進し想像力や表現力を育成する。 ◇各教科等の授業の中で、知識及び技能を活用した話し合い活動や書く活動を充実させる。	・学校評価アンケート達成率	80	61.2	60.8	76	B	達成度は76.0%で、概ね理解をいただいていると捉えている。保護者からは、「以前行っていた有志の保護者による読み聞かせが出来たように思う。」「子供たちはイベント時には熱心だが、普通の授業への意欲がないように見える。底上げを期待している。」「読書の時間をより多く持ってもらいたい。」などの意見をいただいた。	学校全体の取組である朝読書や読書質問等の読書活動を充実させ、児童が本と向き合う時間を確保する。各学級の図書庫の時間の進行管理を適切に行い、ブックトークや読み聞かせなど、児童が読書に親しみをもてるようにしていく。また、本をたくさん読んだ児童を表彰する活動を引き続き行っていく。	・親と子の読書交流などがあってほしい。 ・本の楽しさ、面白さを伝えてほしい。 ・表彰されることを目標に読書をする者が多くいるので、とても良い取組だと思う。 ・子供がもっと読書に親しみをもてる活動を期待したい。	3.3
	主体的に学習する態度の育成 (中期)	◇授業や家庭学習等でICT機器(タブレット端末や提示用スクリーン等)を効果的に活用する。 ◇授業や様々な活動において、目標設定、選択の機会を設定する。	・学校評価アンケート達成率	80	60.0	70.6	88.25	A	達成度は88.3%で、概ね理解をいただいていると捉えている。保護者からは、「先生がスクリーンに示しながら説明して、子供たちもより意欲的に授業に参加しているように見えた。」「ICT機器を利用することで、授業内容がよりイメージしやすく、理解しやすいように感じた。」などの意見をいただいた。	校内研究で有効なタブレットの活用場面や活用方法を追究し、各教科・領域で、タブレットの活用を積極的に進めていく。また、全学年でタブレットの家庭への持ち帰りを行うことで、家庭学習での活用も推進していく。	・パソコンやタブレット端末を積極的に利用してほしい。 ・ICTの授業は準備が大変だが、更に活用してほしい。 ・機器の活用方法を工夫し、意欲向上を図ってほしい。 ・ICTは黒板よりも効率よく視覚で捉えられるので、データを取り、よりデジタル機器を活用し、業務量削減を目指してほしい。	3.9
	学習規律の徹底 (短期)	◇話し方や聴き方、返事の仕方、姿勢など学習規律を徹底する。	・学校評価アンケート達成率	80	60.0	50.3	62.88	B	達成度は62.9%で、課題として捉えている。保護者からは、「授業態度や友達への態度があまり良くないようで、学校は正しい指導ができていないように感じる。」「子供たちの話を聞いても、集中して勉強や活動に取り組める環境では無いように思う。さらなる向上を目指してほしい。」などの意見をいただいた。	学習規律を統一した三小スタンダードを作成していく。また、学校を跨いで指導するとして、自身の成長を実感させる。また、児童相互に議論する場やロールプレイ等の時間を意識的に設定することで、友達への考えや、自己の考えが深まるような指導の工夫を図る。道徳授業地区公開講座に、さらに多くの保護者が参加するよう、内容の周知と働きかけを行っていく。	・「三小スタンダード」は、作成後教職員が共通理解のもと指導にあたってほしい。家庭への指導も大事である。 ・学校の現状を保護者に理解してもらう取組が必要。 ・学校は、集団で生活する学びの場であることを子供たちにも理解してもらう必要がある。	3.2
豊かな 心の 育成	全教育活動を通じた道徳教育の 推進及び道徳科の授業改善 (中期)	◇保護者会や地域との懇談等で児童の道徳性や規範意識等を話題にし、家庭や地域と道徳教育の成果や課題を共有することで連携を図る。 ◇道徳科の授業において、児童相互に議論する場を設定するなど、自己の考えが深まるよう、道徳ノート等を効果的に活用し、指導の工夫を図る。	・学校評価アンケート達成率	80	55.7	60.1	75.13	B	達成度は75.1%で、概ね理解をいただいていると捉えている。保護者からは、「子供全体的に挨拶があまり重要視していないように感じる。」「校長先生がいられる学校を望みます。」「SNSでの誹謗中傷などの社会問題について、子供たちに考えてもらう授業を取り入れてほしい。」などの意見をいただいた。	学習の振り返りをノートにし、毎時積み重ねる。意図的に学習を振り返らせることで、自身の成長を実感させる。また、児童相互に議論する場やロールプレイ等の時間を意識的に設定することで、友達への考えや、自己の考えが深まるような指導の工夫を図る。道徳授業地区公開講座に、さらに多くの保護者が参加するよう、内容の周知と働きかけを行っていく。	・授業以前に家庭での教育が大切である。 ・道徳授業地区公開講座にもっと保護者が来てほしい。意見交換会は、6年生の活発な意見交流が素晴らしい。 ・各段の道徳の授業の充実をお願いしたい。 ・SNSの使い方、ネットリテラシーについても、指導する機会があるとよい。道徳教育の必要性を最近特に感じる。	3.4
	規範意識及び社会性の向上 (中期)	◇三小のきまりや三小SNSルールをはじめとする「きまりを守ること」の意義について理解を深める指導をし、学校生活の中でその意義を実感できるように活動を実施させる。 ◇全ての教職員があいさつを実践し、保護者や地域とも連携して、あいさつの習慣の定着をめざす。	・学校評価アンケート達成率	80	70.3	66.6	83.25	A	達成度は83.3%で、概ね理解をいただいていると捉えている。保護者からは、「学校全体的に挨拶があまり重要視していないように感じる。」「校長先生が率先して南の日も校門前に立って朝の挨拶を行っている。」「挨拶で先生が少ない元気な挨拶ができるよう指導してほしい。」などの意見をいただいた。	教職員が率先して児童に挨拶するなど、積極的に児童への声掛けを行う。代表委員会の挨拶運動を通して、全学年の児童が互いに挨拶を交わせるようにしていく。道徳や学級活動の時間等に「きまりを守ること」や「挨拶の大切さ」について話し合う機会を設定する。	・課外活動等でも挨拶の重要性を感じていると思う。他者との交流の機会を増やすのが効果的だと思う。 ・上級生は挨拶がよくなる。下級生もできるよとい。 ・登下校時に必ず挨拶ができるようになるように。 ・以前に比べて、挨拶できる児童が少なくなった。	3.9
	児童一人一人を大切にしたい教育の 推進 (短期)	◇年3回の服務研修を要として教職員の人間感覚を高め、いじめ防止研修を通して早期発見、早期対応の力を養う。 ◇呼名の仕方、指示物等、児童一人一人を大切にしたい教育を全校あげて実践する。 ◇ふれあい月間において、いじめについて児童が主体的に考える取組を実施する。 ◇SCによる5年生児童全員への面談、いじめアンケート等を活用し、いじめ・不登校の未然防止・早期発見の徹底を図る。	・学校評価アンケート達成率	80	64.9	58.8	73.5	B	達成度は73.5%で、課題として捉えている。保護者からは、「いじめや不登校を未然に防ぐのは難しい。学校と家庭の連携が大事だと思う。」「子供たち一人一人の性格や特性をしっかりとみて、丁寧に指導してほしい。」「いじめに対して学校はどのような対応を、明確に説明してほしい。」などの意見をいただいた。	年3回のふれあい月間の時に道徳の授業の学校Xで保護者に伝える。11月の縦割り活動で6年生がいじめに関する読み聞かせを行い、それについてどう思うかという話し合いを異学年間で行う。またその様子も学校Xで保護者に伝える。いじめアンケートをフォームでデータ集計し、生活指導士より等データとともに学校での聞き取り等の様子を伝える。	・いじめは、一方的な指導だけでなく、普段から子供たち自身に問題意識をもたせ、話し合う機会を多くしたい。 ・学校任せにせず、保護者への意識付けも大切である。 ・中学年の過ごし方によってその後の高学年の雰囲気が変わってくるので、4年生でもSCの面談があるように。 ・もっといじめについて、子供同士で話し合ってもらいたい。	3.2
	健康の増進と体力の向上 (中期)	◇体力テストにおいて、個々の目標を設定するなど意欲をもって主体的に活動に取り組むよう工夫する。 ◇丘の上スポーツタイム等の体育的活動の充実を図るとともに、体力向上に向けた授業の改善を図る。	・学校評価アンケート達成率	80	80.0	69.2	86.5	A	達成度は86.5%で、概ね理解をいただいていると捉えている。保護者からは、「丘の上スポーツタイムは、毎回違う種目で楽しく友達とできるので、満足感が高い。」などの意見をいただいた。	体育の授業を充実させるとともに、丘の上スポーツタイム等の体育的な活動を継続的に行うなど、児童の運動する習慣が身に付くようにしていく。その中で、身体を動かす楽しさを児童一人一人が実感できるようにする。	・読書と同じように、一定の成果に対して表彰があるとよい。また、積み重ねを記録して、競い合うのもよい。 ・放課後の校庭開放はとも良いと思う。環境の良さを生かし、体力向上の取組を進めたい。 ・丘の上スポーツタイムはとても充実していてよい。	3.9
特色ある 学校づく り	学校保健活動や健康課題の情報 発信 (中期)	◇生活リズムチェック等を通して、児童の健康課題の把握する。 ◇毎月の保健だより等を通じて、学校保健活動や健康課題の周知を行う。	・学校評価アンケート達成率	80	81.2	77.2	96.5	A	達成度は96.5%で、概ね理解をいただいていると捉えている。保護者からは、「生活リズムチェックの結果をみて、どのような生活リズムが心身ともに良いか悪いかを学校で話し合ってみたらどうか。」「ハンカチやちり紙を持ってこない子供が多い。話の意見もいただいた。	学校保健委員会等で、三小の健康課題について話し合う。また、家庭への啓発だけでなく、保健だりでの周知だけでなく、保護者会時に結果をお知らせできるよう資料の作成を行う。	・生歯が多いという課題に対し、何か取組が必要である。 ・生活リズムチェックを実施することで、児童の生活リズムをよく把握できていると思う。 ・ゲームやスマホの利用が課題になっている。家庭との連携が必要である。	3.9
	ゼロカーボンシティチャレンジ教育の 推進 (中期)	◇第三中学校区で取り組む環境教育(ゼロカーボンシティチャレンジ校)の推進。 ◇地域の商業施設や、農園等と連携を図り、校内から市内へ活動の幅を広げる。	・学校評価アンケート達成率	80	56.4	72.6	90.75	A	達成度は90.8%で、概ね理解をいただいていると捉えている。保護者からは、「イオンモールを活用したフリーマーケット等の学習は、とても良い経験になったと思う。」「今後も地域資源を活用した学習機会を設けてほしい。」などの意見をいただいた。	ゼロカーボンチャレンジ校として学校、保護者、地域で取り組んでいくという意識を高めるために、日頃から学校・学年だよりXにて発信を行っていく。今年度は様々な機関、商業施設等と協働して学習を進めることで高い効果を得ることができたことから、今年度の取組を次年度にも結び付けられるシステムを構築する。	・イオンモールでのフリーマーケット等の学習を今後も続けてほしい。児童に興味をもたせる取組ができている。 ・地域で活動することで、子供たちのゼロカーボンの意識が高まり、保護者は子供の成長を実感したと思う。 ・低学年でもゼロカーボンを意識した取組があるとよい。	4.0
	地域とともに歩む学校 (中期)	◇地域未来塾開始から3年目、地域の人材(学生)を活用した事業の充実を図る。 ◇学校運営協議会や三小中学校区教育推進協議会を中心に、保護者・地域と協働した活動を通じ、児童の健全育成を図る。	・学校評価アンケート達成率	80	75.2	75.8	94.75	A	達成度は96.8%で、概ね理解をいただいていると捉えている。保護者からは、「グリーサポーター等のイベントの質が化て良く、子供たちも楽しんでいる。今令児童が体験できるとよい行事ばかりだった。」「PTA活動(子供会)や青少年活動の直直しが必要。今の時代に合ったスタイルに変える必要がある。」などの意見をいただいた。	学校運営協議会を核としたPTAや青少年対、チーム丘の上、親父の会やグリーンボーダー等と連携し、児童の健全育成に向けた活動(行事)を計画していく。また、活動のねらいや内容を精選し、持続可能な行事を計画していく。	・学校と地域の繋がりが深まっていると感じる。 ・企画段階から、児童が参画できるとさらによい。 ・今の時代にあつた活動に変わっていった方がよい。見直す必要がある意見の内容を聞いてみたい。 ・体験型の楽しめるイベントを計画してきた。	3.9
	情報発信力の強化 (短期)	◇ホームページ、学校公式ツイッター、一斉配信メール等を通じて、リアルタイムな情報発信に努める。	・学校評価アンケート達成率	80	80.6	83	103.75	A	達成度は103.8%で、高い理解をいただいていると捉えている。保護者からは、「X(旧ツイッター)の更新が毎日あって、毎日学校公開に行っているような気分を味わえる。」「いつも学校公式Xを楽しみにしている。」「メールでの発信は、こまめに届いてよいと思うが、もう少し短い文章でもよいと思う。」などの意見をいただいた。	ホームページやX(旧Twitter)、一斉メール等今後も積極的に活用し、学校の教育活動をリアルタイムに発信していく。学校評価アンケートで、「わからない」の回答者が多かった項目を中心に情報発信を増やしていくよう努める。	・高頻度で情報発信をしており、大変素晴らしい。子供たちの様子がよくわかりやすいと思う。 ・SNS(X)の活用がうまくできていて、保護者の知りた情報等がしっかり発信できていると思う。 ・一斉メールも効果的に活用されている。	4.0
平均値									3.65			

【達成度】＝【達成値】／【目標値】

【評価】 A:8割以上→目標達成とみなし新たな目標設定

B:8割未満5割以上→8割を超えるまで継続実施

C:5割未満→目標の見直し

令和5年度 学校自己評価及び学校関係者評価表

武蔵村山市立第八小学校

経営理念	人間力を高め、夢と希望を育み、笑顔あふれる学校
------	-------------------------

【学校運営協議会・会長】井 上 一 弘 学校運営協議会（学校評価分） 第1回 令和5年7月6日（木） 第2回 令和5年12月7日（木） 第3回 令和6年1月25日（木）
--

	経営目標 （中期・短期を明記）	目標達成のための方策	評価指標	自己評価				学校関係者評価	
				目標値	最終評価	分析コメント(学校関係者評価委員会の意見、児童・生徒評価、保護者評価等の意見について、参考にする。)	改善策(来年度の目標設定、具体記取組目標)	意 見	評価点 (4点満点)
確かな学力の向上	《指導力の向上》 ◆(中期) 学習意欲、思考力・判断力・表現力の向上 ◆(中期) 知識・技能の確実な定着	◇授業改善推進プランに基づき、「学習意欲」「思考力・判断力・表現力」の向上と「知識・技能」の定着を図る。 ◇東京ベージック・ドリルの内容の、7割以上の定着を図る。	○(保護者アンケート)肯定的評価の割合 ○第5学年調査と類似問題の結果の比較 ○ベージック・ドリル診断テストCの結果	80 7月達成値 62 12月達成値 63	78.13 B	・「学習意欲」「思考力・判断力・表現力」の向上を図るよう計画的に授業をしている教員が多い。 ・問題解決型の授業を展開し、一人一人が考えをもつ機会をもたせることで、多くの児童が自分の意見をもてるようになった。 一方で、なるほど塾では学習態度や礼儀が身に付いていない児童もあり、地域の方に御迷惑をかける実態があることが分かった。	・地恵の支援や個別支援、友達との教え合い等しながら、一人一人が様々な説明をしたり聞いたりする活動をさらに増やしていく。 ・新しい学習をする際には、既習の学習とつなげて理解させるような授業展開をし、既習の問題を繰り返し解いたりして、既習事項の定着を図る。 ・家庭や地域と協力して学習内容の定着を図っていく。	・「数」をもとに考える力が不足しているように感じるので、家庭学習の習慣をつけさせたい。 ・昨年度より評価が落ちてしまった。地域の人が関わる時間は限られるので内容を深めることができればいいのか。	3.0
	《地域との連携》 ◆(中期) 保護者・教育支援ボランティア(地域)を活用した共同活動の推進	◇「繰り上がり」「繰り下がり」の徹底を図る。(基礎学力の定着) ◇「かけ算九九」(基礎学力の定着)・・・11月、3学期末 ◇「ハハハなるほど塾」(基礎学力の定着)・・・2学期に実施 《詩の暗誦》(基礎学力の定着) ◇ 期末テストを実施して、学習内容の定着を図る。	○「伸びゆく子」の評価	80 65 68	83.13 A	・宿題の九付けや音読、九九等を保護者にお願いして、児童の学習を学校と家庭とで連携を図りながら支援することができている。 ・保護者会や学年便り等で期末テストを取り組む意義を伝えたことで、児童の家庭での学習意欲向上につながった。 ・一方で、なるほど塾では学習態度や礼儀が身に付いていない児童もあり、地域の方に御迷惑をかける実態があることが分かった。	・宿題の九付けや音読、九九、なるほど塾の九付けボランティア等、効果が期待できるものについては今後も継続していく。 ・期末テストにおいて不合格のまま学期末を迎える児童のためにも、今まで以上に保護者への啓発をして、不合格者ゼロを目指す。 ・なるほど塾の対象となる児童を見直す等して、地域の方が安心して学習指導をできる場となるように工夫する。	・地域の人が児童にしていることを、広く深く知ってほしい。	4.0
	◆(中期) いじめ撲滅への取組	◇週1回の生活指導タ会上合わせて、学年内で、いじめ認知の確認と、報告・協議を行う。 ◇月1回開催する「特別支援校内委員会兼いじめ防止対策委員会」で、いじめ認知の確認と、報告・協議を行う。	○「ふれあい月間」の結果 ○(自己評価)肯定的評価の割合 ○(保護者アンケート)肯定的評価の割合	80 85 75	100 A	・生活指導タ会や特別支援校内委員会、いじめ認知や指導、対応の方法について話し合うことを通して、いじめの未然防止、早期発見につなげることができた。 ・目録から児童の様子を注視(観察したり、学年全体に話したりしている。また、保護者にも積極的に連絡をし、学校と家庭で指導ができるようになっている。 ・保護者の理解があって大きな問題に発展していないケースもある。	・生活指導タ会や特別支援校内委員会への報告、連絡、相談を継続して行っている。 ・「ふれあいアンケート」等を活用して、今後も児童の様子を丁寧に見取り、改善するまで指導を続けたり、学年全体が仲よく過ごせるように環境づくりに取り組んだりしていく。 ・この学年の児童についても見逃さずに指導し、学校全体でいじめ未然防止に努めている。	・人を思いやることの評価が上がるのはうれしい。続けてお願いします。	4.0
	◆(中期) 特別支援を要する児童への対応	◇特別支援コーディネーターを中心に学校(担任、学年主任、生活指導主任、養護教諭、SC、特支専門員、等)と保護者、外部機関(教育相談、医療、等)で適切な支援の共通理解を図る。 ◇月1回開催する「特別支援校内委員会兼いじめ防止対策委員会」で、該当児童への支援の確認と協議を行う。	○(自己評価)肯定的評価の割合	80 78 72	93.75 A	・特別支援校内委員会にて支援を要する児童について情報共有し、今後の支援の方策を検討することができている。また、保護者とも支援について確認することができた。 ・学習や学校生活の中トラブルや困り感があった際には、特別支援教室の先生方にも相談しながら支援につなげることでできた。 ・一方で、学級内で支援を要する児童への対応が手回ってしまったり、担任一人で授業を進めながら個別支援をするごへの難しさを感じる教員がいたりする現状がある。	・今後も特別支援校内委員会にて情報共有をして、支援の方策について検討していく。また、保護者とも連携を密に行い、適切な支援の方策について共通理解を図っていく。 ・SCや巡回心理士等、担任以外の方々様子を見て、児童の特性を見極めたり、適切な対応の支援について考えたりして、より一層多角的な視点で児童理解を図っていく。 ・支援の方策について振り返りを行い、より適切な支援について検討を重ねていく。	・支援を要する児童にも様々なニーズがあるかと思いますが、地域でも何かができることがあれば応援したいとします。	4.0
豊かな心の育成	◆(中期) 思いやりの心をもち、明るい挨拶や会釈のできる子供の育成	◇「挨拶の励行」を推進する。(随時) ◇【徳育科】指導法、評価方法、指導資料や教材の開発を柱に、豊かな心の育成を図る。 ◇校外学習を徳育科の実践の場と捉え感謝の気持ちや言葉や態度で表せるようにする。	○(自己評価)児童の行動についての肯定的評価の割合 ○(児童アンケート)肯定的評価の割合 ○(保護者アンケート)肯定的評価の割合	80 75 76	94.38 A	・児童アンケートで肯定的回答が92%を示し、学校や学年の平均値よりも高い数値を示した学校がある。 ・廊下で先生にすれ違った際に挨拶する指導を学年全体で毎日行ったことで、進んで挨拶する児童が増えた。 ・校外学習では望ましい姿が見られるが、日常生活の中で実践することが難しい児童もいる。	・職員も校内で挨拶することの意識をより一層高め、児童の手本となる行動をしたり、進んで挨拶する児童を褒めたり価値づけたり、挨拶の良さについて納得させたりして、気持ちの良い挨拶のできる児童の育成を目指す。 ・徳育科の学習や日々の生活指導を通して、言葉遣いを整えたり思いやりの心をもたたりする指導を重ねていく。	・「お手伝いクラブ」の活動の際に、児童が元気で明るい挨拶をしてくれるので、こちらも元気をもらうことができ。豊かな心の育成の成果が現れていると思う。 ・挨拶は身を守ることもにも役立ち、周りの人を気持ちよくさせる効果もあることを感じていただきたい。	4.0
	◆(短期) 話を一度で聞き取る子供の育成	◇「教室の中で話しているのは一人の」「教室」を、全校朝会、児童集会、学年集会、等の場に拡大し、推進する。	○(自己評価)肯定的評価の割合	80 61 56	73.13 B	・全校朝会や児童集会、学年集会等、全体で集まっている場面では、最後まで話を聞くことができるようになってきた。 ・児童アンケートでは肯定的回答の割合は、平均値に近い数値であったが、最上位の回答(よくあてはまる)の割合が低い数値であった。 ・静かに聞いているように、「聞き取る」「聞いたことを行動に移す」ことが難しい児童が多数いる。	・話を聞くことの大切さを指導しながら、他者の話大切に聞いている児童を褒めて価値づけ、話を一度で聞き取る児童の育成を目指す。 ・「教室の中で話しているのは一人」ということを、今後も学校全体で指導していく。 ・話が終わった後に、どれほど理解できているか確認することを通して、考えながら話を聞いた一度で聞き取りでできる児童の育成を目指す。	・災害時や突発的な出来事があった時に、先生の指示を正しく聞き取ることは身を守ることに大切な大切な力だと思っていて、6年間指導してきた。 ・話を聞きながら、自分の考えを展開していくことは大人でも多くあり、難しい課題かと思えます。	3.0
	◆(短期) 「早寝、早起き、朝ご飯、(歯磨き)」の徹底	◇健診の際に行う保健講話により意識付けを図る。 ◇各学年の目標値を明確に示し、8割以上の定着を図る。	○生活リズムの集計結果 ○(児童アンケート)肯定的評価の割合 ○(保護者アンケート)肯定的評価の割合	80 61 62	76.88 B	・日々の学級指導や保健の授業で、早寝・早起き・朝ごはんについて指導している。 ・生活リズムチェック表では、早寝・早起きを意識している児童の割合が少なかつた。 ・インターネットやSNSの利用で遅くまで起きている児童や朝ごはんを食べない児童が一定数いる。それに伴い、遅刻が続く児童もあり、家庭に連絡を取って生活習慣の改善を求めた。	・保健便り等を活用しながら、今後も「早寝・早起き・朝ごはん」について指導したり、安定した生活リズムで生活できたりするように指導を続けていく。 ・保護者会等で保護者へ働きかけ、家庭での生活リズムを整えられるように啓発していく。	・学校としてはこれ以上の働きかけは難しいと思う。何か地域で出来ることは何か検討していきたい。 ・家族揃って行うことが難しい環境も多いかと思えます。できることが限られるので、やはり難しい課題かと思えます。	3.0
	◆(中期) 運動好きの児童の育成	◇中休み・外遊びの奨励、なわとび集会、体力向上月間、学級全員の育成の機会を充実させる。 ◇OJTタ会で体育指導を扱い、体育授業の充実を図る。	○新体力テストの結果 ○(児童アンケート)肯定的評価の割合	80 74 75	93.13 A	・休み時間以外遊びに行くように声掛けをするともに、一緒に遊ぶことによって運動する機会を作れたり、児童の外遊びの習慣化を図れたりすることができた。 ・体力テストの結果を見ると、ほとんどの項目で全国平均を下回っており、さらなる体力向上が課題となっている。	・今後も学級遊びをしたり、教員も一緒に遊んだりして、外で遊ぶことの楽しさを児童に実感させる。 ・児童が経験したことのな遊びを提唱したり、楽しんでいる運動ができる環境作りを継続したりして、運動に親しみ児童の育成を目指す。 ・体育の授業で運動量を確保したり、運動が苦手な児童でも「運動が楽しい」と実感できたりするような授業計画を立てる。	・周りの人とかを含めることも、身につけてほしいと思います。	4.0
防災意識	◆(中期) 災害や犯罪に対応する取組	◇年間計画に基づいて、実際に近い想定で確実に実施する。(火災、地震、不審者侵入、竜巻、引き取り、集団下校、暴風雨、セーフティ教室、自転車教室、交通安全教室)	○(児童アンケート)肯定的評価の割合 ○(保護者アンケート)肯定的評価の割合	80 85 83	105 A	・避難訓練の事前事後の指導や真剣に取り組む姿勢については徹底的に指導したことで、実際に近い想定で確実に実施することができた。 ・児童アンケートの結果から、8割以上の児童が肯定的回答を示した。避難の方法については、一部の児童が理解している結果となった。しかしながら、「あまりあてはまらない」と回答した児童もいる。	・「災害はいつ自分の身に起こるか分からない」とことを繰り返し話することによって、主体的に考えて行動できる児童の育成を図る。 ・当「教室」に児童が災害や犯罪に巻き込まれた時のことを想定して、地域の方にも協力してもらえる体制を整えていく。	・災害時に、身を守ること、自分ができることを意識しておき、行動できるようにしておきたい。	4.0
	◆(中期) 「思考力・判断力・表現力」の育成を目指し、問題解決型の学習過程を身に付けること	◇全教員が「ハハ授業スタンダード」に基づいた授業を1週間に5回以上行う。 ◇全教員が「一人一研究」に基づいた研究授業を年2回以上行う。	○(自己評価)授業後の肯定的評価の割合	80 63 66	80.63 A	・「ハハ授業スタンダード」に基づきながら、校内研究で行っている算数科の授業や「一人一研究」の授業を中心に、問題解決型の学習を行うことができた。それにより授業の型が身に付いた。 ・学年で相談しながら問題解決型の授業を意識して行ったが、問題を解決していくこととする意欲に欠けている児童が見られたことがあった。 ・授業力向上が今後の課題として捉えている教員がいる。	・今後も「ハハ授業スタンダード」に基づいた授業や「一人一研究」の授業を行い、問題解決型の授業を展開していく。 ・授業の中で児童の意欲的に解決に向かうように、問題作りを大切にしたり、「解決したい」という思いをもたせる工夫をしする。 ・今後も校内研究や市の教育研究会、他校の研究授業等に積極的に参加し、自らの授業力向上に努めている。	・先生方の評価が比較的低いのが気になりますが、よやられていいと思います。ありがとうございます。	4.0
教師としての質の向上	◆(中期) 児童の健全育成、安全対策を推進するために、地域・家庭との連携を深めること	◇教員それぞれが、年間6回程度PTA活動や地域行事へ参加する。 ◇学級からの配布物、電話、面談、家庭訪問などの手段を用いて、適宜保護者と連絡を取る。 ◇年1回接遇研修を実施し、教員の対応力の向上を図る。	○(自己評価)肯定的評価の割合 ○(保護者アンケート)肯定的評価の割合	80 75 76	94.38 A	・コロナ禍の収束に伴って多くの行事が行われ、それらの活動に参加し連携を深めることができた教員が多い。 ・学級便りや学年便り、三者面談、保護者会等で保護者に連絡を行い、連携を図ることができた。児童が頑張った事柄を保護者にお手紙で伝えている教員もいる。 ・一方で、保護者会への出席率が低いことや連絡が取りづらい家庭があることが課題となっている。	・今後もPTA活動や学校運営協議会に参加することで、地域や家庭との連携を深めていく。 ・地域や家庭の課題を十分に把握して、保護者とともに児童の良さを伸ばしていけるように、より一層丁寧な対応を心掛け、児童の指導に活かしていく。 ・電話や連絡帳を活用して、学校から家庭へ積極的に発信していく。	・防犯パトロール、青少年対策の事業に御協力いただき、本当にありがたい。 ・「お手伝いクラブ」の存在は、ハハを特徴付ける活動の一つであると思う。 ・先生方の多忙を改善する第一にしたいと思っているので、校歌の把握を求めたい。 ・先生方が活躍できる環境をつくるために、地域の方がお手伝いできるような心がかたいと思います。	4.0
平均値									3.73

【達成度】=【達成値】／【目標値】

【評価】 A:8割以上→目標達成とみなし新たな目標設定

B:8割未満5割以上→8割を超えるまで継続実施

C:5割未満→目標の見直し

達成値 4:よくできている 3:おおむねできている …肯定的

2:あまりできていない 1:できていない …否定的

経営理念	・夢や目標の実現に向けて、自らの道を切り拓く子供を育てる学校 ・自己を確立しつつ、自己肯定感をもち他者や地域社会のために力を発揮できる子供を育てる学校
------	--

【学校運営協議会・会長】石橋 修

学校運営協議会（学校評価分）
第1回 令和6年2月16日（金）

	経営目標 (中期・短期を明記)	目標達成のための方策	評価指標	自己評価						学校関係者評価	
				目標値		最終評価		分析コメント(学校関係者評価委員会の意見・児童・生徒評価、保護者評価等の意見について、参考にする。)	改善策(来年度の目標設定、具体記取組目標)	意見	評価点 (4点満点)
				前期 達成率	後期 達成率	達成度	評価				
確かな 学力の 向上	(中期経営目標) 質の高い授業の実現 児童の学ぶ意欲の向上と確かな学力の育成	朝学習、家庭学習等を有効に活用し、漢字、計算、言語等の基礎・基本の定着を図る。	市学力調査での基礎学力の正答率	80	62	B	市学力調査では、到達目標としていた数値には届かない結果となった。「授業が楽しい」という児童の気持ち大切にしながら、今後も漢字や計算等の基礎的・基本的な学習の定着と、自分から課題に取り組む意欲の育成を目指す。	朝学習の内容を計画的に進め、主に基礎・基本の繰り返しを徹底していく。また、授業では基礎・基本の定着を図る指導と、思考力・判断力・表現力を育成する指導を、明確に行っていく。家庭との連携をとりながら家庭学習の充実も図る。	・計算は、日常生活の中で利用できるような促していく。予習は次の授業に集中でき、楽しみになるもの。国語は読むだけでもよいと思います。 ・基礎学力は大切なので、もう少し達成感が上がるように思う。	3.2	
				50							
		自分の考えをもつことを大切にするとともに、互いの考えや意見を交流する場や学び合う機会を設定し、思考力・判断力・表現力を育てる。	児童アンケートによる取組評価	90	96	A	話し合いの場を設定し、具体的な指導をすることにより、児童自身が自分の考えを持ち、他の考えと比較することをとおして、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている児童が増えた。	探究的な活動をおこなって、自分なりの問題を設定し、解決の見いとおしをもち、情報を比較・分類する、表現・改善する等の学習姿勢を身に付けさせる。こうした活動を継続していくことにより、思考力・判断力・表現力を育成している。	・これらの取組はとてもよい。 ・読書習慣をつけ、興味深かった本の感想文を書かせることで思考力、判断力が養われるものではないかと。	4.0	
				89							85
	(短期経営目標) 基礎的な学習内容の定着と思考力・判断力・表現力の育成	指導体制や指導方法の工夫(含：ICT機器の活用)を通して質の高い授業を提供し、児童が「分かる」「楽しい」と思える授業作りを目指す。	児童アンケートによる授業への肯定的評価	95	94	A	授業が「分かる」「楽しい」と感じている児童の割合は約90%ほどいる。これは、各教員の熱心で丁寧な教材研究の賜物である。しかし、否定的な評価を受けている児童が約10%程度いるのも事実であり対策が必要である。	全児童が、「分かる」「楽しい」と感じられるような授業展開を工夫していきたいよう、担任だけでなく学年で授業の進め方や児童一人ひとりの学習の習熟度やつまづきを的確に捉え、支援していく。	・ICT機器を使った授業は子供がうれしいようです。 ・子供の吸収力は素晴らしいものがあります。学ぶ楽しさがわかると最高です。	4.0	
				90							89
		学年に応じた読書目標の設定、ボランティアを含めた図書室の整備、読み聞かせボランティア活動の継続等を通して児童の読書習慣の獲得・定着を図る。	読書目標に到達した児童の割合(低学年は120冊・中学年は80冊・高学年は50冊)	70	50	B	読書目標に達している児童の割合は低く、達成度は50%であったが昨年度の32%より大幅に向上した。読書習慣を獲得している児童や、個々の読書量は個人差がある。	学校司書を有効活用したり、授業のねらいに応じた活用方法を工夫していく。また、児童が意欲的に、楽しく読書できる環境整備や時間の確保をしていく。読み聞かせなど、児童の生活の中に読書習慣を定着させていく。	・素晴らしい取り組みです。思考力、判断力を養うのに好きな本の感想文を書かせて効率的だと思います。 ・読書目標の達成は個人差が大きかったとのこと。本を読む事で想像力が豊かになるので習慣になるとよいです。 ・読書を楽しむ頃から習慣化する事は今後の国語力、発音力、発想等を大きく育ててくれるので、もっと本を読んでもらいたい。読み聞かせボランティアも継続したい。	2.6	
				35							
豊かな 心の 育成	(中期経営目標) 安心・安全で、児童が前向きな意欲をもてる学校生活の実現	あいさつ、相手を大切にする言葉遣いの2点を重点におき、生活における言語環境を整える。	教職員による成果評価	90	100	A	1学期は生活目標にもあるとおり児童は挨拶をしっかり行っていたが、少しずつ挨拶をしようにする意識が薄れていった。言葉遣いに関しては、ほとんどの児童が丁寧な言葉遣いを心がけていた。	年間をとおして、丁寧な挨拶、時と場合に応じた言葉遣いを意識できるようにさせ、互いを尊重する望ましい人間関係を育てていく。また、教員側も、言語環境を整えていく。	・あいさつよく出来る子もたくさんいます。先生方も少しあいさつがほしい。 ・相手を大切にする言葉遣いは、いじめ防止にもつながり、大人になっても大切なことで、ずっと頭に残るものではないかと。 ・家の近所で九小の児童に会うと、顔を知っている児童はみんなあいさつしてくれていると思う。	3.9	
				90							
		いじめ防止に関わる授業、「学校生活アンケート」、都スクールカウンセラー面談、縦割り班活動による複数の教員の見取り等により、いじめや不登校の未然防止、早期対応に努める。	児童アンケートによる学校生活に対する肯定的評価	100	93	A	学校生活に関する肯定的評価は95%とかかなり高い数値となった。これは、教員が児童の気持ちに寄り添った対応していたことが取り組んでいる結果だと考えられる。すべての児童が「楽しい学校」と言えるように、今後も努力していく。	学級経営の充実、校内委員会やケース会議による早期対応、ふれあい月間の実施、SOSの出し方教育の実施、スクールカウンセラーの活用等により児童一人ひとりのニーズに応じたきめ細かな対応をしている。	・この取り組みは、とても素晴らしい。いじめ問題は、学校だけではなく、保護者間も含めて対応する必要があると思う。 ・楽しい学校生活、友達関係で、いじめや不登校は減ることでしょう。	4.0	
				92							95
	(短期経営目標) 道徳教育・人権教育の推進といじめ、不登校への取組	縦割り班活動(清掃、遠足、集会)などの異学年交流を通して、年長者には「役割、責任、集団に貢献する態度」を、年少者には「感謝する心」を育てる。	児童アンケートによる縦割り活動への肯定的評価	90	100	A	縦割り班活動に継続して取り組み、自分のよさを発揮し、相手のよさを見つけたりすることができた。異学年交流をとおして、自分の役割を見付け、集団に貢献することができていた。学校関係者の評価も高かった。	縦割り班活動(清掃、遠足、集会)等の異学年交流をとおして、望ましい集団活動を築き、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築いていけるようにしていく。	・とても素晴らしい取組です。 ・縦割り班で、年少者をリードしたり、いたわる気持ちを養い効果は上がっていると実感。 ・縦割り活動は、九小で長く続く良い活動なのでこれからも続けてほしい。 ・九小は、縦割りの効果でいつも清掃がしっかりできていてきれい。是非これからも続けてほしいです。	3.9	
				91							89
	(中期経営目標) 特別支援教育の理解・啓発と充実 (短期経営目標) 支援を受ける児童への対応	特別支援教室、難聴言語学級との連携を強化し、各学級における支援を要する児童の充実に努める。学校からの通信や学校公開等をおとし、特別支援教育に対する啓発を図る。	保護者アンケートによる肯定的評価	80	99	A	肯定的評価が80%程度とやや低い。校内での取組を学校からの通信や学校公開等をおとし、更に特別支援教育に対する理解を深めていくことが重要である。	個々の児童への支援を強化するために、特別支援教室や難聴言語学級と校内委員会と連絡を密にしていく。特別支援学級担任による合理的配慮の理解啓発を実施していく。また、そのことを保護者の皆様にもお伝えしていく。	・特別支援教育について、もっとよく知りたいです。 ・教職員は本当によく取り組んでいると思います。 ・授業公開をした事は良かったと思う。	3.7	
				78							81
健やかな 体の 育成	(中期経営目標) 丈夫な体とたくましい心の育成 (短期経営目標) 健康な体を意識させる日常の指導の充実	体力テスト結果や体育授業での児童の実態を踏まえ、児童が自らの体力向上について課題意識をもち、改善できるよう指導する。	教職員による取組評価	85	94	A	児童自身が体力向上に向けた目標をもち、持久走や縄跳びに取り組みることができた。特に今年度は縄跳びの強化週間を設け、積極的に取り組む様子が見られた。肯定的評価も高く、保護者の理解を得ている。令和5年度体力向上優秀校(市より表彰)	体力テストの結果に基づき、運動や保健に関する授業や運動会等の体育行事や各種取組を効果的に活用し、更なる体力向上と生活習慣の確立を図っていく。縄跳び、持久走は強化週間を設ける。	・ゲームをする事が多いですから外で遊んでほしい。 ・懸垂、腕立て、なわとびを推奨します。家庭でも一人でできるうえ、得意種目になるかもしれない。自信もつきます。 ・1学期のゴール指導ができた事は、大変良かったと思う。	3.6	
				80							
		保護者や児童に対して、健康増進に関する啓発を継続的にを行い、児童の健康な体の育成を図る。	保護者アンケートによる肯定的評価	90	103	A	保護者アンケートでは、肯定的評価がかなり高かった。むし歯治療率は48%であった。児童の健康な体と心の育成にも、保護者への啓発が必要であった。	毎月の保健だより等をおとし保護者の方に情報をお知らせし、連携しながら児童が自ら心と体の健康を保持増進しようとする意欲を高めていく。来年度は、目標値を見直す。	・健康増進には鉄棒にぶら下がるだけで良い。中学の部活にも意欲がわくのではないかと。 ・健康意識を上げなくてはならない。	3.6	
				88							98
開かれた 学校	(中期経営目標) 積極的な情報提供、計画的な連携と地域・保護者と深める教育を推進する。	地域の人材・施設・自然環境を積極的に導入した体験的な学習、及び保護者の協力を得た活動・学習を年間2回以上実施する。	教職員による成果評価	90	94	A	地域や外部の方々と連携した体験的な活動(かてどん作り、村山大島鳥体験、ミカン農家講師招へい、近隣大型商業施設と連携した学習、老人ホームの方との交流等)を行えた。生活科の学習では、普通道を学校運営協議会委員や青少年委員に教わることもあった。	地域の人の材・施設・自然環境を積極的に取り入れた体験的な学習をとおして、地域を大切にしたいという思いを育み、地域のために自分たちができるところを考え、自ら行動しようとする意欲と態度を育成していく。	・武蔵村山の地域はよい環境があり、勉強するにはとてもよいです。 ・地元自治会の納涼祭では大勢の子供達が来て楽しんでいました。こういうことも大切にしよう。 ・遊びの取り組みで地域の方と交流する機会があり、とても良かったです。	4.0	
				85							
	(短期経営目標) 地域・保護者との連携と、学校教育情報の積極的な提供	情報提供手段として一斉メールや学校Xの運用強化。月に4回以上のHP更新と学校・学級だよりの充実に努める。	保護者アンケートによる肯定的評価	90	103	A	保護者アンケートで高い肯定的評価をいただいた。達成度も、103%であった。HPやXを随時更新したり、学級での様子を学級だよりで発信するよう努めた結果であると考える。	来年度も、情報提供手段として、一斉メールやXを活用し、タイムリーな発信とHP更新を心がけていく。	・学校ホームページの更新は大事であり、九小はよく更新されていると思う。ご苦労さます。	3.9	
				91							96
【達成度】＝【達成値】／【目標値】 【達成率】＝【達成値】／【目標値】×100 【達成度】＝【達成値】／【目標値】×100 【達成率】＝【達成値】／【目標値】×100										平均値	3.68

【評価】 A:8割以上→目標達成とみなし新たな目標設定 B:8割未満5割以上→8割を超えるまで継続実施 C:5割未満→目標の見直し

【評価】 A:8割以上→目標達成とみなし新たな目標設定 B:8割未満5割以上→8割を超えるまで継続実施

C:5割未満→目標の見直し

平均值	3.68
-----	------

「子供と大人がいつも寄り添い、共に学び、一人一人が育ちを実感できる学校」
 ア 児童一人一人が自信をもち、学びのエンジンを動かして伸びる喜びをつむぐ。・意欲をもって学ぶ力と学習に責任をもつ感覚を育てる。
 イ 朗らかな気持ち(心)で、自分も他人も大切にする。(相手の心をよむ)・自分のよさを知り、友達のよさを実感する。
 ウ 体力向上の活動(すべ、登り、健康でたくましく体をつくる)・体育授業や体力向上の取組の充実により、運動の楽しさを実感する。

学校運営協議会(学校評価分)

第1回 令和5年10月19日(木)

第2回 令和6年1月11日(木)

第3回 令和6年2月15日(木)

【達成度】＝【達成値】／【目標値】
 【評価】 A:8割以上→目標達成とみなし新たな目標設定 B:8割未満5割以上→8割を超えるまで継続実施 C:5割未満→目標の見直し

令和5年度 学校自己評価及び学校関係者評価表

武蔵村山市立雷塚小学校

経営理念	知性、徳性、体力、気力を育み、自分も他者も大切に、互いに気遣いができる人間性豊かな児童の育成を図る。
------	--

【学校運営協議会・会長】 吉澤 幹郎 学校運営協議会（学校評価分） 第1回 令和5年7月13日（金） 第2回 令和5年12月21日（木） 第3回 令和6年2月15日（木）

	経営目標 (中期・短期を明記)	目標達成のための方策	評価指標	自己評価				学校関係者評価		
				目標値		評価	分析コメント(学校関係者評価委員会の意見、児童・生徒評価、保護者評価等の意見について、参考にする。)	改善策(来年度の目標設定、具体記取組目標)	意見	評価点 (4点満点)
				7月 達成値	11月 達成値					
確かな 学力の 向上	誰一人として取り残さない、 全ての児童に対する基礎的・ 基本的学力の定着(中期)	①朝モジュール、放課後学習教室(雷塾)の時間等において、東京ベ- ーションドリル等を活用して算数の定着に課題が見られた単元を 集中的に学習指導・支援を行うとともに、「雷塚スタンダード」により 学習ルールを徹底し、児童の学びに向かう姿勢を育成する。	東京ベ- ーションドリル診断 シート及びワークテストに より達成率7割を超える人数 で評価する。	80 58.9	76.8	B	授業時での復習プリントの取組や放課後学習教室(雷 塾)など継続的に取り組んだことで、少しずつ学習の定着が 見られるようになってきた。3学期にも東京ベ- ーションドリル診断シートの結果を受け、課題点を重点的に取り組む、 学力向上につなげるかを検討する必要がある。	さらなる学力の定着を図るために、放課後学習教室(雷 塾)の取組やライズ「eライブラリ」、東京ベ- ーションドリルなどの継続的な取組だけでなく、今年度作成した「雷塚 スタンダード」を周知・徹底させ、学習に向かう態度を十分に 育てていく。	雷塾など新しいことを取り入れて、年間を通して取り 組むことはとてもいいことだと思う。勉強が苦手な子 供たちに対して、補う時間があってよかったと思う。次 年度以降も継続的にやってほしい。	4.0
	分かる授業への改善(短期)	①「授業改善推進プラン」による児童の実態に則した授業改善。 ②1単位時間の授業における指導と目標・指導・評価の一体化を基 盤とした見直し、検討により、児童に力が付く授業づくりを図る。 ③学期に1回以上の授業観察の実施により、授業改善について指 導・助言を行う。	自己申告等の授業観察及び 児童への授業後のアン ケートにより、授業の内容 の理解度を図る。理解し ている児童が被授業者の9 割を超えるか評価。	80 62.9	78.0	A	「授業改善推進プラン」による国語と算数の課題に 対して、具体的に示した手立てに取り組んだことで各 学年の課題点が改善されつつあるが、まだ課題は残っ ている。ICT機器を活用した授業や話し合い活動を取り 入れた授業など、各教科において児童の学習意欲を 引き出す工夫はしている。	児童一人一人が「できた、分かった」と思える授業づ くりのために、教師は不断の授業改善に取り組むこと が大切である。そのために、校内研修や外部の研修 会などを活用して、教師の授業力を向上させる。	若手教員が多い中で、授業観察や授業づくりの工 夫など校内研修をたくさん行っていくことで、授業が 改善されていくと感じた。子供たちのことを考えて、授 業を工夫して、一人一人が分かるまで教えていただ いている。	4.0
	主体的・対話的で深い学 びの実現(中期)	①GIGA端末を利用した自主学習や放課後等を利用した補習学習 の実施により「指導の個別化」を図る。 ②協働的な学びの中において、児童が一人一人に応じた学習課題 等に取り組む機会を提供することで「学習の個性化」を図る。	授業観察において、ほぼ1 00%の児童が主体的な学 習活動を行っているか。	80 63.5	75.7	B	書くことが苦手な児童にノートではなく、一人1台端 末上に打ち込むなど、児童の実態によって一人1台端 末を有効活用して学習課題に取り組むことができた。 また、各教科においてグループ学習などの協働的な学 びの場面も多くみることができた。	児童が主体的に学習に取り組めるように、教員が引 き続き児童の実態をしっかりと把握し、その児童に あった指導法を考え、提供していくことが大切であ る。また、グループでの話し合いだけでなく、ICT機器 を活用した協働的な学びの取り入れていく。	グループ活動が楽しいと言っている子供たちがい て、雷塚小の教員は、日々の授業づくりに邁進して いて感心している。 子供たちの学習の中で、タブレットPCの活用が充 実してとてもよかった。	4.0
豊かな 心の育 成	人権教育の推進(中期)	①人権教育を通じて育てたい資質・能力を育成するために、各学 年の人権教育年間指導計画を見直し、知識的側面、価値的・態度的側 面及び技能的側面に関する取組を各教科等において意図的・組織 的・計画的に実践させる。	学校評価により、重点化し た児童の資質・能力の向 上を評価	80 63.3	76.4	B	校内研究を通して、人権教育における知識的側面、価値 的・態度的側面及び技能的側面に関する取組を各教科等 において意図的・組織的・計画的に行うことができた。その 結果、各学年で人権にかかわる指導の具体的な方法を学 校全体で共有することができた。	今年度の研究の成果を基に、さらに人権教育年間指導計 画の見直しを行い、人権教育の充実を図っていく。児童 の一番の環境である教員の人権感覚を磨くために、校内研 修を実施し、教職員の人権感覚を磨いていく。	話し合い活動では、否定するわけではなく、互いを認め 合いながら、互いに意見を交換できる様子がうかがえた。また 、活動においては互いのいいところを認め、互いを尊重 できていた。	4.0
	自己肯定感や思いやりの 心の育成(中期)	①教育目標の「思いやる子」を重点目標とすること及び人権教育を 推進することを教職員、保護者及び地域に対して、保護者会、学校だ より、学校運営協議会等を通して周知する。道徳教育を通して人権教 育の研究を進め、自分も人も大切にすること人権感覚を養う。 ②互いを認め合う活動をあらゆる教育活動に取り入れる。	人権教育アンケートにより、 自己肯定感における項目 での7割が肯定的になるこ と	80 65.2	77.5	A	授業の中で、友達と関わり活動を取り入れ教育活動を行 ったり、保護者にも人権教育を行っていることを伝えたりした。児童 にアンケートを行った結果、友達を大切にしている児童は 99%であったが、自分を大切にしているというところは、70% にとどまり、他者意識は育っているが、自己肯定感が低い 児童が一定数いることが課題である。	今年度は、自己肯定感を高める手立てとして、活動の振 り返りを行ったが、児童に振り返りの意義を十分に理解さ せることができず、自己肯定感を高めきれなかったと感じた。 次年度は、振り返りの指導内容を精選し、児童がその日の 学習内容と自分の頑張りを認められるようにしていく。	道徳授業地区公開講座では、「思いやり・親切」の学習を する中で、「親切にされるよりも、親切7する側になりたい。」という発 言が出て、思いやりについてしっかりと学べた。また、先生 が児童の意見をうまく引き出すことで、児童の自信につな がっていた。また、児童に合った役割を付けることで、児童の自己 有用感を高めることができた。	4.0
	特別支援教育の推進	①校内委員会を月に少なくとも2回実施し、児童の実態把握に努め、 教職員全体で共有を図る。 ②通常の学級担任と特別支援学級担任との交換授業の実施による 教科指導、特別な支援に基づく個に応じた指導との相互理解を進め る。 ③特別支援教育コーディネーターによる役割を明確にし、校内支援 体制の充実を図るとともに具体的な支援策を実践できるようにする。	学校評価アンケートにおけ る特別支援教育におけ る項目での7割が肯定的 になること	80 64.3	76.4	B	特別支援コーディネーターが各学級の様子を見ることがで き、実態の把握をし、コーディネーターを中心として校内委員会 を行い、個に応じた支援方法を検討し、全教員で確認する ことができた。 一部通常の級の担任が特別支援学級で道徳等の授業を 行った。特別支援学級担任が通常の級での指導を行ってい ない。今後、実施予定である。	特別支援コーディネーターの役割を明確にし、校内計画 体制をより充実させていくとともに、今までのように計画的 に校内委員会を開催していく。 交換授業については、次年度までに計画を立て、行えるよ うにしている。	特別支援学級の学習に向かう意欲は素晴らしいものが ある。また、通常学級との交流や特別支援学級とうしの交 流が盛んで、本校の児童は学年が上がるごとに特別支援 学級やそこにいる児童への理解が深まり、心が成長して いる。	4.0
健やか な体 の育 成	体力の向上(中期)	①校内のOJT等により体育科の授業の充実を図る。 ②外遊びを励行し、持続力だけでなく、体力全般にわたって向上を図 る。 ③持久走月間、体育集会等を設定し、体力向上に向けた全校的な取 組を推進する。	体力調査によりB判定以上 が6割を超えるようにする。	80 60.2	71.6	B	今年度は、タグラグビーのOJT研修を実施することができ た。年間を通じて、もう少し多くの領域でOJT研修を実施し ていくことが課題である。中休みは外遊びを励行するこ とができている。コロナ禍で、児童の体力も低下しているため引 き続き実施していきたい。	昨年度は水泳、今年度はタグラグビーと限られた領域で しかOJTができていないので、多種多様な領域のOJTを を行い、体育科の授業の充実を図っていく。 体育集会は、運動会に関わる内容を実施したため、大縄 や鬼遊びなど体力向上に関わる内容も実施していること と良い。	体力を身に付けるためにただ走るのではなく、タグラ ビーなどの種目を通して楽しみながら体力の向上にと り組める点が良い。 昨年度の水泳の取り組みが基礎体力作りにつながっ ているのではないかと。基礎が身に付いているため、7月 よりも達成値が伸びていると考える。	4.0
人 権 教 育 の 推 進	2020オリンピック・パラリン ピック教育のレガシーの継続(中期)	①校内における交流をさらに盛んにし、「障害者理解」を深める。 ②学校の係活動や委員会、さらに下級生のお世話などを通して家族 や人の役に立つことの喜びを伝え、ボランティアマインドを育てる。	交流やボランティアの活動 における観察で、児童が自 然に活動してればよい。	80 62.9	76.4	B	年間を通して、校内で特別支援学級との交流を実施するこ とができた。 今年度も「落ち葉ボランティア」などの実施で、ボランティ アマインドの醸成に努めた。	校内にとどまらず、近隣の特別支援学校との交流など交 流の幅を広げていけると良い。 「卒業ボランティア」や下級生のお世話など、さらにいろい ろな場面を設定して、ボランティア精神を磨いていく。	ボランティアの基礎は思いやり、思いやりの気持ちを大切 にして指導していくことが大切だと考える。「落ち葉はきボ ランティア」など、児童が自分から取り組めるものを指導 に取り入れると、楽しみながらボランティアに取り組むこと ができる。小学校だけでなく中学校でも体験できたり、家 庭でもボランティアについて話し合うきっかけを投げかけ ていけるとよい。	4.0
	人権教育の一層の充実	①年間4回の授業研究を実施し、人権教育の充実を図る。 ②自分も人も大切にする児童の育成を進める。 ③人権課題に関する指導、個別的な視点の取組に力を入れ、偏見・ 差別を許さない心を育成する。 ④研究発表会を開催し、人権教育を他校への普及、啓発に努める。	人権教育アンケートによ り評価	80 63.8	78.6	A	人権尊重教育推進校として年間を通して、研究授業の実施、校 内環境整備、人権委員会など人権教育の充実を図ることが できた。また、道徳教育を柱として人権尊重の理念等につ いて指導してきたことで、偏見・差別は許さない心を養 うことができた。ただ、自分を大切にすることの育成に課 題が残った。	今後さらに教員が人権課題の理解を回り、人権課題に関 する実践を積み重ねていく必要がある。そのために、研 修会などを通して、東京都区の17の人権課題について理 解を深めたい。そして、自分を大切にすることの育成の育 成のために、人権教育年間指導計画をさらに改善し、継続 的な実践を行っていく。	人権尊重教育推進校として研究を重ね、教職員の 人権感覚が磨かれた。また、児童同士に、互いのよさを見 つけ、伝えるという意識が高まったと考える。 自分を大切にすることという児童の育成については、完 璧主義な面があるかもしれない。学校や家庭で、自己肯定 感が高まるようにさせる声掛けが必要である。	4.0
	地域との深い連携を生かした 教育活動を進める	①学校運営協議会における「教育支援部」の協力を仰ぎながら、地 域の物的及び人的資源を活用した教育活動を計画的に進める。 ②第三中学校区として、小中連携を進めながら、地域における交流体 験、交流学習を実施する。	学校評価における地域との 連携の項目で、7割が肯 定的なことになること。	80 59.8	74.5	B	今年度は、国立感染症研究所の出前授業や水田学習報 告会を実施し、2月には総合防災訓練を実施する。 また、三中学校区の連携としては、今年度ふれあいフェス ティバルは中止になったが、中学校の様子を伝えに中学生 との交流をしたり、積み木作って中学生がお手伝いに来 たりするなど様々な交流を行うことができた。	各教科の年間指導計画を見直して単元によって地域 の方と連携し、ゲストティーチャーを呼ぶなど有効活用 できるように計画を立てる。今年度はX(旧Twitter)や tutorなど様々な発信ツールを使って、地域や保護者への 発信することができたので、来年度も引き続き行ってい く。	地域の物的、人的資源を活用した教育活動が充実し ていた。総合防災訓練では、内容がさらに体系的で、流 れもスムーズであった。 交流については、三中学校区の交流が盛んなので、今 後は、幼稚園、保育園との交流を考えてほしい。たと えば、1年生による学校案内を行うなどとはどうか。	3.0
	「誰もがリーダー」主体的 に仕事に取り組む人材が 育つ「チーム雷塚」の創成	①任せ、見守り、育てること、自ら考え、すすんで実践していく主体的 な教職員を育てる。 ②教え、教わる協働的な職員員の雰囲気作りを行う。	・教員及び保護者への学 校評価アンケートから、 職場への満足感や教職 員の外部への対応など の項目で8割の肯定的 意見。	80 63.6	76.6	A	学校自己評価アンケートから、職場での満足感が目標 値の8割近くまでになった。教職員が互いに連携したり、 助け合ったような様子が多く見られた。また、ベテラン 教員や若手教員関係なく、声を掛け合い、明るい雰 囲気や職員室に見られた。	担当分掌の職務を全うするのはもちろんだが、それ以 外の職務でも気にかけて、声掛けをしたりするなど、 主体的に行動できる教職員や組織として柔軟に対応 できるような教職員をさらに育成していく。	教員同士の関係が良好であるのは何よりである。ま た、特別支援学級があることで、校内支援委員会も充 実し、通常級の教員が支援学級の教員に学ぶことも多 い。	4.0

【達成度】＝【達成値】／【目標値】

【評価】A:8割以上→目標達成とみなし新たな目標設定 B:8割未満5割以上→8割を超えるまで継続実施 C:5割未満→目標の見直し

平均値

3.91

令和5年度 学校自己評価及び学校関係者評価表

武蔵村山市立小中一貫校村山学園

経営理念	◎施設完全一体型小中一貫校の特色を生かし、多くの人の関わりの中で様々なコミュニケーションの場を通じて人間力を育成する学校を目指す。 (1)義務教育9年間を見通して、人間力の育成を図る学校 (2)施設一体型の特色を生かし、小中一貫教育の推進を図る学校 (3)地域・家庭との共働により、コミュニティ・スクールとして信頼される学校	【学校運営協議会・会長】羽鳥 直美 学校運営協議会（学校評価分） 第1回 令和5年7月14日（金） 第2回 令和5年10月3日（火） 第3回 令和6年2月16日（金）
------	--	--

	経営目標 (中期・短期を明記)	目標達成のための方策	評価指標	目標値		最終評価		自己評価 分析コメント(学校関係者評価委員会の意見・児童・生徒評価、保護者評価等の意見について、参考にする。)	改善策(来年度の目標設定、具体的な取組目標)	学校関係者評価		
				7月 達成値	12月 達成値	達成度	評価			意 見	評価点 (4点満点)	
確かな 学力の 向上	(中期)全児童・生徒に対する 基礎的・基本的な学力の定着	①東京ベーシック・ドリル診断シートの問題を学期毎に実施し、間違えた問題は見直しして提出させる。 ②2年生以上の算数は、2年級4展間の習熟度別で実施し、少人数指導を行うことによって、授業時間内での定着を図る。	・東京ベーシックドリル算数、数学のB評価以上の児童・生徒の割合	75		81	A	評価はAであるが、目標値に対する達成度は約6割であり、学習内容が定着しているとは言えない状況である。	読み、書き、計算の指導を徹底し、授業時間内において、習熟を図るための活動を意図的、計画的に位置付ける。朝の読書時間の読書内容を見直し、ただ読書をするだけの時間から、読む本が教員が選書して身に付けさせた力を明確にした読書の時間とする。	・学力調査で全国平均値から10ポイント程度下回っている観点や領域、改善策を別のアプローチから考える必要がある。 ・家庭学習の仕方について、保護者会や面談などで更に説明をするなどよい。 ・保護者等とより連携して、学力向上に向けて取り組むことが大切である。	3.0	
		・授業のユニバーサルデザイン化を図り、分かりやすい授業実践をする努力を徹底する。	・授業が分かりやすいと回答した児童・生徒の割合 ・分かりやすい授業を行っていると思うと回答した保護者の割合	85		103	A	教室黒板板書のカーテンの設置や椅子へのテニスボール取り付けに力を入れ、教室環境を改善してきた成果が達成値に現れていると考える。	指示や発問の仕方、板書の工夫などについて教員研修等を通じてスキルアップを図り、分かりやすい授業づくりに取り組む。また、机や椅子へのテニスボール取り付けを進め、児童・生徒が集中して学習に取り組める環境づくりを行う。	・教員の分かりやすい授業をするための意欲や取組が評価に表れている。 ・一斉指示では理解することが難しい子供が多い印象がある。SCや支援員をさらに活用できる体制になると良い。	3.3	
		①タブレットPCや既存機器を使うなど、ICT機器を有効活用して、基礎的・基本的な学力の定着を図る。 ②ICT機器を思考ツールとして活用させ、児童・生徒の学習意欲の向上を図る。	・タブレットPCの活用により学力の向上を実感したと回答した児童・生徒の割合 ・タブレットPCを積極的に活用した教員の割合	80		91	A	一人1台端末を効果的に使う授業づくりのための校内研究を進める。一人1台端末によるドリル学習を更に充実させるとともに、家庭学習でも日常的に使うよう保護者への啓発を図る。	一人1台端末を活用する一方で、ノートを取れない子供が多くなっているのではないかと懸念がある。 ・ICTの素喃らしさは理解しているが、人対人の温かみのある教育も必要であると感じる。	3.0		
豊かな 心の 育成	(中期)いじめ撲滅への取組	①小学部、中学部が連携した生活指導を行う。 ②生徒会を本部を中心とした啓発活動を行う。	・学校に安心して登校できる児童・生徒の割合 ・安心して登校させられると回答した保護者の割合	90		95	A	未然防止、早期発見、早期対応が教員間で連携してきている。ふれあいアンケートの実施及び丁寧な聞き取り、指導により、軽微ないじめも見逃さない体制が構築できている。	年度当初に全校連絡会、いじめ防止基本方針を確認し、いじめの未然防止、早期発見、早期対応及び関係機関等との連携についての理解を図る。また、年間3回のふれあいアンケートを継続して実施する。	・学校生活を送るうえで、子供の安全・安心は最優先しなければいけない中で95%の達成度はよい。先生方の努力を感じる。 ・学校が努力している様子が分かる。 ・SNSのトラブルは家庭が主体となって解決すべき問題である。保護者に自覚を促すようにするといふ。	3.7	
	(中期)特別な支援を要する児童・生徒への対応	①特別支援校内委員会を計画的、定期的に実施して、組織的な対応を行うことで、個々の児童・生徒へのきめ細やかな対応の充実を図る。 ②SCやSSW、巡回相談や教育相談室などの関係機関との連携を図る。	・一人一人に応じたきめ細やかな対応があると感じる児童・生徒、保護者の割合	90		92	A	校内でのSCの活用や教育相談との連携は十分に図れている。SCや教育相談等を利用していない保護者について、校内体制についての周知が十分ではないと考える。	特別支援校内委員会の定期的な実施により、児童・生徒の情報共有を密に行い、対応や支援方法について共通理解を図る。SCの教室巡回を充実させ、特別な支援を必要とする児童・生徒への支援について学級担任等と連携を図る。	・特別支援教室や特別支援学級の取組はよい。 ・特別な支援を必要とする子供が多く、特別支援の必要性が大きいと感じる。	3.6	
		(中期)体験学習を基盤にした基礎的汎用能力の育成	①一貫校9年間をとおして、発達段階に応じたキャリア教育プログラムを行う。 ②体験学習の計画段階から児童・生徒が主体でを行い、多様な人間関係の中で自分を律することを学ぶ。	・体験学習等が楽しいと答えた児童・生徒の割合 ・体験学習を通して子供の成長を感じると回答した保護者の割合	95		89	A	体験活動を計画的に実施するとともに、実行委員として児童・生徒が主体となって取り組むことで、肯定的回答が高い結果であると考える。	体験活動の意義を児童・生徒に理解させることで、より主体的な取り組みとさせる。また、各活動の取組内容の見直しを図り、児童・生徒の発達課題に応じたプログラムとなるようにする。	・普段、家庭で体験学習を十分にできていないのでありがたい。 ・体験学習を最大限有意義にするため、日頃の人間関係を大切にしていほしい。	3.7
健やかな 体の 育成	(中期)進んで運動しようとする児童・生徒の育成	①休み時間等の外遊びを奨励し、遊びの中で身体を動かす機会をつくる。 ②なわび週間や持久走週間、大縄大会などの取組を行い、運動習慣の確立を図る。	・すすんで運動しようとする児童・生徒の割合	85		88	A	体育や大縄大会などの活動には、意欲的に取り組む様子がみられる。しかし、放課後や休日では運動する、運動しないの二極化が進む傾向にある。	体育の授業内での体づくり運動や体力テスト種目に関する内容を学び学習として実施し、体の基本的な動かし方などを習得させる。なわび週間や持久走週間、大縄大会などの取組を契機として、以後も継続的に運動に取り組む、運動習慣が定着するよう指導する。	・もっと運動させてもよいと思う。 ・インターネットやゲームで育ってきた子供たちに運動の楽しさ、魅力を伝えて、心まで鍛えられるのは難しい。 ・先生方が、休み時間に子供たちと一緒に遊ぶ姿が見られてよい。	3.2	
		(短期・中期)安全教育の推進	・火災、地震、不審者侵入を想定した避難訓練、引き取り、集団下校の訓練、災害、生活、交通安全に対する安全指導、セーフティ教室、自転車教室、職員急救救命研修により非常に強い学校づくりを行う。	・非常災害時にどのように避難したらよいかわかるという児童・生徒の割合	90		106	A	避難訓練に真剣に取り組む姿が見られる。学級担任等による事前・事後指導が効果的にされていることから、適切な避難行動の理解につながっていると考える。	効果的に避難訓練が実施できている。現在の取組を継続し、児童・生徒だけでなく教員もさらにスムーズに適切な避難行動を取ることができるようにする。	・児童・生徒にAEDがどこにあるかを周知するとよい。 ・子供たちの安全・安心が整えられている様子が見える。 ・地域の方に避難訓練の様子を見ていただく機会があるとよい。	3.7
働き方 改革の 推進等	(中期)ライフワークバランスを基本とした働き方改革の推進	①連絡アプリを活用し、電話による欠席等連絡を減少させるとともに、配布文書のデジタル化により印刷に係る業務時間を縮減する。 ②教育計画を活用し、起案を最小限にするとともに、発出文書、配布文書を減らす。	・働き方改革が推進されていると感じる教員の割合	80		106	A	1学期末から達成値が大きく増加した。連絡アプリを効果的に活用することで、欠席連絡などの保護者に連絡することが大きく減少した。	日常の様々な業務に無駄がないか、簡略化することができるといふ余地がないかを常に意識し、業務の効率化に努める。学期末の成績処理等の時期に勤務時間外労働が増えるため、見通しをもつて行うよう、機を見て管理職が言葉掛けを行う。	・働き方改革が難しい職業であると思うが、改革を進めてほしい。 ・今後ますますSNSを利用して情報発信する機会が増えることを期待しているとよい。 ・連絡アプリでの活用が浸透してきてよい。	3.7	
		(中期)講師や地域人材を活用した学習の推進	①学校の課題解決に向けた研究のため、研究授業には講師を招聘し、一貫校として系統だった指導を行う。 ②授業において地域人材を活用し、学習支援に当たること、基礎的・基本的な学力の定着を図る。	・学校の課題解決に向けて、有効に講師や地域人材の活用が図れたと感じる教員の割合	85		100	A	校内研究での研究授業だけでなく、教員研修にも講師を招聘し、研修が効果的になるようにした。また、講師による授業観察により、指導力の向上を図った。大学生や地域の方を学習支援員として活用し、特別支援が必要な児童・生徒への支援にあたることで課題解決に向けた取組が充実したと考える。	学校の課題に応じた講師を招聘し、教員の指導力の向上のための研修等を実施する。学習支援員の募集をTEPROを利用して行い、人材の確保に努める。	・開かれた学校づくりとして、地域の人材活用を増やしていくとよい。 ・教師自身も自分の住んでいる地域で、地域人材として活躍されたい。	3.7
	(中期)学校からの情報発信による家庭・地域との連携	①学校だより、学年だより、学級だより及びホームページやXを活用し、計画的に学校の情報発信を行う。 ②保護者会や個人面談等では、学校や子供たちの様子などについて分かりやすくまとめた資料を活用し、家庭の理解と協力を得る。	・学校の情報発信に満足していると回答した保護者の割合	90		104	A	学校生活の日常の様子をXで発信することにより、保護者から肯定的な意見をいただいた。また、個人面談を活用して、学校生活の様子を丁寧に説明していることが高い評価につながったと考える。	学校ホームページの定期的な更新に努め、地域の方々に最新の情報を提供する。Xをさらに効果的に活用するため、学園だよりやその他のお便りなどで周知を図る。また、保護者会や個人面談資料作成において、学校が伝えらるべきことだけではなく、保護者が何を知りたいのかという観点で作成する。	・Xの活用は、継続してほしい。 ・今後ますますSNSを利用して情報発信する機会が増えることを期待しているとよい。 ・村山学園の特色になっている取組については、もっと発信していくとよい。	4.0	
【達成度】=【達成値】／【目標値】 【確保】A：8割以上、目標達成率75%以上、新たな目標設定、B：8割未満5割以上、8割を超えてまで継続実施、C：5割未満、目標の見直し、D：5割未満、目標の見直し、E：5割未満、目標の見直し											平均値	3.51

令和5年度 学校自己評価及び学校関係者評価表

武蔵村山市立小中一貫校大南学園第七小学校

経営理念	「地域とつながる小中一貫教育校を目指して」～児童にとって学ぶことが楽しい・教職員にとってやりがいのある・保護者が安心して子供を通わせられる 学校～
------	---

【学校運営協議会・会長】 南谷 尚
学校運営協議会（学校評価分）
第1回 令和5年5月18日（木）
第2回 令和5年11月9日（木）
第3回 令和6年2月29日（木）

	経営目標 (中期・短期を明記)	目標達成のための方策	評価指標	自己評価				学校関係者評価					
				目標値		最終評価 達成度	評価	分析コメント(学校関係者評価委員会の意見・児童・生徒評価 価、保護者評価等の意見について、参考にする。)	改善策(来年度の目標設定、具体記取組目標)	意 見	評価点 (4点満点)		
				7月 達成値	1月 達成値								
確かな 学力の 向上	【共通】学び合う授業の日常的な実践に努め、学習意欲が高まる授業で、基礎的な学力の向上をめざす。	・授業者個々の課題に基づく実践的な授業研究を校内研究として取り組む。 ・小中一貫校目標である「わけをそえて」を意識した授業改善を行う。	保護者アンケートの授業に関する項目の肯定率評価、平均85%以上	85%	89%	A	・達成度が低いのは外国語活動に関する保護者の評価が低い。否定的な評価は3割であるものの、わからないが17%と多く、学習状況についての情報発信がやはり課題と言える。	・授業者が3回以上の授業研究を実施することができた。若手を中心に授業作りが学校の文化の中核になりつつあることは評価される。 ・総合的な数値での目標は達成された。評価について「わからない」の割合は減少しつつある。	・教材や授業研究、授業の工夫に専任できるようにサポートする人材が必要ではないか。 ・教員の多忙が懸念される。	4.0			
	(中期目標) ・学び合いのある授業や家庭学習の定着等を通して新しい時代に必要とされる確かな基礎学力の定着を図る	・日常の授業改善、家庭学習の習慣化等を通して基礎学力の向上を図る。 ・学力向上に関する取組について積極的に情報発信を行う。 ・教員のICT機器活用による授業展開と一人1台端末を活用しての学習を各教科で行う。	保護者アンケートの授業に関する項目の肯定率評価、平均85%以上	79%			73%	・昨年同期より2ポイント改善している。基礎学力についての情報発信は十分とは言えない状況であるので、学校HPなどで学習の様子と課題についてさらに発信をつづけてい。 ・評価そのものについては昨年同期より6ポイント改善している。	・学習活動についての情報発信については、昨年度とほぼ同様である。 ・来年度は、基礎学力の評価方法を検討し、これを評価指標として取り入れていくことを検討したい。	・学校生活や授業風景などがホームページや学級便りで伝えられるが、学力の向上などについての発信があるとよい。	4.0		
	(短期目標) ・言語力の育成を図るため ①言葉で鍛える ②言葉でつながる ③言葉で磨く	学年に応じた読書目標の設定、図書館司書を中心とした素質の整備、読み聞かせ等の活動通して児童の読書習慣の定着を図る。	各学年の読書目標を達成した児童の割合	50%	70%	B	・1月末現在、目標達成者は全校で30%程度となった。目標には到達しなかったが、低学年を中心に児童の読書意欲の喚起は行えたものと考えられる。 ・学校アンケートの読書活動に関する評価は81%の肯定的な評価を得ることができた。	・読書活動は本校の教育活動の重要なものの一つである。読書習慣の指標としてこの目標は次年度にも継続し、達成を図りたい。 ・これまでの取組は一定の成果を上げていると言えるが、もう一段の向上のため次年度は新たな読書活動を推進していく必要がある。	・読書活動は小学校の時からよい。	4.0			
				40%			30%						
豊かな 心の 育成	【共通】学校行事や小中連携の取り組みを通して意欲的に活動する児童の自己有用感を育成する。	小中一貫校としての取組を計画的に実施し、中1ギャップ解消や安全教育の連携を進める。その取組を地域や保護者に参観及び発信する。	保護者アンケートの学校行事、特色ある教育活動、中学との連携に関する項目の肯定率評価、平均80%以上	80%	91%	A	・コロナ禍でできなかった活動が、今年度は計画通りにできた。地域活動は、地域の方に高齢者が増え、今後の活動が継続できるかが不安点がある。さらに多くの保護者の理解と協力を得ることも一つの案である。	・中学との連携活動がコロナ禍前と同様に行うことができた。また、地域行事については夏のラジオ体操と秋の「野の宴」が実施できた。来年度以降はそれぞれの活動に、児童の参加人数を増やすことや保護者と協力できる体制を計画していきたい。	・コロナ禍前と同様に行えることが増えてきていることは評価できる。今後も状況を見ながら続けられると良い。 ・地域活動は、保護者が中心でしっかりやるべき。	4.0			
	(中期目標) 望ましい繋がりの機会を増やすことにより人権尊重の意識と豊かな感性の育成を図る。	日常的に組織的ないじめ防止対策と校内委員会の適宜開催を行う。また、必要な情報の共有、報告を迅速に行う等の取組を通して、「いじめ未解決0」を目指す。また、学校がいじめ対応等について適切な情報発信を行う。	保護者アンケートのいじめに関する項目で肯定的評価80%以上	72%			75%	・今年度は、ふれあい月間の目的や取組をお知らせした。しかし、評価についてはほぼ昨年と同様の結果となっている。 ・アンケート結果では「わからない」が33%と全体で最も高く、やはり学校の取組が保護者まで伝わっていない状況がある。	・いじめ対応については前期に比べ5ポイント減であった。来年度は、ふれあい月間の取組やいじめ対応についての発信を学期1に1回行う。 ・「わからない」の回答は前期と同様である。どのように保護者に伝えていくかは検討である。個人の内容を公開する難しさがある。	・教職員が真摯に対応している事案と対応できていない事案があるのではないかと。 ・難しい課題と思われる。	4.0		
	(短期目標) ・不登校児童の課題に対する組織的な支援を充実させる。	不登校傾向の児童に対する個別支援計画を策定し、具体的な支援を継続する。	不登校児童ごとの支援計画作成	90%	100%	A	・不登校児童についてその主たる原因についての共通理解を教職員全体に行ったが、具体的な支援計画の作成が実際の効果と現れていない。 ・不登校児童についてはSCとつながるなど別室登校ができるようになった児童が複数いるなど、改善に結びついている例も見られるようになった。	・不登校児童の指導に関する支援計画表は全員について作成することができ、学校として組織的な対応をえる態勢は整えられた。 ・来年度以降も新たな評価指標を策定し取り組みは継続していくことが必要と思われる。	・今の取組を継続できるとよい。	4.0			
				50%			100%						
健やか な 体 の 育 成	(中期目標) 児童の基本的な生活習慣の改善を図り、運動意欲の向上を目指す。	栄養教諭を推進役として、本物を学ぶことによって自らの健康や栄養に関する望ましい態度や知識を身につける食育の学習を行う。	・食育、健康作りに関するアンケート項目(新設)での肯定的評価90%以上を目指す	90%	76%	B	・今年度より学校としての食育活動の取り組みを見直しを行った。以前までの評価と比較はできない。 ・各学年で栄養教諭と情報交換などを行い、食育活動を進めることができた。	・七小の特色ある教育活動で重要な活動であるため、全校で今後の取組や教育活動を計画準備中である。	・楽しく学ぶことができるとよいと思う。 ・七小の特色ある教育活動に期待します。 ・「健やかな体の育成」で、食育と虫歯の治療などの項目だけではないかと思っています。 ・体力テストは、項目を絞って実施は可能か。	3.0			
	(短期目標) ・児童の食に関する意識の向上を目指す。 ・課題となっている虫歯の治療率90%以上を目指す。	健診後の連絡を徹底する等の取り組みを継続して行い、虫歯の治療率向上を目指す。	・年度内の虫歯治療率80%以上を目指す。	69%			68%	・虫歯の罹患率そのものは昨年度より低下している。しかし、罹患している児童は家庭的に課題のある場合が多く、治療に結びついていない。 ・学校だよりや保健だよりなどでさらに治療を呼びかける。	・治療率そのものは昨年度と比較して10ポイント程度減である。2学期以降も個別の治療働きかけが続けたきたが、治療室が上がりなかった。 ・来年度は、歯磨き指導とともに校医とともに連携を深め充実を図ってきたい。	・家庭とも連携をとっていかなくてはいけないので難しいと思うが、引き続き呼びかけが必要だと思う。 ・小学生の頃から、歯は大事にすること。	3.0		
	地域や 保護者 から 信頼 さ れ る 学 校	【共通】地域・家庭から信頼され、連携して教育活動を行う学校を目指す。	昨年度に引き続き、学校ホームページの改善や定期的な更新、TETORUによる文書配布に心がけ情報発信の充実を図る。	保護者アンケートの全項目で「わからない」の回答を10%未満とする。(項目数割合)	100%	81%	A	・昨年同期より20ポイントほど改善している。 ・「TETORU」の連絡システムを有効活用したことにより、家庭への連絡内容を充実することができた。評価の改善はこのアプリの効果も含まれていると思われる。	・昨年度に比べて35ポイント程度の改善をみることができた。やはりこれは今年度導入した連絡用アプリケーションの効果が大きい。手軽に連絡できる上、これまで発信が困難だった写真なども配信できるようになったことが大きいと思われる。	・「TETORU」やホームページが友好的に使われていた。 ・デルの過去のデータを消していただけたとありがたいです。	4.0		
		(中期目標) ・学校ホームページとTETORU、学級だよりによる教育活動の紹介を随時発信する。	学校HPやTETORUからの文書を通じて正しくタイムリーな情報を発信する。	保護者アンケートの全項目で「わからない」の回答を10%未満とする。(項目数割合)	81%			81%	・保護者アンケートの21項目中8項目が「わからない」という回答10%以上であった。特に「わからない」の項目が高かったのは、いじめへの取組である。次に高い項目は、外国語の学習状況であった。取組の情報発信の方法の改善が必要である。	・保護者にとって、学校の教育活動や取組がわかりにくいものは、取り組んでいる時期に合わせ「TETORU」で配信するなどいち早くお知らせをしたい。 ・今年度から、学級便りは各担任が学級作りのため手段として発信した。働き方の改善もあり、無理のない情報発信として来年度は保護者へも周知することが必要である。	・「TETORU」やホームページが友好的に使われていた。	4.0	
(短期目標) 適切な情報発信により学校の姿、課題等が地域・家庭に適切に伝わる。		定期的な研修の実施や情報提供を通じて服務事故発生0を維持する。	服務事故発生0の維持	100%	100%	A	・服務事故発生0は学校として当たり前のことであり、継続維持しなければならない。今後も気を許さずに取り組みを続けていかなければならない。来年度以降も評価項目として残り、100%の維持を続けていく。	・服務事故は0であることが当たり前であり、学校として最低限維持しなければならない。今後も気を許さずに取り組みを続けていかなければならない。来年度以降も評価項目として残り、100%の維持を続けていく。	・今まで通り継続してほしい。 ・100%のサービスの維持を続けてください。	4.0			
				100%			100%						
【達成度】=【達成値】／【目標値】 【評価】 A:8割以上→目標達成となし、新たな目標設定 B:8割未満5割以上→8割を超えらずで継続実施 C:5割未満→目標の見直し												平均値	3.82

武蔵村山市立小中一貫校大南学園第四中学校

【学校運営協議会・会長】 椎野 芳幸

学校運営協議会（学校評価分）

第1回 令和5年 4月25日（火）

第2回 令和5年11月24日（金）

第3回 令和6年 3月1日（金）

達成度＝〔達成値〕／〔目標値〕			
【評価】 A：8割以上 → 目標達成とみなし新たな目標設定 B：8割未満5割以上 → 8割を超えるまで継続実施 C：5割未満 → 目標の見直し	平均値	3.55	

令和5年度 学校自己評価及び学校関係者評価表

武蔵村山市立第一中学校

経営理念	学校像 (1)基礎的・基本的な学力の定着や体力の向上を目指し、授業の充実・改善を図り、心身ともに健やかな生徒が育つ学校 (2)地域との連携を図り、地域から学び、地域に貢献できる生徒が育つ学校 (3)道徳的心情や道徳実践力を身に付けることを目指し、心豊かな生徒が育つ学校
------	---

【学校運営協議会・会長】 小泉 亨
学校運営協議会(学校評価分)
第1回 令和5年10月24日(火)
第2回 令和6年2月20日(火)

	経営目標 (中期・短期を明記)	目標達成のための方策	評価指標	自己評価						学校関係者評価	
				目標値		最終評価		分析コメント(学校関係者評価委員会の意見、児童・生徒評価、保護者評価等の意見について、参考にする。)	改善策(来年度の目標設定、具体記取組目標)	意 見	評価点 (4点満点)
				9月 達成値	1月 達成値	達成度	評価				
確かな 学力の 向上	【共通】全生徒に対しての 基礎学力の定着 短期	・タブレット教材を活用した家庭学習推進に取り組む。年度末、継続して活用している生徒8割以上にする。 ・3年生対象の「一中基礎力アップ講座(地域未来塾)」を15回以上実施。全学年対象の夏休み補習教室を15回以上実施する。	・地域未来塾の実施回数 ・eライブラリの継続実施割合(アンケート) ・教員の自己評価 ・生徒の学校評価 ・保護者の学校評価	80		87	B	・タブレット教材の活用で家庭学習の習慣が身に付いたと捉える生徒は43.8%保護者は38.1%であった。基礎学力の向上のため、家庭との連携を密に行い協力仰ぐ必要がある。 ・一中基礎力アップ講座を計画通り実施できた。実施前後にテストを実施したところ大幅な学力向上が見られた。	・各学年に推進教員を設置し、全学年での持ち帰りを日常化できるように取り組む。アンケートにおいて、生徒・保護者ともに家庭学習の習慣が身に付いたと捉える生徒を60%以上にしていく。 ・一中基礎力アップ講座の充実を図る。次年度は、学上上位層を対象とした講座も開講し、実施回数を倍増させる。	・「ITを活用した分かりやすい授業」の効果が出ており、学習意欲の向上も実現できている。 ・家庭学習は年間アンケートを見て改善できていない。個人間の差異が見られ、家庭への一層の働きかけが重要と思う。	3.6
	教員の授業力向上 中期	・ICTを活用した授業研究の推進。全教員がタブレットを活用した授業を学期1回以上実施し、各教科の教員や管理職が観察する。 ・年2回以上道徳科の授業研究を行い、授業改善を図る。 ・教科年間計画を週案に添付させて、管理職及び学年主任が毎月進行状況をチェックして教育課程を適正に管理する。	・タブレット活用授業の実施回数 ・教員の自己評価 ・生徒の授業評価 ・保護者の学校評価	90		100	B	・全教員が学習の内容やねらいに応じてICT機器を活用した授業を実施できた。ICTの活用により、8割の生徒が授業が「分かりやすくなった」と捉えている。 ・道徳の授業については学年で教材研究を行い、実践に生かすことができた。 ・9割の教員が週の半ばまでに翌週の指導計画を立て、見直しをもって指導にあたることができた。1割の教員は、週末に指導計画を立て、週の初めには道案簿を提出している。	・全教員が学習の内容やねらいに応じてICTを活用する。ICT活用により、「授業が理解しやすくなった」生徒を80%以上にする。 ・全学年において『人権プログラム』を活用した授業を必ず実施する。 ・また、教員向けの研修にも活用する。 ・道案の提出を今後も徹底する。次年度は、単元・題材名だけでなく本時のねらいも記載させ、教育課程の管理を行う。	・公開授業を通して、先生方が共通の課題に対して意見を出し合い改善を図っていることが感じられる。 ・生徒のアンケートから、ICTの活用で授業の理解が進んでいることが見える。	3.8
	校内研究による生徒の変容 長期	・年3回の一中校区授業交流を実施し、『学力(特に数学)』『ICT教育』『道徳』の共通課題に対して現状の共有と具体的な対策を最低1つスタートさせる。 ・校内研究を『道徳』と『ICT教育』の2本立てとし、毎月研修会を実施してその成果を日常の授業に生かす。道徳地区公開ではICTを活用した道徳授業を行う。	・校区3校で具体的な対策に取り組めたか ・道徳地区公開の外部評価(保護者・学連協) ・教員自己評価 ・生徒学校評価	80		100	B	・各小学校と連携を密に行い、滞りなく一中校区研究会を開催できた。また、共通課題に対して実態や指導の工夫など情報共有を行い、各学校で系統的に指導ができたようにした。 ・研究主任を中心に毎月研修会を開き、ICT機器の活用や道徳教育など最新の知見の共有を図ることができた。	・ICTや学力については実態の共有や対策を講じることができたが、道徳については十分に共有されていない。次年度は、児童・生徒の実態をもとに一中校区として重点的に扱う内容項目を定める。 ・『ICT教育』に関する研修会を毎月実施し、成果を授業で活用することで、学校アンケートにおいて「授業が理解しやすくなった」生徒を80%以上にする。	・昨年の公開授業の様子と比べて、テーマごとの取り組みで一段と工夫がなされ、生徒の考えを深めることができている。	3.6
豊かな 心の育 成	【共通】いじめ撲滅への取組 短期	・インターネット(特にSNS)に関するモラルを高めるため、保護者・教職員への研修と生徒への教育の機会を全校体制でつくり、年1回以上の実施を定例化し、深刻なネットトラブル発生0を目指す。 ・生徒会主催の「いじめ撲滅キャンペーン」を年2回実施する。	・研修の実施回数 ・教員の自己評価 ・生徒の学校評価 ・保護者の学校評価 ・学校運営協議会の評価	90		77	B	・道徳、総合的な学習の時間を中心に各教科・領域の学習でインターネットについて扱った。また、年度初めにセーフティ教室を実施している。SNS等に関するトラブルは学校外で起こるため、家庭への啓発も喫緊の課題といえる。 ・心を育てる活動は行っていたが、「いじめ撲滅キャンペーン」と銘打った活動は充分にできなかった。	・毎年、セーフティ教室の実施を行う。生徒への注意喚起、教職員の共通理解を深める。年3回の保護者会、年2回の三者面談を通して保護者との連携、協力を行う。 ・年2回の学校生活における生活調査アンケートを行い、生徒の現状を把握して問題がある場合は担任、学年、生活指導部を中心に問題解決のに向けて取り組む。	・安心して学べる学習環境が継続できており、生徒・保護者からの評価も高い。 ・SNS等の表に見えない案件にも目が届くよう、家庭と連携した一層の取り組みをお願いする。	3.6
	特別な支援を要する生徒への 対応 中期	・校内委員会を月2回実施し、1回は特別支援教室入退級判定会議とし、もう1回は不登校生徒対策会議として、不登校生徒に対して組織的に対応できる体制をつくる。 ・SCや巡回心理士の専門性を生かせる場面を増やし、特に保護者相談の件数を増やす。	・不登校生徒20名以内 ・保護者相談件数前年比倍増 ・教員の自己評価 ・学校運営協議会の評価	90		100	B	・特別な支援を要する生徒の情報共有を校内委員会という形で定期的に実施できた。やすらぎ教室については、予算面、常駐する人員の不足など課題がある。今年度、安全管理について見直し、今後も可能な範囲で受け入れる体制を整えた。	・学期に一回以上、不登校対応教員を中心に校内委員会を開き、共通理解を図る。現在、やすらぎ教室の方針等が明確になっていないことから保護者や生徒によって捉え方が違う。次年度は、方針等を明確にして保護者や生徒に示して円滑な運営ができるようにする。	・いろいろなケースに対応できる体制ができており、先生方の負担は大いと思うが、保護者と連携して一層の改善に取り組んで欲しい。	3.5
	挨拶をよくする生徒の育成 長期	・「あいさつ運動」への教員参加を定着させ、生徒会と連携しながら挨拶をする機運を高める。 ・キャリア教育と連携して『社会人としてのマナー』のひとつとしての挨拶の重要性を学ばせ、地域行事やボランティア、校外活動の中で実践させていく。	・「あいさつ運動」への教員参加人数のべ100名以上 ・生徒の学校評価 ・保護者の学校評価 ・学校運営協議会の評価	80		100	B	・「あいさつ運動」とどならず、生徒会、生活指導部の教員を中心に毎朝玄関に立つて行動で示し、挨拶する習慣の定着を図ることができた。 ・礼状の書き方を指導し、職業体験やチキチキフェスティバルでお世話になった方々に対して実際に書いて学んだことを活用する場を意図的に設けた。	・「あいさつをする習慣を定着に留まらず、マナーや礼儀など道徳を中心に学んだことを移動教室や校外学習で生かせるように指導を行う。 ・2年生の職場体験、チキチキフェスティバルを通して地域の方々との交流を深める。	・コロナ禍で地域との交流が少なくなっていたが、行事等の復活で外部の人との交流も増える。挨拶、マナーの意識向上を再度図って欲しい。	3.3
健やか な体 の育 成	「学校2020レガシー」の構築 及び体力向上の推進 中期	・オリンピック・パラリンピック教育の成果を生かし、体育的行事をさらに充実させるとともに、全教育活動における「学校2020レガシー」を構築する。 ・一中の伝統となりつつある『ダンス』授業を中心に、生涯スポーツにつながる体育教育を目指していく。	・体力テスト結果の変容 ・教員の自己評価 ・生徒の授業評価 ・保護者の学校評価	80		112	B	・器械運動の学習、バスケットボール、ラート、ダンスなどオリンピックや地域で活躍している講師を招いた授業を実施した。その結果、運動やスポーツに積極的に関わろうとする生徒が68.4%、わががスポーツに関心をもっているという保護者は63.8%となった。	・複数の単元で専門家を講師に招き、体験学習を複数の単元で行うことを通じて、運動に積極的に関わろうとする生徒の割合を7割にする。	・普段得られない体験がスポーツへの意識向上につながっている。継続して体験の場を提供できるよう取り組んで欲しい。	3.6
	特別活動の充実 長期	・体育的行事や部活動については、昨年度同様、新しい生活様式に基づく計画を立案し、生徒の満足感が最大限引き出せるような活動にしていく。 ・新型コロナウイルス感染症流行前に活動していたボランティア活動を精選し、順次再開させる。	・部活動ガイドラインに沿った部活運営が100%為されているか ・教員の自己評価 ・生徒の学校評価 ・保護者・学連協の評価	75		93	B	・5月かから新型コロナウイルス感染症が5類に引き下げられたことで、少しずつ以前の活動に戻すことができた。原則として部活動ガイドラインに則った活動を目指して実施しているが、これまでの経緯や生徒・保護者の願いなど実態によって変更している面もある。今後も全部活動がガイドラインに則った活動に移行できるようにしていく。	・すべてをコロナ禍以前に戻すのではなく、行事のねらいをもとに内容を精選して効率的かつ効果的な指導を行う。 ・部活動については、部活担当の教員を中心に部活動ガイドラインの徹底を図る。熱中症対策について	・運動会などで自主的な運営に携わり、これまで以上に満足感を味わっている様子が生徒達から感じられる。 ・運営面での地域連携などの体制づくりに協力していきたい。	3.4
	地域行事やボランティア活動への 積極的な参加 短期	・生徒会主催でボランティア参加者を募り、実施後には見える形で参加者を評価する場面をつくり、ボランティアへの参加意欲を高める。 ・ボランティア活動の様子をXやHP等を通じて積極的に発信する。	・自主的な参加者数の増加 ・生徒の自己評価 ・地域・保護者の評価 ・教員の自己評価	70		71	B	・資源回収やフラープロジェクト、青少年の行事などボランティア活動の充実を図り生徒に促しているが、積極的に参加している生徒は18.1%、わが子が積極的にボランティア活動に関わり関心をもっているという保護者は30.1%であった。	・資源回収、フラープロジェクトなど全校で参加者を募集して、ボランティア活動の機会を高める。 ・ボランティア活動の様子を随時、学校便り、学年便り、テリル、X等で配信して積極的に参加しようとする雰囲気醸成し、積極的に参加していると捉える生徒を30%にする。	・ボランティアへの意識は高まっているが、実際に参加するところまでに至っていない。心理的なバリアを下げるためにグループで参加できる機会を作るなど工夫が必要と思う。	3.0
地域との 連携・ 協力	地域の人材を活用した教育活動 の実践 中期	・地域人材を活用できる最大の行事である『チキチキフェスティバル』を感染対策を万全にした上で実施する。PTAとも連携して新規講座を増やし生徒の体験の幅を広げてさらに地域とのつながりを深める。 ・学校運営協議会を学校行事の日にて、行事の参観を通して現状を把握し、協議を深める。	・外部人材活用の実施状況(講師人数) ・教員の自己評価 ・生徒の学校評価 ・学校運営協議会の評価	85		100	B	・感染症対策に留意しながら滞りなくチキチキフェスティバルを実施できた。今年度から獅子舞体験講座を開講し、より地域への理解を深め、まちづくり学習に生かせるようにした。その結果、地元への愛を感じる生徒が62.9%、わが子が地元への愛着をもっていると感じる保護者が66.1%であった。	・チキチキフェスティバルを今後も継続して実施する。地域の特色を生かした講座を設定するとともに、まちづくり学習に関連させることを通じて地元への愛着をもっている生徒及び保護者が70%を目指す。	・チキチキフェスティバルは地域の多くの方が生徒の皆さんと一緒にやることに熱意をもって取り組んでくれている。引き続き内容等の充実を図ってきたい。	3.7
	生徒のタブレットを活用した ICT教育の充実 長期	・ICT委員会によるホームページやXの発信を月1回以上行い、リアルタイムな広報活動を強化する。 ・生徒一人一人が持っているタブレットを活用してICT教育を充実させ、生徒の学力向上につなげる。教育の授業力の向上も図る。	・情報発信回数 ・研修実施回数 ・教員の自己評価 ・生徒の学校評価 ・保護者の学校評価 ・学校運営協議会の評価	80		87	B	・モデルを活用し、宿泊行事の様子や授業の様子を学年だよりや学顔だよりを通して発信した。しかしながら、学校評価では授業に関する項目を中心に「分からない」と回答する保護者の割合が見られた。広報のみを担当する教員は少ないので、学習指導や生徒指導等を進めつつ、安全に気を付けて発信していくことが課題である。	・teturuを活用し、学年だよりや学顔だより、行事での様子を配信していく。また、各学年で授業の様子X(旧ツイッター)で月に1回以上配信している。保護者による学校アンケートで授業に関する項目の「分からない」を1割以下にする。	・保護者へのICTを活用した情報発信が定着している。情報共有が家庭学習やボランティア等の課題にも有効と考えるので一層の注力をお願いしたい。	3.4

【達成度】=[達成度]／【目標値】
【評価】 A:8割以上→目標達成とみなし新たな目標設定 B:8割未満5割以上→8割を超えるまで継続実施 C:5割未満→目標の見直し

平均値

3.50

令和5年度 学校自己評価及び学校関係者評価表

武蔵村山市立第三中学校

経営理念	◎ 生徒一人一人を大切にする ◎ 生徒の良さ、可能性を伸ばす ◎ 教師の持ち味を生かし、勝負する
------	--

【学校運営協議会・会長】 新谷 祐典 学校運営協議会（学校評価分） 第1回 令和5年4月26日（水） 第2回 令和5年10月25日（水） 第3回 令和5年12月13日（水）
--

	経営目標 (中期・短期を明記)	目標達成のための方策	評価指標	自己評価			学校関係者評価						
				目標値 11月 達成値	最終評価 達成度	評価	分析コメント(学校関係者評価委員会の意見、児童・生徒評価、保護者評価等の意見について、参考にする。)	改善策(来年度の目標設定、具体記取組目標)	意見	評価点 (4点満点)			
確かな学力の向上	【中期】 生徒の基礎学力の定着と向上を図る	・「三中スタンダード」を徹底し、授業を展開する ・一人1台端末を効果的に活用し、主体的な学びの充実と確かな学力の育成を図る ・定期考査前の質問教室や地域未来塾、三中サマースクール等を活用し、補充的学習を実施する	・生徒アンケート ・保護者アンケート ・地域関係者の評価 ・補充学習の回数	90 77	85	A	・「授業が分かりやすい」「当ではまる」「だいたい当ではまる」と答える生徒が今年度で70%を超えている。 ・保護者は生徒の様子から、成績などや判断しているが、60%程度しか分かりやすい授業と考えていない。 ・ICTの活用を意図した授業を数回が実施していることで、多くの生徒及び学校運営協議会委員の評価も高い。 ・取組後の質問教室やサマースクールなどは生徒の学力向上につながっている点、保護者の70%以上が感じている。	・今後もICTを活用した授業を実践し、学力向上につながるより効果的な使い方を追及していく。 ・質問教室等はマンネリ化にならない内容の工夫・充実を図る。	・学校評価アンケートでは、92%の生徒が「授業が分かりやすい」と回答している。今後とも分かりやすい授業に取り組んでほしい。 ・生徒が「授業を分かりやすいと感じてよいと思う。全教員がICT活用の研究授業も評価できる。」	3.8			
	【中期】 家庭学習の習慣化と定着を図る	・「学習の手引き」を活用し、家庭学習の計画を立てさせ、学習習慣を身に付けさせる ・保護者会や学年便利などで、家庭学習習慣の確立に向けた保護者への啓発を行う ・タブレット端末の持ち帰りを実施し、学習環境を整える	・生徒アンケート ・保護者アンケート ・地域関係者の評価 ・家庭学習状況調査の結果	85 65			76	B	・家庭学習の習慣については、全学年で70%以上が「当ではまる」「だいたい当ではまる」と感じている。 ・学年が上がるにつれて、生徒の家庭学習の習慣が身に付いていると考える保護者が増えている。 ・生徒に家庭学習の習慣を身に付けさせるためには、保護者の協力が欠かせないが、保護者に任せてだけでなく、学校からの具体的な対策を求めている。		・今後も家庭学習の必要性は道路学習や道徳などの時間を使いながら、生徒に必要か、大切かを呼び掛けていく。 ・タブレットを活用した宿題を提示するなどして、自然と家庭学習の習慣が身に付くようにする。 ・具体的な取組は難しいが、保護者会やよりなどで保護者に地道に家庭学習への取組の重要性を呼び掛けていく。	・家庭学習の習慣の向上には保護者の協力なしには成立しません。保護者に向けての学校からの効果的な働きかけの継続は今後も必要だと思えます。 ・保護者への啓発や、連絡内容への徹底にも少しの工夫が必要に思われます。	3.3
	【中期】 読書活動とNIE教育を推進し、言語能力向上を図る	・朝学活終了後、朝読書を行う。また、学校司書と連携し、学級図書や図書室活用を通して、本の興味・関心を高め、読書量を増やす ・図書委員会を中心に、読書啓発を行う ・社会科を中心にNIEを実施する	・生徒アンケート ・保護者アンケート ・地域関係者の評価 ・本の貸し出し回数	80 79			98	A	・朝読書への取組は、1、2年生では積極的であるが、3年生の中には、疑問に感じている生徒もいる。 ・学校運営協議会委員は読書の意義や必要性を感じているが、保護者には朝読書の取組が十分に伝わっており、その意義が十分理解されていない。		・朝読書の有効性を周知したうえで、今後も朝読書を継続して行い、質を高める工夫をする。(記録をつけるなど) ・朝読書の取組を家庭にも伝える工夫が必要である。(図書使いだけでなく)	・読書は全てに通じるもので積極的に啓発活動を続けてほしい。 ・読書活動で目標(月に何冊読破)や感想文提出など、発表など取り入れて生徒に本への興味・関心の向上を図る必要があると思えます。	
豊かな心の育成	【中期】 いじめ撲滅への取組	・年3回のふれあい月間を活用し、いじめに関するアンケートや教育相談を充実させ、いじめ防止の取組を行う ・SNSに関するトラブルの未然防止のため、情報モラル教育を行う ・道徳の授業において、生命尊重や思いやりなどの心を育成する授業を展開する ・適宜、二者面談等を実施し、生徒の悩み等を聞く機会を増やし、早期発見・早期対応を行う	・生徒アンケート ・保護者アンケート ・教師の自己評価 ・地域関係者の評価	90 83	92	A	・年3回のいじめのアンケートや担任を中心とする見守り等の取組の効果が出て、全生徒の80%以上が学校は「安心して通える学校」と考えている。 ・保護者の70%以上が学校は「安心して通える学校」と感じている。 ・SNSを通していじめなどの問題を、ソーシャル教室等の授業で注意・喚起するなど、生徒の「いじめ防止」の意識を高めることができている。	・今後もいじめアンケートを定期的に実施する。ごまかに二者面談を行わずに、いじめのサインを見逃さず教員間で情報を共有し、組織的に迅速・的確に対応する。 ・教員の人権意識向上に「いじめの対応」、「体罰防止」の研修会を継続して実施し、教員の意識向上を図る。 ・学年会などで、ベテラン教員と若手教員で、生徒理解、生徒指導について話し合う時間を十分確保し、必要に応じて研修を行う。	・生徒の全てを把握することは不可能ですが「積極的な視点をもって引き続き早期発見・早期対応の継続を期待いたします」 ・SNSに関するトラブルがあればもっと表面化して欲しい。 ・なかなか踏み込みにくい項目ですが、学校に通う生徒皆が素晴らしい学生生活を送れるようになってほしいと思います。	3.3			
	【中期】 特別な支援を要する生徒への対応	・特別支援教室、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、関係機関と連携し、教育相談活動の充実を図る ・特別支援教育の手法を活かした学級経営や教科指導について学び、実践すること、個に応じた指導を推進する	・教師の自己評価 ・地域関係者の評価	90 71			78	B	・SC、SSWを含めた教育相談委員会を週1回実施し、配慮が必要な生徒の情報を共有し、また対策を講じている。 ・スクールカウンセラーと生徒の全員面談を実施し、生徒理解に努める。 ・個別の支援対策としての別室指導を丁寧に行っている。 ・上記の活動が、学校運営協議会委員にはある程度認識されているが、教員は対応が「不十分ではないか」と感じている。		・不登校生徒の対応について、教員間で意識を共有し、また研修などを通して不登校生徒の対応についての理解を深める。 ・校内別室について、正規教員を配置し、不登校生徒に対する指導の充実と未然防止を図る。 ・三者面談や必要に応じた家庭訪問を継続的に実施する。	・生徒の気持ち、心の変化を考慮してケアして頂きたいと思えます。 ・不登校生徒の別室登校など行われていることは評価できる。 ・保護者、教師、スクールカウンセラー等が密に連携を図り、当該生徒が過ごしやすい環境作りを務められた。	3.3
	【短期】 あいさつの励行と礼儀・マナー等の向上	・いつでもしっかりと挨拶ができる生徒を育成する ・来校者等に対して挨拶や礼儀をわきまえた行動がとれる生徒を育成する ・市の礼儀読本等を活用し、礼儀やマナーを身に付けさせる	・生徒アンケート ・来校者アンケート ・教師の自己評価 ・地域関係者の評価	90 92			102	A	・生徒は挨拶の習慣が身に付いていると感じおり、また保護者の80%近くも自分の子供はよく挨拶していると感じている。 ・学校運営協議会委員は、生徒がよく挨拶していると評価している。 ・昨年度より改善したと思われる。		・今後も校舎外や部活動での挨拶でも定着化が図れるよう、教員自らが積極的に挨拶すること生徒への周知を図る。 ・校長面接、地域の方々による面接練習等を通して礼儀の指導をしていく。 ・道徳や朝礼、各学年集会等で挨拶、マナーの意義について生徒に考えさせる指導を継続して行う。	・学校内では、生徒に限らず教員も良く挨拶をしていく。教師が良い見本になっていると感じる。 ・生徒はよく挨拶できていると思います。 ・登下校のマナー・交通ルールを守るのは当たり前のことだが、伝え続ける事が大切だと考える。	
健やかな体の育成	【中期】 基礎体力の向上を図る	・体育の授業時における基礎体力づくりやミニオリンピックの実施 ・家庭での体力向上への取組を推進する ・運動会の個人種目の実施 ・市の駅伝大会等への参加	・生徒アンケート ・保護者アンケート ・教師の自己評価 ・地域関係者の評価	90 73	81	A	・全生徒の90%以上が、体力向上に積極的に取り組んだと感じているが、保護者には状況が伝わっていないのか、70%程度しか取り組んでいると感じていない。 ・学校運営協議会委員には取組の様子がよく伝わっている。	・今後も個人種目を取り入れた運動会を継続し、またミニ・オリンピックも年3回実施し、生徒の体力向上を図る。 ・運動が苦手な生徒も取り組みやすい種目や競技なども検討し、全体的な体力の向上を図る。	・運動に苦手意識をもつ生徒さんでも楽しく基礎体力をつけられるカリキュラムを導入するなど取組を継続していただきたいと思います。 ・運動会の実施、駅伝競走大会への参加他、部活動でも優秀な成績を収めている、基礎体力の向上につながっている。 ・体力向上に向けて今後も取り組んでほしい。	3.6			
	【短期】 食育を推進し、健康に過ごす意識の向上を図る	・給食時の放送を利用して、食材等の紹介をする取組を行い、食について意識を高めさせる ・「弁当の日」や「食育の日」を実施し、食育を推進する	・生徒アンケート ・保護者アンケート ・教師の自己評価 ・地域関係者の評価	90 104			115	A	・家庭科と関連させることで、生徒は弁当づくりに積極的にになり、また、食育講演会を実施することで、生徒の食に対する意識と理解が深められたと考える。 ・保護者や学校運営協議会委員にもこの取組が十分周知されており、その意義に対する評価も高い。		・今後も「弁当」の作成と食の講演会を並行して行い、食育に対する一層の理解が進むようにする。 ・保護者への理解と周知が進むように、「弁当の日」「食育の日」によって、どの程度効果が見られたのか、便利などで保護者等に発信する。	・食事を通じ、食べる事の意味、作る事の意味、いただく事の意義を生産者を通じ、生徒に伝えることを願います。 ・「食も全てに通じるので、食べる楽しさとする喜びを教えてください」 ・生徒自らお弁当作りに関わる事で「食材、調理に興味をもつて」とても良い事だと思います。	3.6
開かれた学校の推進	【短期】 小中一貫教育の推進	・三中校区合同研修会を年間2回開催し、2学期に研究授業と協議会を実施する ・「ふれあいフェスティバル」を実施し、生徒と児童の交流を図る ・キャリア教育交流、委員会連携、研究授業の参観	・生徒アンケート ・保護者アンケート ・教師の自己評価 ・地域関係者の評価	90 95	105	A	・今年度は「ふれあいフェスティバル」が中止となり、委員会交流やキャリア教育交流が中心であったが、生徒の認知度は高く、楽しみにしている。 ・保護者や学校運営協議会委員の認知も進んでいるが、課題や目標が見えにくいという指摘もある。	・保護者へはお便りやツイッターなどで発信しているが、地域にどのように発信していくか、検討が必要である。 ・「ふれあいフェスティバル」の運営方法については、さらによい方法を検討していく事を願っています。	・小中9年間でのような児童生徒を育成するのが小中で共通理解を見える形が出てほしい。 ・小中連携を図る事ができると良いが課題も多いと思えます。 ・引き続き、継続していく事をお願いします。	2.9			
	【中期】 保護者・地域に学校の取組を発信し、開かれた学校を推進する	・地域人材を活用した「ふれあいフェスティバル」や「職場体験」等の学校・学年行事を実施し、学校・学年だよりやHPを活用して、発信していく。 ・6月に学校公開週間を実施し、土曜授業を学期に1回以上行い、保護者や地域の方が参観できる機会を増やす。	・生徒アンケート ・保護者アンケート ・教師の自己評価 ・地域関係者の評価	90 93			103	A	・学校公開やtetoru、X(旧Twitter)、各種便りなどで学校の様子が分かるように考える保護者が70%以上いる。		・来年度も学校公開週間等の通知を事前に十分行う。またtetoruを使っての配信に対して、既読となる保護者の割合が70%程度なので、さらに改善するために呼びかけを強める。	・3中だよりや学校のホームページで行事や取り組みがよく理解できます。 ・参観の機会が増えた事は良かった。 ・学校生活に関心のある保護者もいるが、なかなか地域の方々に開かれた学校生活の姿を伝えることができていない。地域の方々に開かれた学校生活の姿を伝えることができていない。	3.6
	【中期】 基礎的・基本的事項を向上させ、自己の将来について考える	・各種検定やコンクール等に自主的に取り組み、学習意欲の向上と個性の伸長を図る ・まっすぐに学習として、ゼロカーボンについて取り組み、これからの生活について考える機会をつくる	・生徒アンケート ・地域関係者の評価 ・検定受験者数、コンクールの応募数	80 70			87	A	・英検や数検などの取得やポスターなどのコンクールに積極的に出品する生徒とそうでない生徒に二極化している。 ・学校運営協議会委員は生徒が積極的に参加していると評価している。		・次年度もさらに資格取得やコンクールへの出品が増えるよう、情報提供及び参加を呼びかけていく。	・色々な事に、取り組んでいることを感じます。引き続き、指導をお願いします。 ・生徒が積極的に取り組んでいることは、そのための家庭、教員のフォローも上手に行っている。 ・広く学校の外に目を向ける機会でもあり自己肯定感を育む機会にもなる。今後も様々な挑戦の機会を与えてあげて欲しいと思えます。	

【達成度】＝【達成値】／【目標値】
 【評価】A:8割以上→目標達成とみなし新たな目標設定 B:8割未満5割以上→8割を超えるまで継続実施 C:5割未満→目標の見直し

平均値

3.47

平均值	3.60
-----	------

第 26 回生涯学習フェスティバルの開催結果について

- | | | | |
|---|-------|--|-----------|
| 1 | 主 催 | 生涯学習フェスティバル実行委員会 武蔵村山市民会館 | |
| 2 | 共 催 | 武蔵村山市教育委員会 | |
| 3 | 日 時 | 令和 6 年 3 月 3 日（日）午前 10 時から午後 3 時まで | |
| 4 | 開 会 式 | 令和 6 年 3 月 3 日（日）午前 9 時 40 分
(さくらホール小ホール) | |
| 5 | 場 所 | さくらホール（武蔵村山市民会館）
(小ホール、展示室、集会室、会議室、研修室、実習室)
市役所市民駐車場 | |
| 6 | 体験ブース | 11 団体
木工作、和太鼓や鳴り物に触れてみよう、紙飛行機を飛ばそう、ミニいけばな体験、ペーパークラフトのかご作成、オリジナルバック制作、壁打ち体験（テニササイズ）、チョークアート、ハーバリウムキーホルダー作成、オリジナルヘアゴム作成、多肉植物の寄せ植え、マジックショー&レクチャー | |
| 7 | 舞台出演 | 9 団体
合唱、手話ダンス、ピアノ・ヴァイオリン演奏、リコーダーアンサンブル、フラダンス、ヘルマンハーブ演奏、コーラス、尺八演奏、民謡と踊り | |
| 8 | 販 売 | パン、シフォンケーキ、ドーナッツ、焼き鳥、焼きそば、フランクフルト、ポップコーン、わたあめ、飲物等 | |
| 9 | 参加者数 | 一般来場者数 | 約 1,000 人 |
| | | スタッフ（実行委員） | 6 人 |
| | | ボランティア | 33 人 |